

民博での研究者生活を振り返る：「民博あるが故に我あり」

岸上伸啓（学術資源研究開発センター）

ご紹介にあずかりました岸上伸啓です。この3人の中では民博の在籍期間は一番短く、28年3か月あまりです。1996年1月に北海道教育大学函館校から民博に移動しました。民博には四半世紀以上いたわけですが、思い返すとあつという間のように感じます。

本日は民博での私の研究活動を振り返りますが、最初にタイトルについて説明いたします。主題は分かると思いますが、副題の「民博あるが故に我あり」は、デカルトの『方法序説』の中に出てくる命題「我思う、故に我あり」をもじったものです。

このことを説明したいのですが、まずエピソードをひとつ。

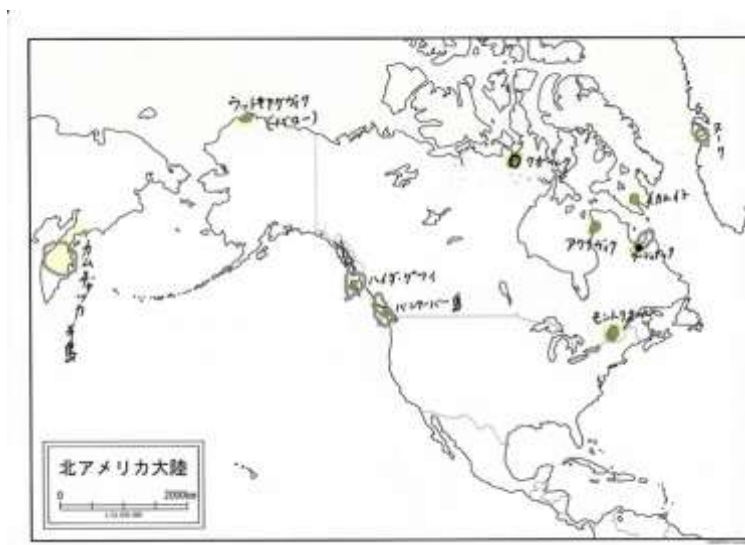
15年以上も前のことです。亡くなられた江口一久先生がJR茨木駅近くの居酒屋で私の頭をたたきながら、「お前なあ、お前が偉いんじゃないからな。みんなが偉いんやで。」と言われたことが心に深く刻み込まれています。私もその通りだと思いましたし、いまでもそう思っています。

その言葉を思い出すたびに、私の研究は、民博があったから続けることができたし、その成果もそれ故に蓄積してきたのだと自覚してきました。民博はご存知のように世界に誇ることができる、博物館機能と大学院機能を有する文化人類学・民族学および関連諸科学の研究所です。私の研究は、民博と言う組織体を含め様々なアクターとの関係性の中で生み出されたのだ、ということです。本日は、自分自身の研究活動をみんなくとの関係を中心に振り返ってみたいと考えます。

最初にこの40年の調査地域について概略した後に、民博における(1)共同研究、(2)展示、(3)大学院について話したいと考えます。

私が初めてカナダ・イヌイット社会で現地調査を始めたのは1984年8月です。それ以降おもにカナダのアクリヴィク村、モントリオール、ハイダ・グワイ、バンクーバー島およびアラスカのウットキアグヴィクなどで調査を実施してきました。それは地図上で示しますと

次の通りです。



研究の内容を簡単に紹介いたしますと、カナダ極北地域のイヌイト社会では、1984年から2016年にかけてアクリヴィク村で生業活動や家族・親族、名前、食物分配について調査しました。都市地域のカナダ・イヌイト研究については、1996年から2012年にかけてモントリオールでイヌイトの都市生活や社会問題について調査しました。アラスカのイヌピアット研究では、2006年から2013年にかけて捕鯨と分配、儀礼について調査を行いました。そして、1997年以降、特に2017年から現在にかけては、カナダのハイダ・グワイやバンクーバー島においてハイダ民族やクワクワカワクウ民族のアートや儀礼について調査をしています。これらの他、グリーンランド、カムチャツカ半島、米国ニア・ベイ居留地などでも何度か調査を行いました。

本日は、民博においてどのような共同研究や展示活動、大学院教育を行ってきたかについて振り返ってみたいと思います。

(1) 民博の共同研究、シンポジウム、成果本

最初に民博の共同研究についてお話をいたします。

私は、共同研究と科研調査を組み合わせることで研究を進めてきました。代表を務めた共同研究は、7件です。その間、科研は基盤Aが4件、基盤Bが1件でした。加えて、新旧の機関研究を1件ずつ実施しました。また、それらと連動して成果発信の国際シンポジウム6件と編著を中心に成果本20冊以上を刊行しました。

共同研究は大きく分けると、(1)「先住民による海洋資源の利用・流通・管理」に関する応用人類学的な研究、その流れをくむ(2)捕鯨文化研究、(3)分配・贈与論研究、(4)環北太平洋地域の先住民文化の研究です。

第1の海洋資源に関する共同研究は、石毛直道館長の時に先端民族学研究部が発足し、

そのプロジェクトとして、秋道智彌先生の助けを借りて、先住民の海洋資源の利用・流通・管理の研究に取り組みました。私の早稲田大学時代の恩師、西村朝日太郎先生は、海洋民族学の提唱者でした。その影響で、イヌイトによる海獣や魚介類などの海洋・水産資源の利用、流通、管理の問題を研究することにしました。多くの先住民は国家や国際組織の規制のもとで狩猟や漁労を行なっています。私はそれらの規制の下でイヌイトがいかにかシロイルカなどの水産資源を持続可能な形で利用・管理しているかを研究しました。そして2002年には国内外の研究者を招聘し、国際シンポを開催しました。このシンポには、ミルトン・フリーマン、フィクレット・ベルケス、マーク・ナタル、ジョージ・ウエンゼル、スチュアートヘンリ（本多俊和）ら、当時、第1線で活躍している先生方が参加して下さり、非常に盛況でした。その成果として、SES(Senri Ethnological Studies)から2005年に『Indigenous Use and Management of Marine Resources』(Senri Ethnological Studies no.67)(with James. M. Savelle, eds. Osaka: National Museum of Ethnology)を出版しました。

その後、松園万亀雄館長のもとで「文化人類学の社会的活用」に関する研究が機関研究となったので、その一端として「先住民の開発」に関する共同研究を開始し、私自身は都市イヌイトの社会・経済開発の問題を取り上げました。この問題は、1996年から1998年にかけて松山利夫先生が実施した共同研究「都市の先住民研究」に端を発するものでしたが、私自身のモンリオール在住のイヌイト研究は、偶然の結果でしたが、世界で初めての体系的な都市イヌイトの民族誌的研究となりました。その成果は、複数の英語論文で発表しました。

第2の共同研究は、海洋資源に関する共同研究を発展させ、世界の捕鯨問題を中心的なテーマとして実施しました。私は、もともと大型クジラには関心が無かったのですが、秋道先生やジェイムズ・サベール先生の影響を受けて2006年9月にアラスカのバロー（現在のウットキアグヴク）という村に行きました。帰る前の日にクジラが獲れたとの知らせが入り、村の近くでの解体作業を見に行きました。そのことがきっかけで、イヌピアットの捕鯨活動、特にクジラ肉の分配について調査をすることにしました。

当時は日本の調査捕鯨が商業捕鯨の隠れ蓑として国際的に批判を受けていたので、先住民による捕鯨のみならず、すべての種類の捕鯨に関する共同研究を実施しました。最初の共同研究プロジェクトは、捕鯨文化を研究している比較的仲間内で行いました。

それが終了した後、次の共同研究プロジェクトは、当時、共同利用委員会の外部委員であった東京外国語大学 AA 研の大塚和夫先生の意見を受けて、反捕鯨の立場に立つ活動家やマスコミ関係者にも参加してもらいました。議論が白熱し、落としどころを見出すのが非常に難しく、悩みと苦勞の多い研究会の運営となりました。成果としては国際シンポジウムを2度行い、その成果はSESなどから出版いたしました。

当時、關雄二先生の後を受けて、私は先端人類科学研究の部長でしたが、館でもっとも重要な運営会議をすっばかして、アラスカ調査に行き、当時の須藤健一館長に大目玉をくらっ

たことを覚えています。

第3の共同研究としては、分配・贈与論研究の共同研究を実施しました。このテーマは、私がカナダのMcGill大学の大学院生であった頃から関心を持ち続けていましたので、1998年に民博で国際狩猟採集社会会議（CHAGS8）の時には恩師のG. Wenzel先生に協力をお願いして「分配(sharing)」に関するセッションを組みました。それから10年以上たちましたが、2012年10月から2015年3月にかけて贈与・分配に関する共同研究を実施しました。そこでは、マルセル・モースの贈与論をもとに、狩猟採集民の分配や現代社会における献血や臓器移植などを取り扱いました。この研究会には、丹羽典生さんや藤本透子さん、中川理さん、小川さやかさんらが参加して下さり、世界各地の多様な事例の検討を行いました。大変に興味深い研究会でありましたが、みんなが納得する明快な結論をえることが出来ないという結果となりました。共同研究の成果は、文化人類学会の分科会での発表や日本語の成果本『贈与論再考』として世に問いました。私自身は、2021年末にSpringerから『Food Sharing in Human Societies』を出版しました。

私の食物分配研究は、カナダ・イヌイトとアラスカのイヌピアットの事例に基づいた理論的と言うよりも民族誌的な研究でした。そこからの結論のひとつは「人間とは他の多くの生き物とは異なり、与えることができる動物である」というものです。人類学では、マルセル・モースの贈与論の考え方、すなわち、「与える義務、受け取る義務、戻す義務」という視点から分配を見ることやレヴィ＝ストロースの交換論的見方が主流です。すなわち文化人類学分野では、人間間のモノの流れは「交換」とみるのが主流です。私自身の考え方は、交換論と必ずしも矛盾するものではありませんが、人間が与えるもしくは手離すことに着目した分配論です。この著作に対しては海外の書評では賛否両論でした。とくに進化生態学者からは数量化して実証することが難しいなど厳しい意見を投げかけられましたが、私自身は自分の考え方が正しいと思っています。

第4の共同研究は、環北太平洋地域の先住民文化の比較研究です。1980年代から1990年代にかけて東京大学の渡辺仁先生が「北洋文化圏」の研究を提唱し、同地域内での諸文化間の共通性と差異を適応と伝播・交流の観点から研究されました。当時の私は渡辺先生の研究に関心を持っていましたが、私はイヌイト研究一筋でした。そうこうするうちに北海道教育大学函館校に勤めておりました1993年夏から1994年春にかけて、文科省の在外研究でカナダに行く機会がありました。帰国時に米国のワシントンDCのスミソニアン協会国立自然史博物館の極北研究センターを訪れた際に、ウィリアム・フィツヒュー先生から日本にいるのになぜ北太平洋地域の研究をしないのかと意見を言われました。当時の北海道教育大学の学長は民族音楽の谷本一之先生であり、カムチャツカ半島でコリヤークの民族芸能の研究を行っておりました。このため谷本先生のチームの一員として1994年と1996年に現地調査に小樽商科大学の大島稔先生らとともに参加させていただきました。

1996年1月に民博に着任いたしました。当時、大塚和義先生が北太平洋の先住民交易と美術工芸について研究され、特別展を予定されておりましたので、佐々木史郎さんとともに共同研究と特別展「ラッコとガラス玉」プロジェクトに参加しました。

以上のような背景があり、環北太平洋地域の先住民文化の比較研究を実施してみたいと考え続けてきました。そして2014年1月に環北太平洋地域の先住民文化の国際シンポジウムを民博の客員教授であったDavid Koester先生らとともに、多数の海外からの報告者を得て、実施しました。その後、北海道大学の加藤博文さんや富山大学・北海道立北方民族博物館の呉人恵さん、東北大学の高倉浩樹さん、静岡大学の堀博文さんらに協力をお願いして、私の最後の共同研究会として環北太平洋地域の先住民文化に関する比較研究を2020年4月から開始しました。コロナ禍であったこともあり、オンラインによる研究会の開催が多かったのですが、2023年11月にはワシントン大学のベン・フッツヒュー先生、米国科学アカデミーのトマス・ソーントン先生、元アバディーン大学教員のアレクサンダー・キング先生らを招いて、小規模ながら国際シンポジウム“Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific”をオンライン併用で開催することができました。この研究会の成果としては、『環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する研究動向』(SER156号)(国立民族学博物館、2022年)と『北太平洋の先住民文化：歴史・言語・社会』(臨川出版、2024年)を刊行いたしました。

今後は、英語で成果刊行を行いたいと考えています。私自身は、環北太平洋地域の先住諸民族の社会組織やアート、名前と命名、捕鯨などの個別の具体的なテーマについて比較研究を続けていきたいと考えます。そして若い研究者にこのプロジェクトを引き継いでもらいたいと考えます。

(1) 実践人類学研究：先住民による海洋資源の利用と管理に関する研究

プロジェクト名

共同研究「先住民による海洋資源利用と管理」(1999年度～2001年度)

共同研究「先住民による水産資源の分配と商業流通」(2002年度～2003年度)

科研(A)「先住民による海洋資源の利用と管理：漁業権と管理をめぐる人類学的研究」
(1999年度～2001年度)

科研(A)「先住民による海洋資源の流通と管理」(2003年度～2006年度)

共同研究「開発と先住民族」(2005年度～2007年度)

機関研究「文化人類学の社会的活用」領域代表(2004年度～2008年度)

機関研究「日本における応用人類学の展開のための基礎的研究」(2004年度～2008年度)

国際シンポジウム

2002 Monbukagakusho International Symposium 2002 “New Interdisciplinary Approaches to the Study of Indigenous Use and Management of Migratory Marine

Resources” , National Museum of Ethnology, Osaka, Japan (2002.12.2-12.6)

成果本

2002『紛争の海 水産資源管理の人類学』(秋道智彌との共編) 人文書院.

2003『海洋資源の利用と管理に関する人類学的研究』(SER46号) 国立民族学博物館.

2005『Indigenous Use and Management of Marine Resources』(Senri Ethnological Studies no.67)(with James. M. Savelle, eds.) National Museum of Ethnology.

2008『海洋資源の流通と管理の人類学』明石書店.

2008『北アメリカ先住民の社会経済開発』明石書店.

2008『先進国における援助事業への文化人類学(者)の活用についての現状と課題』独立行政法人 国際協力機構.

2009『開発と先住民』明石書店.

(2) 捕鯨文化研究

プロジェクト名

共同研究「捕鯨文化の実践人類学的研究」(2008年度～2011年度)

共同研究「捕鯨と環境倫理」(2016年度～2019年度)

科研(B)「北アメリカ地域における先住民生存捕鯨と先住権」(2009年度～2013年度)

科研(A)「グローバル化時代の捕鯨文化に関する人類学的研究」(2015年度年～2018年度)

国際シンポジウム

2011 The International Symposium of the National Institutes for the Humanities: "Whaling Cultures of the World: Past, Present, and Future" , National Museum of Ethnology, Osaka, Japan (2011.3.11-3.13)

2018 International Symposium "Whaling Activities and Issues in the Contemporary World", National Museum of Ethnology, Osaka, Japan (2018. 11. 30 - 12. 1)

成果本

2012『捕鯨の文化人類学』成山堂書店.

2013『Anthropological Studies of Whaling』(Senri Ethnological Studies no.84)(with Hisashi Hamaguchi and James M. Savelle, eds.) National Museum of Ethnology.

2013『(Research Report) Sharing and Distribution of Whale meat and Other edible Whale Parts by the Inupiat Whalers in Barrow, Alaska, USA』 Kishigami's office at the National Museum of Ethnology.

2014『クジラとともに生きる アラスカ先住民社会の現在』臨川書店.

2019『世界の捕鯨文化——現状・歴史・地域性』(SER149号) 国立民族学博物館.

2022『捕鯨と反捕鯨のあいだに 世界の現場と政治・倫理的問題』臨川書店.

2021『World Whaling: Historical and Contemporary Studies』(Senri Ethnological Studies no. 104)Osaka: National Museum of Ethnology.

(3) 贈与・分配研究

プロジェクト名

狩猟採集社会国際会議(CHAGS8)の分科会“Social Economy of Sharing”

成果本

2000 『The Social Economy of Sharing: Resource Allocation and Modern Hunter-Gatherers』 G.W. Wenzel, G. Hovelsrud-Broda and N. Kishigami (eds.) SES No.53. National Museum of Ethnology.

プロジェクト名

共同研究「贈与論再考——「贈与」・「交換」・「分配」に関する学際的比較研究」(2012年度～2014年度)

学会分科会

2016 日本文化人類学会第50回研究大会分科会「贈与論再考 人類社会における贈与・交換・分配・再分配の検討」南山大学S棟B会場(S-23)において(2016.5.29)

成果本

2016『贈与論再考 人間はなぜ他者に与えるのか』臨川書店.

2021『Food Sharing in Human Societies: Anthropological Perspectives』Springer.

(4) フォーラム型情報ミュージアム

プロジェクト名

フォーラム型情報ミュージアム構築プロジェクト (2014年度～2017年度)

フォーラム型情報ミュージアム構築プロジェクト (強化型プロジェクト)「北米北方先住民の文化資源に関するデータベースの構築に関する研究—民博コレクションを中心に」(2016年度—2017年度)

成果 DB

<https://ifm.minpaku.ac.jp/canada/>

(5) 環北太平洋地域の先住民文化の比較研究

プロジェクト名

科研(A)「北米アラスカ・北西海岸地域における先住民文化の生成と現状、未来に関する比較研究」(2019年度～2023年度)

共同研究「環北太平洋地域の先住民社会の変化、現状、未来に関する学際的比較研究—人類史的視点から」(2020年度～2023年度)

国際シンポジウム

2014 The International Symposium "Comparative Studies of Indigenous Cultures around the North Pacific Rim: Focusing on Indigenous Rights and Marine Resources" organized with David Koester, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan (2014.1.11-1.13)

2023 The International Symposium "Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific" held at the fourth seminar room, National Museum of

Ethnology, Osaka, Japan (2023 11.3 – 11.5)

成果本

2015『環北太平洋地域の先住民文化』(SER132号) 国立民族学博物館.

2022『環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する研究動向』(SER156号) 国立民族学博物館.

2024『北太平洋の先住民文化：歴史・言語・社会』臨川出版.

(2) 博物館活動（特に展示と収集）

次に民博での展示や資料の収集についてお話いたします。民博に着任した当時は、はずかしながら私自身はモノや展示にはあまり関心はありませんでした。しかし、結果として複数の特別展や企画展に関わってきました。ここでは、すべてではありませんが、印象に残っている特別展と企画展、資料収集等についてお話いたします。

最初は、中牧弘允先生が実行委員長を務められた 1999 年度特別展「越境する民族文化」の中で、イヌイット・アートの展示を行いました。この特別展のために 1998 年に調査地域であるハドソン湾沿岸のイヌイットの村々を訪問し、イヌイットの方が制作した彫刻品を収集することが出来ました。この収集では 1 人で約 800 万円を使用することができました。今の民博の予算状況では考えられないことでした。

次に実行委員として参加したのは大塚和義先生が実行委員長を務められた 2001 年度特別展「ラッコとガラス玉：北太平洋の先住民交易」プロジェクトでした。このプロジェクトは、北太平洋地域での先住民交易とその結果としての美術工芸品制作の活性化をテーマとしたもので、科研調査、共同研究、展示、標本資料収集を組み合わせたものでした。この時には、大塚先生の科研で、大塚先生ご夫妻とニューヨーク、シカゴ、シアトル、バンクーバー、アンガレッジ、フェアバンクス、シトカなどにある博物館やバンクーバー島のアラートベイをはじめとする先住民コミュニティーを訪問し、調査を行いました。とくに、バンクーバー島をバスで縦断し、北西海岸先住民に関係する地域博物館をひとつひとつ訪ねて、資料調査を行いました。この時には、クワクワカワクウ民族の伝統文化や言語の復興で中心的な役割を果たされたグローリア・ウェブスター＝クランマーさんに知遇を得、現地では大変にお世話になりました。彼女の仲介で彼女の兄である有名なアーティスト、ダン・クランマーさんに丸木舟を制作していただきました。この丸木舟はダンさんが最後に制作した遺作となりました。このプロジェクトでは、アラスカおよび北アメリカ北西海岸地域の先住民交易を担当し、調査・研究やクランマーさんの丸木舟などを展示しました。

2002 年には、アムウェイ株式会社からイヌイットの滑石彫刻のコレクションの寄贈を受けました。地球環境問題の重要性を知らしめる目的で、「極北のイヌイット・アート」展がニューヨークを皮切りに 1994 年 1 月まで米国やカナダ、日本などの 5 カ国 12 カ所で開催されました。そして日本での巡回展が再び決まり、1994 年 3 月から 2001 年 9 月まで札幌や仙台、東京などの 9 都市 13 カ所で開催されました。日本での巡回展の終了後、当時の財

務大臣塩川正十郎氏を仲介者として2001年9月に日本アムウェイ株式会社から石毛直道館長に同巡回展のアート作品について寄贈の申し入れがありました。アムウェイという企業から寄贈を受けてよいかどうかを当時の藤井龍彦先端民族学研究部長が調査した上で、寄贈を受け入れることになりました。

このコレクション自体は、滑石彫刻品や版画・絵画、衣類などを中心とした第1級のアート作品150点あまりからなっています。これらの作品のいくつかを用いてコレクション展示を行ったあと、当時の展示の責任者であった石森修三先生と久保正敏先生からの指示で、2003年にアメリカ展示場リニューアルに伴い地域テーマ展示「極北のイヌイット・アート」をアメリカ展示場の3分の1を使って行いました。イヌイットのアート作品が2010年11月まで約7年間、常設展示場で展示されました。イヌイット文化の研究者としてはイヌイットの貴重なアート作品を寄贈していただき、それらを展示できたことは大変にありがたいことでした。

2009年には、実行委員長として特別展「自然のこえ 命のかたち—カナダ先住民の生み出す美」を齋藤玲子さん、伊藤敦規さん、当時、大阪大学の太田敬一さん、版画家の田主誠さんらとともに実施しました。この展示会は、当時のカナダ文明博物館のカナダ先住民資料の至宝と民博のイヌイット・北西海岸先住民資料を用いて、カナダ先住民文化の紹介を行いました。また、展示図録と北西海岸先住民とイヌイットの版画集を出版しました。

その後、佐々木史郎さんや齋藤玲子さんが実行委員長を務めたアイヌ関連の展示会に協力したほか、実行委員長として3つの企画展を実施しました。

私が実行委員長として実施した最初の企画展は、2014年の秋の企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」でした。私は、イヌイット文化の研究者でありましたが、グリーンランドのイヌイット文化については素人同然でした。当時、展示関係の責任者であった吉田憲司先生からデンマーク政府からグリーンランドを日本国民に紹介する展示をしてほしいかという要請があるが、受けるつもりはあるかとの打診がありました。少し悩みましたが、民博にグリーンランド資料が収蔵されていることが分かり、お引き受けすることにしました。準備として、東京の代官山にある在日本デンマーク大使館で頻りに打ち合わせを行ったり、コペンハーゲンに招聘され、国立デンマーク博物館他で1週間、びっしりとグリーンランドに関するレクチャーや説明を受けたり、グリーンランドのヌークの国立グリーンランド博物館に招聘され、展示の構想について検討したりしました。この展示では、展示場の約3分の1のキューレーションをすべてグリーンランド・イヌイットのキュレーター2名の方にお任せしました。お二人の方が来日され、デンマーク王室ヘンリックコレクションの仮面と高円宮家コレクションのトゥピラク、大型写真パネルを用いた展示をされました。展示場が大変に暗く不評でしたが、海外の先住民自身が民博において自らの文化について展示を行ったという画期的な試みだったと思います。残りの部分はグリーンランドの歴史と文化、そして地球温暖化問題を展示によって紹介しました。

グリーンランド展を通して学んだことですが、グリーンランドは世界最大の島であること、

極北地域にありながら温暖化の影響で農業や植林、ヒツジの飼育を行っていることや首都ヌークは驚くほどの近代都市であること、さらに、民博のグリーンランド資料は、日本の民族学の父、岡正雄とデンマークの著名な文化人類学者でイヌイット研究者であるカイ・ビルケット＝スミスの間でかつて2回にわたる資料交換を通して日本に入ってきたことなどを知りました。また、現在、グリーンランドはエビやオヒョウなどの魚介類を大量に日本に輸出しており、日本はEUに次ぐ重要な貿易のパートナーであることも知りました。

次に実施したのは、2017年の秋の企画展「カナダ先住民の文化の力 過去・現在・未来」でした。日加修好85周年にあたることから在日本カナダ大使館からカナダ展の開催要請がありました。この時には、カナダ全域の先住民の歴史と文化を、極北地域、亜極北地域、北西海岸地域、平原地域、5大湖周辺から東海岸にかけての森林地域に分けて、民博の収蔵品を用いて展示しました。また、カナダ学会研究大会を誘致して、カナダ先住民に関するシンポジウムを開催しました。

3つめの企画展は2023年9月から12月にかけて開催した「カナダ北西海岸先住民のアート スクリーン版画の世界」の展示です。この展示は、コロナ禍の影響が少なからず残る2020年秋に開催された、信田敏宏さんが実行委員長を務められた特別展「先住民の宝」において私が担当した北西海岸先住民文化の展示の一部を継承し、拡大したものです。私にとってこの企画展は、退職前の現役最後の展示会です。共同研究や科研で調査研究してきたカナダ北西海岸先住民のアート、特にスクリーン版画とジークレー版画を先住民社会の変化との関係で展示することにしました。版画自体は1960年代以降に採用された新しい媒体ですが、そこで描き出されるテーマは、かつての神話や伝説に基づいていたり、人びとや家族集団とゆかりの深い動植物や架空の生き物、精霊などが描き出されたりしていました。時代とともにテーマもスポーツや映画などが新しい題材として取り上げられ、制作技術もコンピュータを利用するなど変わってきました。同展示会では、時代を通して版画というアートの変化と連続性を提示しました。

この展示と関連して、カナダ観光局日本事務所が先住民観光をテーマとして北大での国際シンポジウムやウポポイでの文化交流イベントのために8名の先住民を日本に招いてくれました。この方々に展示を見て頂きコメントをもらうとともに、民博で開催した日本カナダ学会の北西海岸先住民アートのシンポジウムに参加していただきました。アーティストを含むソースコミュニティの方に私たちの展示を見てもらい、議論を行なうことができました。これは民博のフォーラム型研究展示の実践であると言えます。

以上は展示に関することでしたが、2020年6月に民博で建立した新たなトーテムポールについてお話しておきたいと思います。

私は、2018年4月から2022年3月までの4年間、東京の虎ノ門にある人間文化研究機構本部に理事として出向いたしました。2018年12月に吉田憲司館長から電話で、民博の前庭にあるトーテムポールが夏の台風によって破損したため、新しいトーテムポールを制作し、立てたいとの連絡がありました。このトーテムポール制作には、2020年の東京オリンピック

ク・パラリンピック、国立アイヌ民族博物館の開館、特別展「先住民の宝」の開催、さらに2024年の民博創設50周年記念と関係づけたいとの吉田先生の意向がありました。この提案を受けて、カナダのバンクーバー島で精力的に調査を行ってきた三重大学の立川陽仁さんに相談しながら、制作者の候補をキャンベル・リバーのビル・ヘンダーソンさんに決めました。現地でのどのようなトーテムポールを制作するか、予算、制作期間などについて交渉し、合意がとれたので、制作をお願い致しました。しかし、ヘンダーソンさんが気にいった10メートル以上のトーテムポールを制作するための原木がなかなか見つからなかったことや制作をはじめた2019年9月に工房のすぐ近くにヘリコプターが墜落し、作業を中断せざるを得なくなったこと、その後に同氏のオイが急逝したことなどから作業を再開することができなかったことが重なり、いつトーテムポールが完成するかまったく分からない状態となりました。また、現地から私の方への連絡も途絶えがちになったため、大変に心配しました。しかし、突然、2020年1月末にトーテムポールが完成したという写真の添付されたメール連絡が届き、至急、お金を支払って欲しいとのことでした。ほとんど寝耳に水で驚きましたが、無事に完成したことを知り、安堵しました。

同トーテムポールは、3月5日に現地からバンクーバーに向けて搬送され、民博には4月10日に到着しました。そして6月24日に建立され、翌25日から一般公開されました。みんなの新しいシンボルのひとつとして、古いトーテムポールとともに長きにわたって多くの来館者の方々に見てもらえることを期待したいと思います。

*1999年度特別展「越境する民族文化」(実行委員長：中牧弘允、イヌイット・アートの展示) 1998年にイヌイットの彫刻品をヌナヴィック地域で収集)

*2001年度特別展「ラッコとガラス玉：北太平洋の先住民交易」(実行委員長：大塚和義、北太平洋沿岸地域の文化と交易の展示、北アメリカの博物館調査とアラートベイでの丸木舟他の収集)

*2003年にアメリカ展示場リニューアルと地域テーマ展示「極北のイヌイット・アート」の実施(2002にアムウェイから寄贈を受けたイヌイットの彫刻品を展示)

*2009年 - 特別展「自然のこえ 命のかたち—カナダ先住民の生みだす美」(実行委員長、実行委員：齋藤玲子、伊藤敦規、大村敬一、協力者：田主誠)

2014年 - 企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」(実行委員長、デンマーク政府からグリーンランド展の開催要請があった。)

2017年 - 企画展「カナダ先住民の文化の力 過去・現在・未来」(実行委員長、在日本カナダ大使館からカナダ展の開催要請があった。)

2020年6月 トーテムポールの建立(キャンベル・リバーで制作依頼し、収集)

2020年度特別展「先住民の宝」(実行委員長：信田敏宏、実行委員として北西海岸先住民文化の展示)

| |
|---|
| 2023 年度企画展「カナダ北西海岸先住民のアート スクリーン版画の世界」(実行委員長、スクリーン版画とジークレー版画の展示) |
| その他の展示 |
| 2010 年 - アメリカ展示新構築(「イヌイットの版画」コーナーの担当) |
| 2011 年 - 特別展「千島・樺太・北海道 アイヌのくらし」(実行委員) |
| 2016 年 - 常設展示場「アイヌの文化」の新構築(プロジェクト・メンバー) |
| 2018 年 - 企画展「現れよ。森羅の命 - 木彫家 藤戸竹喜の世界」(実行委員) |

(3) 大学院教育について

次に大学院教育についてお話しします。

1997 年 4 月から総研大の文化科学研究科助教授、2005 年 10 月から教授を併任し、学生の指導にあたりました。当初は論文ゼミや 1 年生ゼミに出席していましたが、1990 年代終わりごろから前期は人類学理論史の特論、後期は 1 年生の研究プロポーザル作成および調査準備のためのゼミを毎年、開講しました。ほぼすべての 1 年生が参加してくれました。そして院生の皆さんとは毎年 3 月末に万博公園で花見をしたのが印象に残っています。また、2018 年に東京本部に出向する時には当時の院生有志が送別会を開いてくれました。

この間、バングラデシュや中国からの留学生を含め主任指導学生を 6 名、副指導学生を 6 名担当し、学位論文審査委員を 19 回務め、そのうち 5 回は主査を担当しました。また、学位論文予備審査委員を 12 回務め、そのうち 4 回は主査を担当しました。

2 年前に民博に戻りましたが、東京の機構本部に出向してからのこの 6 年間、博論審査やコース委員会への出席以外は大学院教育には直接、かかわっていません。この点、在籍中の大学院生の皆様には申し訳なく思います。

(4) 最後に

大学に就職してから 35 年がたちました。そのうち民博では約 28 年間の研究生を送りました。繰り返しになりますが、国立民族学博物館は、博物館機能と大学院教育機能を有する文化人類学・民族学およびその関連諸科学の研究所です。このため私たちは、共同研究活動とともに博物館活動や大学院教育を行ってきました。民博において多様なプロジェクトに参加したために、私自身の研究はテーマが拡がり、さまざまな研究や展示にチャレンジすることができました。従って、民博で研究者生活を送った結論として、副題のごとく「民博あるが故に、我あり」という命題に行きつきました。

これまでを振り返ってみると、何よりも幸運だったのは、この間、大きな病気を患うことなく、私の祖母、久美が私に残した「うまずたゆまず頑張りなさい」という言葉を思い起こしつつ、ある意味、のりくらしと民博で研究を続け、退職の日を迎えることが出来たということです。私にとって民博において研究を行なうことができたことは、大変に光栄であり、

ありがたいことだと思っています。今月末をもって民博を退職いたしますが、現役の館員の皆様が中心となって民博をさらに発展させることを期待いたします。

私が民博に着任したのは梅棹忠夫先生が館長を退いた後のことで、佐々木高明先生が館長を務められていた1996年1月でした。それから約28年間、佐々木先生、石毛直道先生、松園万亀雄先生、須藤健一先生や吉田憲司先生の5人の館長、大塚和義先生や大森康宏先生、野村雅一先生、秋道智彌先生らの数多くの優しくもあり、厳しくもある先輩、同僚の教職員、院生、生田節子さん、中村真里絵さん、縄田陽子さんらの研究室の強力なアシスタントの皆さん、4階の事務補佐の皆さん、そして特に、私の両親や妻、子供たちの理解と協力がなければ、私の民博での研究活動は成り立たなかったと思います。また、2018年4月から2022年3月までの4年間、機構本部に勤めましたが、当時の平川南機構長や窪田順平理事をはじめとする本部の教職員の皆様にも大変に助けてもらいました。皆様に心よりお礼を申し上げます。ほんとうにありがとうございました。これにて本日の話を終わりたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

経歴・研究業績

岸上伸啓（キシガミ ノブヒロ）

専門分野 文化人類学・北方文化研究

経歴

学歴

早稲田大学第一文学部社会学科卒（1981）

早稲田大学大学院文学研究科社会学専修修士課程修了（1983）

マッギル大学人類学科博士課程中退（1989）

学位

文学修士（早稲田大学大学院文学研究科 1983）

博士（文学）（総合研究大学院大学文化科学研究科 2006.3.24）

学位論文「カナダ・イヌイットの食物分配に関する文化人類学的研究－先住民社会の変容と再生産－」

職歴

早稲田大学文学部助手（1989）

北海道教育大学教育学部函館校専任講師（1990）

北海道教育大学教育学部函館校助教授（1992）

国立民族学博物館第一研究部助教授（1996）

総合研究大学院大学文化科学研究科助教授を併任（1997）

国立民族学博物館先端民族学研究部助教授（1998）

国立民族学博物館先端人類科学研究部助教授（2004）

国立民族学博物館先端人類科学研究部教授（2005.10.16-2012.3.31）

総合研究大学院大学文化科学研究科教授併任（2005.10.16-2018.3.31）

総合研究大学院大学比較文化学専攻長併任（2006.4.1-2008.3.31）

国立民族学博物館・館長補佐（2008.4-2009.3）

国立民族学博物館先端人類科学研究部・部長（併任）（2009.4.1-2012.3.31）

国立民族学博物館研究戦略センター教授（2012.4.1-2017.3.31）

国立民族学博物館研究戦略センター・センター長（併任）（2012.4.1-2013.3.31）

国立民族学博物館・副館長（2013.4.1-2016.3.31）

国立民族学博物館学術資源研究開発センター教授（2017.4.1-2018.3.31）

国立民族学博物館学術資源研究開発センター・センター長（併任）（2017.4.1-2018.3.31）

国立民族学博物館学術資源研究開発センター教授（併任）（2018.4.1-2022.3.31）

人間文化研究機構・理事（2018. 4.1-2022.3.31）

国立民族学博物館学術資源研究開発センター教授（2022.4.1-2024.3.31）

国立民族学博物館学術資源研究開発センター 副館長（併任）・情報管理施設長（併任）（2022.4.1-2024.3.31）

総合研究大学院大学・教授（併任）（2022.4.1-2024.3.31）

受賞・顕彰等

1998 第9回 カナダ首相出版賞（審査員特別賞）

2007 第18回 カナダ首相出版賞

2023 日本博物館協会功労者表彰

研究業績

著書

単著

2021 Food Sharing in Human Societies. Singapore: Springer Nature Singapore (2021.12.17)

2017 『文化人類学～人類を探求し、新たな人間観を創出する学問～』札幌：風土デザイン研究所
(2017.2.20)

2014 『クジラとともに生きる アラスカ先住民社会の現在』京都：臨川書店(2014.5.31)

2012 『北極海の狩人たち―クジラとイヌピアットの人々―』札幌：風土デザイン研究所(2012.1.15)

2007 『カナダ・イヌイットの食文化と社会変化』京都：世界思想社

2005 『イヌイット 「極北の狩猟民」のいま』（中公新書） 東京：中央公論新社

1998 『極北の民 カナダ・イヌイット』弘文堂

編著書

2024 『北太平洋の先住民文化―歴史・言語・社会』臨川書店(2024.3.31)

2022 『環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する研究動向』（国立民族学博物館調査報告 156）大阪：
国立民族学博物館(2022.11.16)

2022 『世界の仮面文化事典』吉田憲司（編集代表）岸上伸啓・新免光比呂・林勲男・福岡正太・南真
木人編 東京：丸善出版(2022.5.22)

2021 World Whaling: Historical and Contemporary Studies (Senri Ethnological Studies 104). Osaka:
National Museum of Ethnology (2021.03.01)

2020 『捕鯨と反捕鯨のあいだに 世界の現場と政治・倫理的問題』京都：臨川書店(2020.11.30)

2019 『世界の捕鯨文化―現状・歴史・地域性』（国立民族学博物館調査報告 149号）大阪：国立民族
学博物館(2019.6.24)

2018 『はじめて学ぶ文化人類学』京都：ミネルヴァ書房(2018.4.30)

- 2016 『贈与論再考 人間はなぜ他者に与えるのか』京都：臨川書店(2016.7.31)
- 2015 『環北太平洋地域の先住民文化』(国立民族学博物館調査報告 (SER)132 号) 大坂：国立民族学博物館(2015.12.1)
- 2013 Anthropological Studies of Whaling. In N. Kishigami, H. Hamaguchi, and J. M. Savelle (eds.). Senri Ethnological Studies 84. Osaka: National Museum of Ethnology.
- 2012 『捕鯨の文化人類学』東京：成山堂書店(2012.3.31)
- 2010 『極北と森林の記憶－イヌイトと北西海岸インディアンの版画－』齋藤玲子・大村敬一・岸上伸啓編 京都：昭和堂(2010.3.30)
- 2009 『開発と先住民』(みんぱく実践人類学シリーズ 7) 明石書店(2009.11.10)
- 2008 『北アメリカ先住民の社会経済開発』(みんぱく実践人類学シリーズ 4) 東京：明石書店(2008.11.30)
- 2008 『海洋資源の流通と管理の人類学』(みんぱく実践人類学シリーズ 3) 岸上伸啓編著 東京：明石書店(2008.7.10)
- 2007 『先住民による海洋資源の流通と管理』(平成 15 年度～平成 18 年度科学研究費補助金・基盤研究(A)研究成果報告書) 岸上伸啓編 大阪：国立民族学博物館(2007.3)
- 2006 『アメリカ・カナダ』(朝倉世界地理講座 13)小塩和人・岸上伸啓編 東京：朝倉書店(2006.10.27)
- 2005 『極北 (世界の食文化 20)』東京：農文協(2005.3.25)
- 2005 Indigenous Use and Management of Marine Resources. In N. Kishigami and J. Savelle (eds.) Senri Ethnological Studies 67. Osaka: National Museum of Ethnology.
- 2003 『海洋資源の利用と管理に関する人類学的研究』(民族学博物館調査報告 46) 大阪：国立民族学博物館(2003.12.26)
- 2002 『紛争の海：水産資源管理の人類学』、秋道智彌・岸上伸啓編 京都：人文書院(2002.2.28)
- 2002 『先住民による海洋資源利用と管理：漁業権と管理をめぐる人類学的研究』(平成 11 年度—13 年度科学研究費補助金基盤研究 A(2)研究成果報告書) 岸上伸啓編 大阪：国立民族学博物館(2002.2.18)
- 2000 The Social Economy of Sharing: Resource Allocation and Modern Hunter-Gatherers. In G.W. Wenzel, G. Hovelsrud-Broda and N. Kishigami (eds.) Senri Ethnological Studies No.53. Osaka: National Museum of Ethnology.

翻訳書

- 2012 『格差の世界地図』(Ben Crow and Suresh K. Lodha 著 岸上伸啓訳)、東京：丸善出版(2012.5.31)
- 2004 『環境人類学を学ぶ人のために』(パトリシア・K・タウンゼンド著 岸上伸啓・佐藤吉文訳) 京都：世界思想社(2004.2.20)
- 1991 『歴史科学としての考古学』(Bruce G. Trigger 著) (菊池徹夫・岸上伸啓訳) 東京：雄山閣

論文等

- 2024 「北太平洋地域の先住民文化に関する研究の展開」岸上伸啓編『北太平洋の先住民文化——歴史・言語・社会』pp. 9-25, 京都：臨川書店 (2024.3.31)
- 2024 「北アメリカの北極地域とグリーンランド(3-2 民族文化とアイデンティティ)」北極環境研究コンソーシアム長期構想編集委員会編『北極域の研究——その現状と将来構想』pp.210-218, 東京：海文堂出版株式会社(2024.3.15)
- 2024 「北アメリカ北西海岸先住民の社会変化とスクリーン版画」『人文論究』93: 17-25(2024.2.29)
- 2023 「<基調報告>カナダ先住民の近現代の歴史と現状—北西海岸先住諸民族の脱植民地化を中心に—」『カナダ研究年報』43: 35-52 (2023.9.15)
- 2023 Historical Changes in Human Relationships with Whales: Historical Ecology of Iñupiat and Bowhead Whales in Alaska. In K. Ikeya and W. Balée (eds.) Global Ecology in Historical Perspectives, pp. 209-222. Singapore: Springer (2023 March 11 online publication).
- 2023 「先住民研究における新たな展開について——カナダの場合を中心に」『人文論究』92：13-26 (2023.2.28)
- 2022 「北アメリカ北西海岸地域のハイダ民族に関する研究動向について」岸上伸啓編『環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する研究動向』(国立民族学博物館調査報告 156) pp. 387-427, 大阪：国立民族学博物館(2022.11.16)
- 2022 「環北太平洋地域の先住民文化に関する比較研究：大林太良、渡辺仁と国立民族学博物館の研究プロジェクト」北海道立北方民族学博物館編『第 35 回 北方民族文化シンポジウム 網走 報告書 大林太良・学問と北方文化研究—大林太良先生没後 20 年記念シンポジウム—』pp. 41-46, 網走：北方文化振興協会(2022.3.24)
- 2022 「カナダにおける都市在住イヌイットの社会・文化変化—モントリオールを事例として—」『人文論究』91: 37-53 (2022.02)
- 2021 「北アメリカ北西海岸先住民と生き物の不思議な関係—ワタリガラスを中心に」『Biostory (ビオストーリー)』35: 20-24 (2021.6.1)
- 2021 「国立民族学博物館のビル・ヘンダーソン制作のトーテムポールについて」『国立民族学博物館研究報告』45(4): 655-680 (2021.03.12)
- 2021 「狩猟採集民社会における食物分配に関する比較研究—アカ、アチェ、イヌイットの事例を中心に—」『人文論究』90: 69-88 (2021.03.10)
- 2021 World Whaling and Recent Whaling Research Trends. In N. Kishigami (ed.) World Whaling: Historical and Contemporary Studies (Senri Ethnological Studies 104), pp. 1-30. Osaka: National Museum of Ethnology (2021.03.01)
- 2021 Food Security, Food Sovereignty, Bowhead Whale Hunts among the Inupiat in Utqiagvik, Alaska, USA. In N. Kishigami (ed.) World Whaling: Historical and Contemporary Studies (Senri Ethnological Studies 104), pp. 93-112. Osaka: National Museum of Ethnology (2021.03.01)

- 2021 「カナダ先住民の疫病との戦い—北西海岸地域のハイダと極北地域のイヌイット—」秋道智彌・角南篤編『疫病と海』（海とヒトの関係学④）pp.61-74, 吹田：西日本出版社（2021.3.4）
- 2020 「ホッキョククジラを守りながら食べる—北極海の先住民捕鯨」秋道智彌・岩崎望編『絶滅危惧種を喰らう』pp.117-127, 東京：勉誠社(2020.12.28)
- 2020 「世界の捕鯨と捕鯨問題を考える」岸上伸啓編『捕鯨と反捕鯨のあいだに 世界の現場と政治・倫理的問題』pp.11-30, 京都：臨川書店(2020.11.30)
- 2020 「「アラスカ先住民社会における食料の安全保障と食料の主権について —2010年代のアラスカ州ウットゥキアグヴィク(旧バロー)のイヌピアットの事例を中心に」『人文論究』89:59-71 (2020.3.29)
- 2020 「北米アラスカ・北西海岸地域研究から見た環北太平洋沿岸諸先住民族文化の比較研究の展望」北海道立北方民族博物館編『第34回北方民族文化シンポジウム網走 報告 環北太平洋地域の伝統と文化 4 アラスカ・ユーコン地域』pp.1-6. 網走：北方文化振興協会(2020.3.13)
- 2020 「クジラ取りの系譜—生業捕鯨と商業捕鯨」秋道智彌・角南篤編『海はだれのものか』（海とヒトの関係学③）pp.52-65. 吹田：西日本出版社（2020.03.04）
- 2019 「世界の捕鯨と捕鯨に関する最近の研究動向」岸上伸啓編『世界の捕鯨文化—現状・歴史・地域性』（国立民族学博物館調査報告149号）, pp.5-30. 大阪：国立民族学博物館(2019.6.24)
- 2019 「北アメリカ先住民の捕鯨の現状と仮題」岸上伸啓編『世界の捕鯨文化—現状・歴史・地域性』（国立民族学博物館調査報告149号）, pp.85-104. 大阪：国立民族学博物館(2019.6.24)
- 2019 「人間とクジラの関係の歴史的变化に関する一考察—アラスカ先住民インピアットとホッキョククジラを中心に—」『人文論究』88: 57-66 (2019.3.29)
- 2018 「アラスカ・イヌピアット社会におけるホッキョククジラ漁をめぐる宗教実践と社会変化」『社会分析』45: 19-35 (2018.3.31)
- 2018 「狩猟採集社会」桑山敬己・綾部真雄編『詳論 文化人類学』pp.31-43.京都ミネルヴァ書房(2018.4.30)
- 2018 「アルフレッド・R・ラドクリフ＝ブラウン」岸上伸啓編『はじめて学ぶ文化人類学』pp. 34-39. 京都：ミネルヴァ書房(2018.4.30)
- 2018 「ジュリアン・H・スチュワード」岸上伸啓編『はじめて学ぶ文化人類学』pp. 75-80. 京都：ミネルヴァ書房(2018.4.30)
- 2018 「北アメリカ極北先住民社会における肉食」野林厚志編『肉食行為の研究』pp.33-61. 東京：平凡社(2018.3.7)
- 2018 「ネオリベラリズムとカナダ・イヌイットの社会変化」関根康正編『ストリート人類学 - 方法と理論の実践的展開』pp.415-431. 東京：風響社(2018.2.28)
- 2018 「資料：最近の狩猟採集民研究の動向 - 第11回国際狩猟採集社会会議（CHAGS11）に出席して-」池谷和信・佐々木史郎・戸田美佳子との共著、『国立民族学博物館研究報告』42(3):321-372 (2018.2.28)
- 2018 「現代の鯨類利用に関する文化人類学的研究：カナダ北西海岸地域のホエール・ウォッチングを中心に」『人文論究』87: 49-60 (2018.2.28)
- 2017 「捕鯨と動物福祉」『人文論究』58:71-81(2017.3.31)

- 2016 「国立民族学博物館におけるフォーラム型情報ミュージアム構想について」伊藤敦規編『伝統知、記憶、情報、イメージの再収集と共有－民族誌資料を用いた協働カタログ制作の課題と展望』（国立民族学博物館調査報告 137）pp.15-23, 大阪：国立民族学博物館(2016.9.30)
- 2016 An Info-Forum Museum for Cultural Resources of the World: A new Development at the National Museum of Ethnology. In Ito, Atsunori (ed.) Re-Collection and Sharing Traditional Knowledge, Memories, Information, and Images: Challenges and the Prospects on Creating Collaborative Catalog (Senri Ethnological Reports 137), pp.25-33. Osaka: National Museum of Ethnology (2016.9.30)
- 2016 『贈与論』再考－人類社会における贈与、分配、再分配、交換」岸上伸啓編『贈与論再考 人間はなぜ他者に与えるのか』pp.10-39, 京都：臨川書店(2016.7.31)
- 2016 「北アメリカの現代先住民捕鯨に関する比較研究－アラスカのイヌピアットとカナダ・イヌイットのホッキョククジラ鯨の比較－」『人文論究』85:63-75(2016.3.31)
- 2016 Revival of Inuit Bowhead Hunts in Arctic Canada. Japanese Review of Cultural Anthropology 16:43-58 (2016 March)
- 2016 「北アメリカ北方地域の先住民文化に関する文化人類学研究の動向－日本人人類学者および日本の博物館による貢献－」北海道立北方民族学博物館編『第30回北方民族文化シンポジウム 網走－北方民族研究30年 成果・課題・博物館の役割－』pp.31-38, 網走：北方文化振興協会(2016.3.23)
- 2015 「環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する人類学研究の歴史と現状－日本人による文化人類学的研究を中心に－」岸上伸啓編『環北太平洋地域の先住民文化』（国立民族学博物館調査報告（SER）132号）pp. 7-77, 大阪：国立民族学博物館(2015.12.1)
- 2015 「カナダにおける先住民アートの展開について」齋藤玲子編『カナダ先住民芸術の歴史的展開と現代的課題－国立民族学博物館所蔵のイヌイットおよび北西海岸先住民の版画コレクションをとおして』（国立民族学博物館調査報告（SER）131号）pp. 23-44, 大阪：国立民族学博物館(2015.11.30)
- 2015 「アラスカ・イヌピアット社会における使者祭りについて」『人文論究』84: 51-62 (2015.3.31)
- 2015 “Low-income and Homeless Inuit in Montreal, Canada: Report of a 2012 Research” 『国立民族学博物館研究報告』39(4): 575-624.(2015.3.3)
- 2014 「アラスカの捕鯨民イヌピアットの真夏の祭典ナルカタック」高倉浩樹・山口未花子編『食と儀礼をめぐる地球の旅－先住民文化からみたシベリアとアメリカー』pp.91-120, 仙台：東北大学出版会(2014.10.30)
- 2014 「アラスカ北西地域におけるイヌピアットの食料の安全保障問題」『人文論究』83: 75-83 (2014.3.31)
- 2014 「カナダにおける北西海岸先住民ヌーチャヌルスの捕鯨と先住権」『北海道立北方民族博物館研究紀要』23: 23-34 (2014.3.20)
- 2013 「カナダ・イヌイットのホッキョククジラ鯨と先住権」『カナダ研究年報』33: 1-16 (2013.9.21)
- 2013 Anthropological Research on Whaling: Prehistoric, Historic and Current Contexts. (written with James M. Savelle), in N. Kishigami, H. Hamaguchi, and J. M. Savelle (eds.) Anthropological Studies of Whaling (Senri Ethnological Studies 84), pp.1-48. Osaka: National Museum of Ethnology (2013.8.30)

- 2013 Aboriginal Subsistence Whaling in Barrow, Alaska. In N. Kishigami, H. Hamaguchi, and J. M. Savelle (eds.) *Anthropological Studies of Whaling (Senri Ethnological Studies 84)*, pp.101-120. Osaka: National Museum of Ethnology (2013.8.30)
- 2013 The Inuit's Migration Patterns and Drastic Population Increase in Urban Centers of Canada. In Klaus-Dieter Ertler and Patrick Imbert (eds.) *Cultural Challenges of Migration in Canada (Canadiana 12)*, pp.65-73. Frankfurt am Main: Peter Lang (2013.5)
- 2013 What Is a Subsistence Activity?: With a Special Focus on Beluga Whale Hunt by Inuit in Arctic Canada. 『人文論究』 82:79-90 (2013.3.29)
- 2013 On Sharing of Bowhead Whale Meat and Maktak in an Inupiat Community of Barrow, Alaska, USA. 『北海道立北方民族博物館研究紀要』 22:1-19 (2013.3.29)
- 2013 「米国アラスカ州バロー村におけるイヌピアットの捕鯨祭ナルカタックについて－祝宴における共食と鯨肉の分配を中心に－」『国立民族学博物館研究報告』 37(3):393-419 (2013.3.1)
- 2013 (Research Report) Sharing and Distribution of Whale Meat and Other Edible Whale Parts by the Inupiat Whalers in Barrow, Alaska, USA. Osaka: Kishigami's Office, National Museum of Ethnology (2013.1.31)
- 2012 「イヌイット」山折哲雄監修、川村邦光ほか編『宗教の事典』 pp.404-412. 東京:朝倉書店 (2012.10.30)
- 2012 「米国アラスカ州バロー村におけるイヌピアットの捕鯨グループについて－その運営と社会構成を中心に－」『人文論究』 81:1-12(2012.3.31)
- 2012 「総論－捕鯨に関する文化人類学的研究について」岸上伸啓編『捕鯨の文化人類学』 pp.1-30. 東京:成山堂書店(2012.3.31)
- 2012 「アメリカ・アラスカにおける先住民生存捕鯨について」岸上伸啓編『捕鯨の文化人類学』 pp.64-82. 東京:成山堂書店(2012.3.31)
- 2012 「米国アラスカ州バロー村のイヌピアットによるホッキョククジラ肉の分配と流通について」『国立民族学博物館研究報告』 36(2): 147-179 (2012.1.12)
- 2011 「19世紀末から20世紀前半にかけてのアイヌ研究とアイヌ資料の収集-ドイツコレクション展示の背景として-」(佐々木史郎共著) アイヌ文化振興・研究推進機構編『千島・樺太・北海道 アイヌのくらし-ドイツコレクションを中心に-』 pp.127-134, 札幌:アイヌ文化振興・研究推進機構(2011.7.29)
- 2011 「米国アラスカ州バロー村におけるイヌピアットの祝宴アプガウティについて」『人文論究』 80: 97-110 (2011.3.31)
- 2011 「北アメリカ極北地域における気候変動の生業活動におよぼす諸影響に関する覚書－カナダ国ヌナヴィク地域と米国アラスカ北西地域を事例として」松本博之編『海洋環境保全の人類学－沿岸水域利用と国際社会』(国立民族学博物館調査報告 97号)pp.299-314, 大阪:国立民族学博物館(2011.3.1)
- 2011 「捕鯨に関する文化人類学的研究における最近の動向について」『国立民族学博物館研究報告』 35(3): 399-470 (2011.2.25)
- 2010 「北アメリカ極北先住民の食文化と社会変化－カナダ・イヌイットとアラスカのイヌピアットを

- 中心に－』『食文化研究』 6: 39-44 (2010.11.10)
- 2010 Climate Change, Oil and Gas Development, and Inupiat Whaling in Northwest Alaska. *Etudes/Inuit/Studies* 34 (1): 91-107 (2010.11).
- 2010 「人工物発達からみたカナダ・イヌイト社会の歴史的变化に関する研究ノート」『人工物発達研究』 2(2):19-23 (2010.3.31)
- 2010 「カナダ先住民社会とアートの展開」齋藤玲子・大村敬一・岸上伸啓編, 『極北と森林の記憶－イヌイトと北西海岸インディアンの版画－』 pp.11-15, 京都：昭和堂(2010.3.30)
- 2010 「カナダ極北地域における食糧の安全保障について - ヌナヴィク・イヌイト社会を事例として」上田晶子編『食料と人間の安全保障』 pp.43-59, 大阪：大阪大学グローバルコラボレーションセンター(2010.3.25.)
- 2009 「[フォーラム：ひとと動物をめぐる地理学・地域研究の現在]アラスカ先住民イヌピアックとホッキョククジラの関係の歴史的变化」『人文地理』 61(6):436-439 (2009.10.28)
- 2009 「総論 - 開発と先住民」岸上伸啓編『開発と先住民』 pp.13-33, 明石書店(2009.11.10)
- 2009 「カナダにおける都市イヌイトの社会経済開発」岸上伸啓編『開発と先住民』 pp.331-353, 明石書店(2009.11.10)
- 2009 「北アメリカにおけるもうひとつの先住民問題－アメリカとカナダの非公認先住民族」窪田幸子・野林厚志編『「先住民」とはだれか』 pp.134-154, 京都：世界思想社(2009.11.10)
- 2009 「文化の安全保障の視点から見た先住民生存捕鯨に関する予備的考察－アメリカ合衆国アラスカ北西地域の事例から」『国立民族学博物館研究報告』 33(4):493-550. (2009.3.31)
- 2008 Homeless Inuit in Montreal. *Etudes/Inuit/Studies* 32 (1): 73-90.
- 2008 Trends in Japanese Cultural Anthropological Research on Whaling Cultures. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 9: 71-99.
- 2008 「北アメリカ極北地域の動物と民族文化－アザラシとカリブー、ホッキョククジラ、犬を中心に」池谷和信・林良博編『野生と環境』（ひとと動物の関係学第4巻） pp.141-161, 東京：岩波書店。
- 2008 「総論：北アメリカ先住民の社会経済開発」岸上伸啓編著『北アメリカ先住民の社会経済開発』（みんぱく実践人類学シリーズ4） pp.11-38, 東京：明石書店(2008.11.30)
- 2008 『先進国における援助事業への文化人類学(者)の活用についての現状と課題』（平成19年度国際協力機構客員研究員報告書） pp.1-55, 東京：国際協力機構(2008.7)
- 2008 「海洋資源の流通と管理に関する人類学的研究」岸上伸啓編『海洋資源の流通と管理の人類学』（みんぱく実践人類学シリーズ3） pp.11-40, 東京：明石書店(2008.7.10)
- 2008 「海洋資源の流通と管理をめぐる研究の成果と今後の課題」岸上伸啓編『海洋資源の流通と管理の人類学』（みんぱく実践人類学シリーズ3） pp.301-311, 東京：明石書店(2008.7.10)
- 2008 「文化人類学的生業論－極北地域の先住民による狩猟漁撈採集活動を中心に－」『国立民族学博物館研究報告』 32(4):529-578.(2008.3.31)
- 2008 「Notes on Information and Food-resources Flow among the Urban Inuit in Montreal, Canada」『人文論究』 77:235-246 (2008.3.31)

- 2008 「「はまる」立場から カナダ・イヌイット社会における社会経済開発－地域社会の経済論理と近代経済学の葛藤－」高倉浩樹編『地域分析と技術移転の接点：「はまる」「みる」「うごかす」視点と地域理解』（東北アジア研究シリーズ）pp.13-64, 仙台：東北大学東北研究センター(2008.2.29)。
- 2007 「クジラ資源はだれのものか－アラスカ北西部における先住民捕鯨をめぐるポリイティカル・エコノミー－」秋道智彌編『資源とコモンズ』（資源人類学 第8巻）pp.115-136, 東京：弘文堂(2007.12.15)
- 2007 Indigenous Trade and Social Change of the Siberian Yupik Eskimos in the Bering Strait Region during the 18–19th Centuries. 『人文論究』76: 39-57 (2007.3.)
- 2007 「序論：海洋資源の流通と管理に関する人類学的研究」岸上伸啓編『先住民による海洋資源の流通と管理』（平成15年度～平成18年度科学研究費補助金・基盤研究(A)研究成果報告書）pp.1-46, 大阪：国立民族学博物館(2007.3)
- 2007 「アメリカ合衆国アラスカ州北西部における先住民イヌピアックによる捕鯨と獲物の分配・流通について」岸上伸啓編『先住民による海洋資源の流通と管理』（平成15年度～平成18年度科学研究費補助金・基盤研究(A)研究成果報告書）pp.139-159, 大阪：国立民族学博物館(2007.3)
- 2007 「海洋資源の流通と管理をめぐる研究の成果と今後の課題」（谷本一之と共著）岸上伸啓編『先住民による海洋資源の流通と管理』（平成15年度～平成18年度科学研究費補助金・基盤研究(A)研究成果報告書）pp.353-359, 大阪：国立民族学博物館(2007.3)
- 2007 「北方先住民の社会経済開発－カナダ・イヌイットの場合－」煎本孝・山岸俊男編『現代文化人類学の課題』pp. 126-149, 京都：世界思想社 (2007.3.10.)
- 2007 「イヌイットの経済」綾部恒雄編『失われる文化・失われるアイデンティティ（講座 世界の先住民族－ファースト・ピープルズの現在－第10巻）』pp.101-113, 東京：明石書店(2007.2.15).
- 2007 「北米先住民と都市」（スチュアートヘンリと共著）綾部恒雄編『失われる文化・失われるアイデンティティ（講座 世界の先住民族－ファースト・ピープルズの現在－第10巻）』pp.271-284, 東京：明石書店(2007.2.15).
- 2007 「カナダ・イヌイットの文化的アイデンティティとエスニック・アイデンティティ」煎本孝・山田孝子編『北の民の人類学』pp.37-58, 京都：京都大学学術出版会(2007.1.25)
- 2006 「環境人類学」綾部恒雄編『文化人類学20の理論』pp. 197-212, 東京 (2006.12.15)
- 2006 「さまざまな先住民社会」小塩和人・岸上伸啓編『アメリカ・カナダ』（朝倉世界地理講座13）pp. 313-322, 東京：朝倉書店 (2006.10.27)
- 2006 「環境問題とエコ・ポリティクス」小塩和人・岸上伸啓編『アメリカ・カナダ』（朝倉世界地理講座13）pp. 374-381, 東京：朝倉書店 (2006.10.27)
- 2006 「アメリカとカナダの社会的比較」小塩和人・岸上伸啓編『アメリカ・カナダ』（朝倉世界地理講座13）pp. 392-396, 東京：朝倉書店 (2006.10.27)
- 2006 「ケベック州先住民の公用語教育」関口礼子・浪田克之介編『多様社会カナダの「国語」教育』pp.268-273, 東京：東信堂. (2006.8.31)
- 2006 Inuit Social Networks in an Urban Setting. In P. Stern and L. Stevenson (eds.) Critical Inuit Studies: An Anthology of Contemporary Arctic Ethnography, pp.206–216. Lincoln, Nebraska: University of

Nebraska Press.

- 2006 「Contemporary Inuit Food Sharing: A Case Study from Akulivik, PQ, Canada」 『人文論究』 75:15-21. (2006.3)
- 2006 「都市イヌイットのコミュニティー形成運動： 人類学的実践の限界と可能性」 『文化人類学』 70(4):505-527. (2006.3)
- 2006 「カナダ・イヌイットの食物分配に関する文化人類学的研究 —先住民社会の変容と再生産—」 総合研究大学院大学文化科学研究科 2005 年度学位請求論文 (2006.3.24)
- 2006 「イヌイットの食物分配に関する覚書—カナダ国ケベック州アクリヴィク村の事例を中心に—」 北海道立北方民族博物館編 『環北太平洋の環境と文化』 pp.265-276, 札幌：北海道大学出版会（網走：北海道立北方民族博物館） (2006.3.20)
- 2005 「ケベック州のクリーとイヌイト」 綾部恒雄監修、富田虎男・スチュアートヘンリ編 『講座世界の先住民民族 フェースト・ピープルズの現在 (7)北米』 pp.277-290, 東京：明石書店. (2005.5.31)
- 2005 「カナダ・イヌイト社会における海獣狩猟と分配をめぐる政治経済：ケベック州アクリヴィク村の事例から」 北海道立北方民族博物館編 『第 19 回北方民族文化シンポジウム報告 北太平洋沿岸の文化—政治経済と先住民社会—』 pp. 17-22, 網走：(財団法人) 北方文化振興協会 (2005.3.28.)
- 2005 「カナダ極北の先住民民族イヌイト」 岸上伸啓編 『極北 (世界の食文化 20)』 pp.121-159, 東京：農文協 (2005.3.25.)
- 2005 日本人による北アメリカ先住民研究の動向について：1990 年代以降を中心に」 『人文論究』 74:13-42. (2005.3.1)
- 2005 General Introduction: Marine Resources and Anthropology. In N. Kishigami and J. Savelle (eds.) *Indigenous Use and Management of Marine Resources (Senri Ethnological Studies 67)*, pp.1-9. Osaka: National Museum of Ethnology.
- 2005 Co-Management of Beluga Whales in Nunavik (Arctic Quebec), Canada. In N. Kishigami and J. Savelle (eds.) *Indigenous Use and Management of Marine Resources (Senri Ethnological Studies 67)*, pp.121-144. Osaka: National Museum of Ethnology.
- 2005 Concluding Remarks. In N. Kishigami and J. Savelle (eds.) *Indigenous Use and Management of Marine Resources (Senri Ethnological Studies 67)*, pp.445-448. Osaka, National Museum of Ethnology.
- 2004 Trends in Native North American Studies in Japan since the 1990s. *Japanese Review of Cultural Anthropology* 5: 91-121.
- 2004 A New Typology of Food-sharing Practices among Hunter-gatherers, with a Special Focus on Inuit Examples. *Journal of Anthropological Research* 60: 341-358.
- 2004 「カナダ・イヌイト社会におけるメディアの利用について：ヌナヴィク地域の事例を中心に」 『人文論究』 73 : 17-31.
- 2004 Cultural and Ethnic Identities of Inuit in Canada. In T. Irimoto and T. Yamada (eds.) *Circumpolar Ethnicity and Identity (Senri Ethnological Studies 66)*, pp.81-93. Osaka: National Museum of Ethnology.
- 2003 「海洋資源の利用と管理に関する人類学的研究」 岸上伸啓編 『海洋資源の利用と管理に関する』

- る人類学的研究』(民族学博物館調査報告 46) pp.7-46, 大阪: 国立民族学博物館
- 2003 「カナダ極北圏ヌナヴィク地域におけるシロイルカ資源の共同管理について」 岸上伸啓編『海洋資源の利用と管理に関する人類学的研究』(民族学博物館調査報告 46) pp.101-129, 大阪: 国立民族学博物館
- 2003 「狩猟採集社会における食物分配の類型について－「移譲」、「交換」、「再・分配」－」『民族学研究』68(2): 145-164。
- 2003 「狩猟採集社会における食物分配－諸研究の紹介と批判的検討－」『国立民族学博物館研究報告』27(4): 725-752 (2003.3.28)
- 2003 「現代ロシアにおける先住民運動: ロシア北方先住民協会の活動を中心に」 佐々木史郎編『ポスト社会主義圏における民族・地域社会の構造変動に関する人類学的研究－民族誌記述と社会モデル構築のための方法論的・比較論的考察』(平成 13・14 年度科学研究費補助金基盤研究(c)(2)研究成果報告書) pp.21-31, 大阪: 国立民族学博物館 (2003.3)
- 2002 「18-20 世紀におけるベーリング海峡地域の先住民交易と社会組織」 佐々木史郎編『開かれた系としての狩猟採集社会』(国立民族学博物館調査報告 34 号) pp.39-50, 大阪: 国立民族学博物館 (2002.12.20.)
- 2002 Urban Inuit in Canada: A Case from Montreal. *Indigenous Affairs* 3-4/2002:54-59.
- 2002 「カナダ極北地域における海洋資源の汚染問題: その現状と文化人類学者の役割」『国立民族学博物館研究報告』27(2):237-281. (2002.11.20)
- 2002 Inuit Identities in Montreal, Canada. *Etudes/Inuit/Studies* 26 (1): 183-191.
- 2002 「カナダ・イヌイット社会におけるキリスト教の展開とその諸影響について: ヌナヴィク地域の事例を中心に」 杉本良男編『宗教と文明化』(20 世紀における諸民族文化の伝統と変容 7) pp.143-158, 東京: ドメス出版 (2002.3.31)
- 2002 Living as an Inuk in Montreal: Social Networks and Resource Sharing. 『人文論究』71:73-84.(2002.3.19)
- 2002 「カナダ極北地域における海洋資源をめぐる紛争: ヌナヴィク地域のシロイルカ資源を中心に」 秋道智彌・岸上伸啓編『紛争の海: 水産資源管理の人類学』pp.295-314, 京都: 人文書院(2002.2.28)
- 2002 「北東アジア沿岸地域の諸民族における社会構造の比較研究試論」 煎本孝編『東北アジア諸民族の文化動態』 pp.505-544, 札幌: 北海道大学図書刊行会(2002.2.25)
- 2002 「先住民資源論序説: 資源をめぐる人類学的研究の可能性について」 岸上伸啓編『先住民による海洋資源利用と管理: 漁業権と管理をめぐる人類学的研究』(平成 11 年度-13 年度科学研究費補助金基盤研究 A(2)研究成果報告書) pp.1-19, 大阪: 国立民族学博物館(2002.2.18)
- 2002 「カナダ極北地域におけるシロイルカ資源の利用と管理」 岸上伸啓編『先住民による海洋資源利用と管理: 漁業権と管理をめぐる人類学的研究』(平成 11 年度-13 年度科学研究費補助金基盤研究 A(2)研究成果報告書) pp.21-47, 大阪: 国立民族学博物館(2002.2.18)
- 2002 「海洋資源の利用と管理をめぐる研究の成果と今後の課題」 岸上伸啓編『先住民による海洋資源利用と管理: 漁業権と管理をめぐる人類学的研究』(平成 11 年度-13 年度科学研究費補助金基盤研究 A(2)

- 研究成果報告書) pp.221-227, 大阪:国立民族学博物館(2002.2.18)
- 2001 「エスニック・アートとイヌイットの文化表象」国立民族学博物館研究報告別冊(中牧弘允編「アートと民族文化の表象」) 22:57-77.
- 2001 「アメリカ合衆国の自然史博物館における日本展示について」栗田靖之・園田直子・吉田憲司編『海外の博物館・美術館における日本展示の基礎的研究:日本は如何に展示されてきたか』(平成10年度-平成12年度科学研究費補助金(基盤研究A(2))研究成果報告書) pp.191-199, 大阪:国立民族学博物館
- 2001 「北米北方地域における先住民による諸資源の交易について:毛皮交易とその影響を中心に」『国立民族学博物館研究報告』25(3):293-354.
- 2001 「カナダ・イヌイット社会における海洋資源の利用と管理:ヌナヴィクのシロイルカ資源の場合」『人文論究』70:29-52.
- 2000 「書評リプライ カナダ極北社会における社会変化と実践」『民博通信』89:46-57.
- 2000 Contemporary Inuit Food Sharing and Hunter Support Program of Nunavik, Canada In G.W. Wenzel, G. Hovelsrud-Broda and N. Kishigami (eds.) The Social Economy of Sharing: Resource Allocation and Modern Hunter-Gatherers (Senri Ethnological Studies No.53), pp.171-192. Osaka: National Museum of Ethnology.
- 1999 「北方諸民族の命名と人名について:エヴェン、コリヤーク、ユッピック、イヌイットの比較」『環オホーツク 1998』6:51-60.
- 1999 「先住民資源論序説:資源をめぐる人類学的研究の可能性について」『人文論究』68:63-80.
- 1999 「先住民の文化の権利:カナダ・イヌイットを中心に」『第二回 危機言語シンポジウム 言語・文化における権利 予稿集』 pp.5-12. 日本言語学会
- 1999 「カナダにおける都市居住イヌイットの社会・経済状況:モントリオールの事例報告を中心に」『国立民族学博物館研究報告』24(2):205-245.
- 1999 「カナダ・イヌイットはなぜ都市をめざすのか:モントリオール地区の事例を中心に」松山利夫、青柳清孝編著『先住民と都市』 pp.195-212, 東京:青木書店
- 1999 「カナダ・イヌイットの個人名と命名」上野和男・森謙二編『名前と社会』pp.252-271, 早稲田大学出版会
- 1999 「イヌイットの青年・中年男性の生業離れについて」『民博通信』86:67-87.
- 1999 Why Do Inuit Move to Montreal?: A Research Note on Urban Inuit. Etudes/Inuit/Studies 23 (1)-(2): 221-227.
- 1999 Life and Problems of Urban Inuit in Montreal: Report of 1997 Research. 『人文論究』68:81-109.
- 1998 「銭亀沢地区の社会組織」『函館市史別冊 銭亀沢編』(長谷部一弘共著) pp.267-290. 函館市:函館市史編纂室
- 1998 「世界システムの中のカナダ・イヌイット:毛皮交易を中心に」煎本孝編著 科研報告書『周極地域諸文化の比較研究-言語・生態・世界観』pp.38-48, 北海道大学文学部

- 1998 「ヌナヴィク・イヌイットのハンター・サポート・プログラムの運用と社会変化」『人文論究』66:27-41.
- 1998 「つくり変えられたイグルー」佐藤浩司編 『建築人類学へのいざない』pp.141-158, 学芸出版社
- 1998 Names and Naming of the Reindeer Koryak and Even: Research from Esso District on Kamchatka Peninsula, Russia. 大島稔編著 科研報告書『カムチャッカ半島諸民族の生業・社会・芸能』 pp.73-8, 小樽商科大学言語センター
- 1997 「ロシア極東カムチャッカ半島のコリヤークとエヴェン：1996年エッソ調査報告」『人文論究』64:47-87.
- 1997 「コリヤーク民族誌点描：世界観と儀礼からみた海岸コリヤークの世界」『環オホーツク 1996』4:1-28.
- 1997 「カナダの都市先住民について：モントリオールのイヌイットを中心に」『カナダ研究年報』17:66-72.
- 1997 「カナダ・イヌイットの助産人と社会変化：社会慣習の再生産と変化」『民博通信』75:15-29.
- 1997 「イヌイットの女性：極北の働き者」綾部恒雄編 『女の民族誌2』pp.131-152, 弘文堂
- 1997 「アイヌの「飼い型」の送り儀礼と北方交易」『民博通信』76:109-115.
- 1997 Personal Names, Name Souls and Social Change Among Canadian Inuit: A Case Study of Akulivik Inuit, Nunavik, Canada. In T. Yamada and T. Irimoto (eds.) Circumpolar Animism and Shamanism, pp.151-166. Sapporo: Hokkaido University Press.
- 1996 「カナダ極北地域における社会変化の特質について」スチュアートヘンリ編著 『採集狩猟民の現在』pp.13-52, 言叢社
- 1996 「カナダ・イヌイット社会の社会・経済変化」『国立民族学博物館研究報告』21(4):715-775.
- 1996 「カナダ・イヌイットの名前、名前の霊魂と社会変化」『北海道教育大学紀要』1部B社会科学編 46(2):27-37.
- 1995 「ロシア極東民族コリヤークの宗教と社会について」谷本一之編 『北方諸民族文化国際フェスティバル・シンポジウム(1994)報告』pp.57-69, 北海道教育大学
- 1995 「カナダ国ヌナビック・イヌイットの社会経済変容」『人文論究』60:81-99.
- 1995 「カナダ国ケベック州クリー・インディアンの社会経済変容」『北海道教育大学紀要』(社会科学編I部 B) 46(1):45-59.
- 1995 Extended Family and Food Sharing Practices among the Contemporary Netsilik Inuit: A Case Study of Pelly Bay. 『北海道教育大学紀要1部B』45(2):1-9.
- 1994 「北米にけるイヌイットおよびユピックに関する文化人類学的研究の最近の動向と現状について：1984年から1993年にかけて」『人文論究』58:53-105.
- 1994 「現代ネツリック・イヌイット社会における社会関係について：カナダ国北西準州ペリーベイ村の事例を中心に」(スチュアートヘンリ共著)『国立民族学博物館研究報告』19(3):405-448.
- 1994 「カナダ極北地域における先住民教育についての文化人類学的研究」『僻地教育研究』(北海道教

育大学僻地教育研究施設) 48:25-39.

1994 Why Become Christians?: Hypotheses on the Christianization of the Canadian Inuit. In T. Irimoto and T. Yamada (eds.) *Circumpolar Religion and Ecology: Anthropology of the North*, pp. 221–235. Tokyo: University of Tokyo Press.

1993 「北米先住民に関するエスノヒストリー研究の最近の展開について (その2)」『北海道教育大学紀要一部B 社会科学編』43(2):15-26.

1993 「生活時間を通してみるカナダ・イヌイット社会の変化について」岡田宏明編『環極北文化の比較研究』pp.41-55, 北海道大学

1993 「カナダ・イヌイットの精神世界における動物: ネットリック・イヌイットの犬を中心に」『北海道教育大学紀要 I 部B 社会科学編』44(1):1-12.

1993 「イヌイット社会における食物分配の一形式について: カナダ国ケベック州アクリビック村における事例」菊池徹夫他編『21世紀への考古学』pp.309-317, 東京: 雄山閣出版

1993 Dogs in the Spiritual World of Traditional Inuit Society of Canada—With Special Reference to Dogs in the Traditional Netsilik Inuit Society. Hokkaido Museum of Northern Peoples (ed.) *Animals in the Spiritual World of Northern Peoples: The 7th International Abashiri Symposium*, pp.15–26, Abashiri, Japan: Association for Northern Cultural Promotion.

1992 「北米先住民に関するエスノヒストリー研究の最近の展開について (その1)」『北海道教育大学紀要 一部B 社会科学編』43(1):63-77.

1992 「現代カナダ・イヌイット社会における食物分配をめぐる社会関係について: カナダ国アクリビック村の事例を中心に」『人文論究』54(別冊):181-198.

1992 「カナダ極北におけるニュー・エスニシティ」谷本一之編『北方諸民族芸能祭報告』pp.91-107 北海道教育大学

1992 「カナダ・イヌイットは如何にしてキリスト教徒になりしや: 諸説の紹介と検討」『北海道教育大学紀要 一部B 社会科学編』42(2):23-34.

1992 「カナダ・イヌイットの村落形成について: アクリビック村形成の事例を中心に」岡田宏明・岡田淳子編著、『北の人類学』第3章所収、アカデミア出版会

1991 「解説、用語解説、人名解説」『歴史科学としての考古学』(Bruce G. Trigger 著) (菊池徹夫共訳) 東京: 雄山閣

1991 「現代カナダ・イヌイット社会における贈与交換とメッセージ交換について: 北ケベック・アクリビック村での1990年のクリスマスを中心に」『人文論究』52:73-86.

1991 「カナダ国北西準州ベリーベイ村におけるネットリック・イヌイットの拡大家族について」『北海道教育大学紀要 一部B 社会科学編』42(1):1-12.

1990 「ネットリック・イヌイットの人名、命名法および同名者関係についての覚え書き」『北奥古代文化』20:45-52.

1990 「カナダ・イヌイットの人名と社会構造について」『早稲田大学語学教育研究所紀要』40:74-80.

1990 「カナダ・イヌイットの人名、命名方法および名前に基づく社会関係について」『民族学研究』

54(4):485-495.

- 1990 「カナダ・イヌイットの居住集団の構成原理について」『社会人類学年報 1990』16:165-177.
- 1990 「イヌイット社会人類学の諸問題」『史観』122:73-91.
- 1990 「イヌイット (カナダ): その歴史的展開と現状」『文化人類学 7』6(1):14-26.
- 1988 「伝統イヌイット社会における女子嬰兒殺しに関する諸説の紹介と検討」『民族学研究』53(2):206-213.
- 1988 「イヌイット社会における養子縁組の変遷」『季刊 人類学』19(4):100-128.
- 1987 「遊びに関する研究の基礎理論 (その 2)」(スチュアートヘンリ共著)『史観』117:14-27.
- 1987 「動物の遊びについて」(スチュアートヘンリ共著)『目白学園女子短期大学紀要』23:23-34.
- 1987 「伝統ネツリク・イヌイット社会における第一イトコ選好婚について」『社会学年誌』28:97-112.
- 1986 「遊びに関する研究の基礎理論 (その 1)」(スチュアートヘンリ共著)『史観』105:47-59.
- 1984 「アラスカ・エスキモーの伝統遊びについて」『早稲田大学語学教育研究所紀要』28:118-124.

エッセイ、その他

- 2024 「はじめに」『北太平洋の先住民文化—歴史・言語・社会』pp. 1-6, 臨川書店(2024.3.31)
- 2024 「おわりに」『北太平洋の先住民文化—歴史・言語・社会』pp. 279-282, 臨川書店(2024.3.31)
- 2024 「極北での救世主、バノック」『月刊みんぱく』3月号:20 (2024.3.1)
- 2024 “History and future of anthropological studies of indigenous cultures and societies along the North Pacific Rim” Minpaku Anthropology Newsletter 57: 1-3 (February, 2024)
- 2024 「命の贈与—極北先住民イヌイットの狩猟と食物分配」『慶應義塾大学教養研究センター設置科目「生命の教養学」2023 年度講義記録 贈与』pp. 22-24, 横浜:慶應義塾大学教養研究センター(2024.1.24)
- 2023 「イヌイット (第 II 部 世界の冠婚葬祭を訪ねる 第 9 章 極北)」川田牧人・松田素二編『世界の冠婚葬祭辞典』pp306-309, 東京:丸善出版(2023.12.30)
- 2023 「ケベック州の先住民—ハイブリッド化する社会と文化—」日本ケベック学会編『ケベックを知るための 56 章』(第 2 版) pp.99-102, 東京:明石書店(2023.12.25)
- 2023 「第 48 回年次研究大会を終えて」『日本カナダ学会ニューズレター』126:1-2 (2023.11)
- 2023 「第 48 回年次研究大会報告特集 ◆研究大会各セッション等のレビュー: シンポジウム I: カナダ北西海岸先住民の文化とアート (第一日午前)」『日本カナダ学会ニューズレター』126:2-3 (2023.11)
- 2023 「カナダ北西海岸先住民の版画」『みんぱく e-news』269: 1 (2023.11.1)
- 2023 「食は万病のもとか?—カナダ・イヌイット社会における食生活の変化」『週刊 医学のあゆみ』287(2): 176-179 (2023.10.14)
- 2023 「ユニークなカナダ先住民のアート」『月刊みんぱく』10月号 47(10): 2-3 (2023.10.1)
- 2023 「進化する版画」『月刊みんぱく』10月号 47(10): 6-7 (2023.10.1)
- 2023 「カナダ先住民の巨大な彫刻柱 文化受け継ぎ生きる証し」『毎日新聞』(大阪本社版朝刊)

(2023.9.3)

- 2023 「書評：森山工著『贈与と聖物——マルセル・モース「贈与論」とマダガスカルの社会的実践』東京大学出版会, 2021年」『文化人類学』88(1): 160-163 (2023.6.30)
- 2023 「北米北方資料とフォーラム型データベース」『月刊みんぱく』4月号(547号): 16-17(2023.4.1)
- 2023 「カナダ極北地域に生きるイヌイット—生活の現状と問題」『極地』59(1): 46-51 (2023.3.1)
- 2023 「大林民族学の英知と魅力 比較と総合化を実践したアンソロジー (書評) 後藤明編 『大林太良 人類史の再構成をめざして』アーツアンドクラフツ」『図書新聞』3575:4 (2023.1.21)
- 2022 Comment II on Special Symposium of the Ethics Committee of the 56th Annual Meeting of the Japanese Society of Cultural Anthropology: The Past and Future of Cultural Anthropology: Prospects from (Draft) Ethical Guidelines for Research on the Ainu People. Japanese Review of Cultural Anthropology 23(1): 226-232 (2023.03)
- 2022 「はじめに」岸上伸啓編『環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する研究動向』(国立民族学博物館調査報告 156) pp. 1-8, 大阪：国立民族学博物館(2022.11.16)
- 2022 「おわりに」岸上伸啓編『環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する研究動向』(国立民族学博物館調査報告 156) pp. 485-486, 大阪：国立民族学博物館(2022.11.16)
- 2022 「日本文化人類学会第56回研究大会倫理委員会特別シンポジウム「『アイヌ民族に関する研究倫理指針(案)』から考える、文化人類学の過去と未来にむけての展望」コメント2」『文化人類学』87(2): 339-340 (2022.9.30)
- 2022 「北の旅日記 はるかなるカムチャツカ半島の思い出」『Arctic Circle』124: 裏表紙 (2022.9.22)
- 2022 「<書評>半藤将代著『観光の力 世界から愛される国、カナダ流のおもてなし』(日経ナショナルジオグラフィック社、2021年)」『カナダ研究年報』42: 67-71 (2022.9.17)
- 2022 「日本カナダ学会のさらなる発展のために」『日本カナダ学会ニューズレター』122: 1-2 (2022.8)
- 2022 「みんぱく回遊 北アメリカ北西海岸地域のトーテムポール」『月刊 みんぱく』46(6)(6月号): 10-11 (2022.6.1)
- 2022 「アメリカの仮面」吉田憲司(編集代表) 岸上伸啓・新免光比呂・林勲・福岡正太・南真木人編『世界の仮面文化事典』pp. 66-71, 東京：丸善出版(2022.5.22)
- 2022 「北アメリカ極北地域の仮面」吉田憲司(編集代表) 岸上伸啓・新免光比呂・林勲男・福岡正太・南真木人編『世界の仮面文化事典』pp. 72-77, 東京：丸善出版(2022.5.22)
- 2022 「イロコイの仮面」吉田憲司(編集代表) 岸上伸啓・新免光比呂・林勲男・福岡正太・南真木人編『世界の仮面文化事典』pp. 82-85, 東京：丸善出版(2022.5.22)
- 2022 「コラム ヴァイキングとグリーンランド植民」秋道智彌・角南篤編『コモンズとしての海(海とヒトの関係学⑤)』pp.85-91, 吹田：西日本出版社(2022.3.4)
- 2022 「イヌイットの生きがいとウェルビーイング — 狩猟・漁撈活動と賃金労働」『季刊 民族学』179: 24-33 (2022.1.31)
- 2021 「<時評>先住民出身初のカナダ総督メアリー・サイモン」『日本カナダ学会ニューズレター』120: 9-11 (2021.11)

- 2021 Foreword. In N. Levell, *Mischief Making: Michael Nicoll Yahgulanaas, Art and the Seriousness of Play*, pp.6-7. Vancouver: UBC Press (2021 November)
- 2021 「環北太平洋地域の先住民文化に関する比較研究—大林太良と渡辺仁の視点」北方文化振興協会・北海道立北方民族博物館編『第35回北方民族文化シンポジウム網走「大林太良・学問と北方文化研究—大林太良先生没後20年記念シンポジウム—」発表要旨集』PP.7, 網走：北方文化振興協会・北海道立北方民族博物館(2021.10.17)。
- 2021 「文献紹介 みんなでつくる「いただきます」—食から創る持続可能な社会」『Vesta』124: 74-75 (2021.11.1)
- 2021 「ASSW2021 IASC SHWG 社会人間作業部会 会合報告」『JCAR Newsletter (北極環境研究コンソーシアムニュースレター)』11: 8-9 (2021.08)
- 2021 「北方研究者としての津曲敏郎先生」呉人恵・笹倉いる美・山田敦士編『津曲敏郎先生古稀記念集』PP.4-5, 網走：北海道立北方民族博物館内津曲敏郎先生古稀記念集編集委員会(2021.03.31)
- 2021 「北太平洋先住民社会に関する比較研究構想」『民博通信 Online』3:16-17 (2021.03.31)
- 2021 「極北の誇り高きハンターたち 最北の捕鯨民 イヌピアットの世界」『時空旅人』61: 78-81 (2021.3.26)
- 2021 Preface. In N. Kishigami (ed.) *World Whaling: Historical and Contemporary Studies* (Senri Ethnological Studies 104), pp. i-iv. Osaka: National Museum of Ethnology (2021.03.01)
- 2021 「カナダの極北地域—極寒のツンドラ地帯」飯野正子・竹中豊総監修、日本カナダ学会編『現代カナダを知るための60章』(第2版) pp.36-40, 東京：明石書店 (2021.3.10)
- 2021 「気候変動とカナダ—地球温暖化の影響」飯野正子・竹中豊総監修、日本カナダ学会編『現代カナダを知るための60章』(第2版) pp.41-45, 東京：明石書店 (2021.3.10)
- 2021 「多様なカナダ先住民—新たな先住民社会の生成」飯野正子・竹中豊総監修、日本カナダ学会編『現代カナダを知るための60章』(第2版) pp.80-84, 東京：明石書店 (2021.3.10)
- 2021 「カナダ先住民のアート—先住民らしさの表象」飯野正子・竹中豊総監修、日本カナダ学会編『現代カナダを知るための60章』(第2版) pp.85-89, 東京：明石書店 (2021.3.10)
- 2021 「カナダの都市先住民—新たな先住民ネットワークと文化の生成」飯野正子・竹中豊総監修、日本カナダ学会編『現代カナダを知るための60章』(第2版) pp.90-94, 東京：明石書店 (2021.3.10)
- 2021 「多元・多文化主義と向き合う都市」横浜国立大学都市科学部編『都市科学事典』pp.850-851. 横浜：春風社(2021.03)
- 2021 A Totem Pole of Northwest Coast People in Canada. *Minpaku Anthropology Newsletter* 51: 1-3 (2021.2).
- 2021 「カナダ先住民の疫病との闘い～北西海岸地域のハイダと極北地域のイヌイット～」『Ocean Newsletter』491: 6-7 (2021.1.20)
- 2021 「友の会講演会実施報告 トーテムポール カナダ北西海岸先住民の宝」『国立民族学博物館友の会ニュース』262: 4 (2021.1.1)
- 2021 「食をめぐる文化衝突」野林厚志代表編『世界の食文化百科事典』pp.390-391, 東京：丸善出版

- (2021.01)
- 2021 「食物の分配・贈与・交換」野林厚志代表編『世界の食文化百科事典』pp.414-417, 東京：丸善出版(2021.01)
- 2021 「北米先住民の料理」野林厚志代表編『世界の食文化百科事典』pp.620-621, 東京：丸善出版(2021.01)
- 2020 「おわりに」岸上伸啓編『捕鯨と反捕鯨のあいだに 世界の現場と政治・倫理的問題』pp.325-328, 京都：臨川書店(2020.11.30)
- 2020 「はじめに」岸上伸啓編『捕鯨と反捕鯨のあいだに 世界の現場と政治・倫理的問題』pp.1-7, 京都：臨川書店(2020.11.30)
- 2020 「世界の捕鯨を考える」(共同研究 捕鯨と環境倫理(2016-2019 年度) Final report)『民博通信 Online』2: 16-17 (2020.9.30)
- 2020 「<書評>長谷川瑞穂『先住・少数民族の言語保持と教育カナダ・イヌイットの現実と未来』(明石書店、2019 年)』『カナダ研究年報』40: 46-50(2020.9)
- 2020 「コンピュータがひもとく歴史の世界 ～デジタル・ヒューマニティーズってなに? 第38回人文機構シンポジウムについて」NIHU Magazine Vol. 47 (2020.3.16)
- 2020 「北西海岸先住民(カナダ)」信田敏宏編『先住民の宝』pp.107-122, 大阪：国立民族学博物館(2020.3.19)
- 2020 「カナダ先住民のトーテムポール制作とその地域産業化」『月刊みんぱく』3月号(510): 6-7 (2020.3.1)
- 2020 「捕鯨は結局、文化なの? GHQ が許した歴史、TV ドラマによる神格化」(インタビュー記事)『Withnews』(ネット配信)(2020.2.17)
- 2020 「クジラ取りの系譜—生業捕鯨と商業捕鯨」『Ocean Newsletter』468: 4-5 (2020.2.5)
- 2020 「贈りものってなんだろう?」『Ace(エース)』266: 12-13 (2020.1.1)
- 2019 「セッション III 「先住民」」『日本カナダ学会ニューズレター』114: 7-8 (2019.12)
- 2019 「北米アラスカ・北西海岸研究からみた環北太平洋沿岸諸先住民文化の比較研究の展望」北海道立北方民族博物館編『第34回北方民族文化シンポジウム 網走 環北太平洋地域の伝統と文化 4 アラスカ・ユーコン地域 発表要旨』pp.1, 網走：北方文化振興協会(2019.10.5)
- 2019 「なぜ人は極北をめざすのか」(角幡唯介との対談)『中央公論』2019年10月号: 172-184 (2019.9.10)
- 2019 「環北太平洋沿岸地域におけるカナダ西海岸先住民文化の位置づけ—新たな地域研究の視座」日本カナダ学会第44回年次研究大会実行委員会編『日本カナダ学会第44回年次研究大会 プログラム・報告要旨』pp.23, 鹿児島：鹿児島純心女子大学・日本カナダ学会第44回年次研究大会実行委員会において(2019.9.1)
- 2019 「カナダ・イヌイット社会の歴史と現状、問題点」『歴史地理教育』9月号(899):10-15(2019.9.1)
- 2019 Food Security and Sovereignty Problems among the Inupiat in Utqiagvik, Alaska, USA. Abstract of IUAES 2019 Inter-Congress “World Solidarities”, pp95-96, Adam Mickiewicz University, Poznan: The

- Organizing Committee of the 2019 Inter-Congress “World Solidarities” (2019.8.27)
- 2019 An Argument for Sustainable Whaling: The Case of Alaska’s Indigenous Peoples JAPAN Forward: Real Issues, Real Voices, Real JAPAN (2019.07.24)
- 2019 「はじめに」岸上伸啓編『世界の捕鯨文化—現状・歴史・地域性』(国立民族学博物館調査報告 149号), pp.1–2. 大阪:国立民族学博物館(2019.6.24)
- 2019 「おわりに」岸上伸啓編『世界の捕鯨文化—現状・歴史・地域性』(国立民族学博物館調査報告 149号), pp.213–214. 大阪:国立民族学博物館(2019.6.24)
- 2019 「環北太平洋地域における先住民文化の比較研究に関する一考察:歴史、現状、未来」日本シベリア学会第5回研究大会事務局編『日本シベリア学会第5回研究大会プログラム発表要旨』PP.7, 京都:第5回大会事務局(2019.6.9)
- 2019 「米国アラスカ地域の捕鯨文化における気候変動の諸影響—ウトキアグヴィクのイヌピアットの事例を中心に—」『アークトス (ARKTOS)』54: 1-4 (2019.6.1)
- 2019 「人間とクジラの関係の歴史的变化に関する一考察—アラスカ先住民イヌピアットとホッキョククジラを中心に」第53回日本文化人類学会研究大会実行委員会編『発表要旨集』
- 2019 「カナダ研究への期待と課題」『日本カナダ学会ニューズレター』112: 1-2 (2019.3)
- 2019 「世界の捕鯨と捕鯨問題を考える」『民博通信』164: 12-13 (2019.3.29)
- 2019 「想:商業捕鯨の再開」『中国新聞 (セレクト)』(2019.2.21)
- 2018 Humanity on the Move. In Yuriko Yamanaka et. al (eds.) National Museum of Ethnology Exhibition Guide. pp.186-189. Osaka: National Museum of Ethnology (2018.12.28)
- 2018 「絶滅危惧生物と人の交わり—捕獲、鑑賞、保全を中心に—」『国立民族学博物館友の会ニュース』248: 6 (2018.11.1)
- 2018 「問われる人間と動物の関係」『月刊みんぱく』11月号: 2-3 (2018.11.1)
- 2018 「出版物 はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い」『民博通信』162: 26 (2018.9.28)
- 2018 「ホッキョククジラとアラスカ先住民イヌピアット」生き物文化誌学会第16回学術大会実行委員会編『生き物文化誌学会第16回学術大会(東京大会)要旨集』pp.8-9, 熊谷:生き物文化誌学会第16回学術大会実行委員会(2018.6.20)
- 2018 “Inupiat Dance and Embodied Memories.” JSPS Washington Office ed. The Twenty-Third “Science in Japan” JSPS Forum: Memory and the Museum. pp.12, Washington D.C.: Japan Society for the Promotion of Science Washington Office (June 15, 2018).
- 2018 「カナダ北西海岸地域における先住民によるホエール・ウォッチング・ビジネス その可能性と問題点」日本文化人類学会第52回研究大会実施事務局編『日本文化人類学会第52回研究大会発表要旨集』pp.135, 京都:日本文化人類学会第52回研究大会実施事務局(2018.6.2)
- 2018 「はじめに」岸上伸啓編『はじめて学ぶ文化人類学』pp. i-iii. 京都:ミネルヴァ書房(2018.4.30)
- 2018 「北アメリカ・アラスカ地域におけるホッキョククジラと人類をめぐる歴史生態学」『国立民族学博物館 特別研究「歴史生態学から見た人と生き物の関係」要旨集』pp.86. 大阪:国立民族学博物館

- (2018.3.14)
- 2018 「カナダ先住民の文化の力 – イヌイット・アートを中心に」『民族藝術学会会報』92:5
(2018.3.10)
- 2018 Comments on Ready and Power's "Why Wage Earners Hunt Food Sharing, Social Structure, and Influence in an Arctic Mixed Economy" *Current Anthropology* 59(1): 89-90 (2018. February)
- 2018 「カナダ先住民の文明論— ヨーロッパ文明との遭遇を中心に」『比較文明学会会報』68: 8
(2018.1.19)
- 2018 「カナダ先住民と建国 150 年—北西海岸先住民を事例に」『国立民族学博物館友の会ニュース』242:4 (2018.1.1)
- 2017 "History and Current Status of Indigenous People in Canada, International Symposium September 9, 2017" *Minpaku Anthropology Newsletter* 45: 14-15 (2017 December)
- 2017 "Minpaku Info-forum Museum Project: Progress Report" *Minpaku Anthropology Newsletter* 45: 4-5 (2017 December)
- 2017 「先住民による捕鯨と「動物の権利」」『民博通信』159: 10-11(2017.12.25)
- 2017 「北アメリカ北方地域における先住民文化の多様性と定量化」小林豊編『第4回研究大会 パレオアジア文化史学 プログラム・要旨集』pp.16-17. 東京：東京大学(2017.12)
- 2017 「カナダ(一般)」中牧弘允編『世界の暦文化事典』pp.356-359,東京：丸善出版(2017.11.25)
- 2017 「カナダ(イヌイット)」中牧弘允編『世界の暦文化事典』pp.360-363,東京：丸善出版(2017.11.25)
- 2017 「生きるための移動」国立民族学博物館編集『国立民族学博物館 開館 40 周年 展示案内』pp.186-189. 大阪：国立民族学博物館(2017.11.8)
- 2017 「イヌイットの醗酵肉料理」『Vesta』108:22-23 (2017.11.1)
- 2017 「日本カナダ学会第 42 回年次研究大会を終えて」『日本カナダ学会ニューズレター』108:1-2(2017.11)
- 2017 「一般公開国際シンポジウム：「カナダ先住民の歴史と現状」『日本カナダ学会ニューズレター』108:4-6(2017.11)
- 2017 「カナダ・イヌイット社会の歴史的变化と現状」一般公開国際シンポジウム「カナダ先住民の歴史と現状」日本カナダ学会第 42 回年次大会企画委員会編『日本カナダ学会第 42 回年次研究大会 プログラム・報告要旨』pp.21. 大阪：国立民族学博物館(2017.9.1)
- 2017 「カナダ建国 150 周年と先住民政策」『みんぱく e-news』(2017.9.1)
- 2017 「カナダ先住民社会の変貌」『月刊みんぱく』9月号:2-3 (2017.9.1)
- 2017 「イヌイット村落再訪」『月刊みんぱく』9月号:8-9 (2017.9.1)
- 2017 「カナダの先住民社会—多様な文化の展開」細川道久編『カナダの歴史を知るための 50 章』pp.34-39. 東京:明石書店(2017.8.10)
- 2017 「第 42 回年次研究大会へのお誘い」『日本カナダ学会(JACS)ニューズレター』107:11(2017.7)
- 2017 Indigenous trading networks across the Bering Strait from the eighteenth to the twentieth centuries. ICAS 10 Organizing Committee (ed.) *Conference Abstracts Overview of the ICAS 10*. PP.355-

356. Leiden: ICAS Secretariat (2017 July).
- 2017 Whaling Right and Animal Welfare. In ICASS IX Organizing Committee ed. Full Session Programme with Abstracts . pp.132. Umea, Sweden: International Arctic Social Sciences Association (2017 June).
- 2017 Recent Trends in Inuit Migration to Southern Regions of Canada: A focus on Montreal. In ICASS IX Organizing Committee ed. Full Session Programme with Abstracts . pp.333. Umea, Sweden: International Arctic Social Sciences Association (2017 June).
- 2017 「先住民生存捕鯨と動物福祉の問題」日本文化人類学会第 51 回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会第 51 回研究大会研究発表要旨集』pp.120.神戸：日本文化人類学会第 51 回研究大会準備委員会 (2017.5.27)
- 2017 「新世紀ミュージアム カナダ歴史博物館」『月刊みんぱく』4月号：16-17 (2017.4.1)
- 2017 「民博収蔵の北米北方先住民民族資料の高度情報化と情報発信」『民博通信』156: 10-11 (2017.3.25)
- 2017 「北アメリカ・アラスカ地域における現代の先住民捕鯨と気候変動」池谷和信・岸上伸啓編『平成 28 年度国立民族学博物館特別研究シンポジウム「歴史生態学から見た人と生き物の関係」プログラム・要旨集』P9. 大阪：国立民族学博物館(2017.3.24)
- 2017 「人類社会における自然環境や異文化との共生・共存について：アラスカ先住民イヌピアットの捕鯨文化を事例として」I-URIC フロンティアコロキウム 2016 運営員会編『I-URIC フロンティアコロキウム 2016 予稿集』P6. 東京：自然科学研究機構(2017.3.2)
- 2017 「変貌をとげるカナダ・イヌイット社会」『みんぱく e-news』第 187 号(2017.1.1)
- 2016 「書評：浜口尚著『先住民生存捕鯨の文化人類学的研究 - 国際捕鯨委員会の議論とカリブ海ベクウェイ島の事例を中心に』東京, 岩田書院, 2016 年 193 頁, 3000 円 (+税)」『文化人類学』81(3): 539-542 (2016.12.31)
- 2016 Comments on “Relocation Redux: Labrador Inuit Population Movements and Inequalities in the Land Claims Era” *Current Anthropology* 57(6): 798 (2016 December)
- 2016 「コメント（北西海岸先住民の木箱づくり）」上羽陽子・中牧弘允・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄編『学校と博物館でつくる国際理解教育のワークショップ』（SER138 号）p.124, 大阪：国立民族学博物館(2016.12.16)
- 2016 Book review: *A Tale of Three Villages: Indigenous-Colonial Interactions in Southwestern Alaska, 1740-1950*. Liam Frink. Tucson: University of Arizona Press, 2016, 184PP. \$55.00, Cloth. ISBN 978-0-8165-3109-7. *Journal of Anthropological Research* 72(4): 566-567 (2016 December)
- 2016 「国立民族学博物館の収蔵品(6) カナダ・イヌイットの石製彫刻品と版画」『文部科学教育通信』400 号、表紙裏(2016.11.28)
- 2016 「現代文明からみた生き物ークジラなどの野生動物の利用と保護をめぐる」『みんぱく公開講演会 スイカで踊る、クジラを祭る 生き物と人 共生の風景』pp.6-8, 大阪：国立民族学博物館 (2016.11.10)
- 2016 「アイヌと海外の先住民」『月刊みんぱく』11月号 P.8 (2016.11.1)

- 2016 「先住民族を知ろう（Ⅱ）イヌイット」『朝日小学生新聞』（2016.10.9）
- 2016 「分配（シェアリング）に関する海外研究動向」『民博通信』154:24（2016.9.30）
- 2016 「トーテムポールー北西海岸先住民文化の象徴」阿部珠里編『アメリカ先住民を知るための 62 章』 pp.236-240, 東京:明石書店(2016.9.25)
- 2016 「ポトラッチ/ギヴ・アウェイー寛容さの具現化」阿部珠里編『アメリカ先住民を知るための 62 章』 pp.241-245, 東京:明石書店(2016.9.25)
- 2016 「トリックスターー聖者か世紀の大ペテン師か」阿部珠里編『アメリカ先住民を知るための 62 章』 pp.299-303, 東京:明石書店(2016.9.25)
- 2016 Sharing of Bowhead whale meat among the Inupiat in Barrow, Alaska, USA. In Friesen, David and Noa Levi (eds.) Programme an Abstract of the International Conference “SHARING The Archaeology & Anthropology of Hunter-Gatherers”, P.17, Cambridge, UK: McDonald Institute for Archaeological Research, University of Cambridge, UK (2016.9.20)
- 2016 「カナダ先住民の生活空間としての都市ーケベック州モンリオールを事例としてー」『日本カナダ学会第 41 回年次研究大会 プログラム・報告要旨』 p.11, 東京：日本カナダ学会第 41 回年次研究大会実行委員会（2016.9.10）
- 2016 「おわりに」岸上伸啓編『贈与論再考 人間はなぜ他者に与えるのか』 pp.313-314, 京都：臨川書店(2016.7.31)
- 2016 「はじめに」岸上伸啓編『贈与論再考 人間はなぜ他者に与えるのか』 pp.5-7, 京都：臨川書店(2016.7.31)
- 2016 「贈与論再考 人類社会における贈与・交換・分配・再分配の検討」日本文化人類学会第 50 回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会 第 50 回研究大会発表要旨集』 pp.34, 名古屋：日本文化人類学会第 50 回研究大会準備委員会(南山大学)（2016.5.28）
- 2016 「マルセル・モースの贈与概念と狩猟採集民の分配 アラスカのイヌピアット社会を事例として」日本文化人類学会第 50 回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会 第 50 回研究大会発表要旨集』 pp.35, 名古屋：日本文化人類学会第 50 回研究大会準備委員会(南山大学)（2016.5.28）
- 2016 「息子に「おばあちゃん」（カナダ、イヌイット）」岩波書店辞典編集部編『世界の名前』（岩波新書） pp.142-144. 東京：岩波書店(2016.3.18)
- 2016 「グリーンランドとアイスランドの捕鯨」小澤実・中丸禎子・高橋美野梨編『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』 pp.233-238. 東京：明石書店(2016.3.20)
- 2016 「アイスランドとグリーンランドの現代芸術ー音楽・映画・文学」小澤実・中丸禎子・高橋美野梨編『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』 pp.249-253. 東京：明石書店(2016.3.20)
- 2016 「グリーンランドの音楽(コラム(6))」小澤実・中丸禎子・高橋美野梨編『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』 pp.270-272. 東京：明石書店(2016.3.20)
- 2016 「日本におけるグリーンランド展示ー北海道立北方民族博物館と国立民族学博物館」（山田祥子との共著）小澤実・中丸禎子・高橋美野梨編『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための 65 章』 pp.375-379. 東京：明石書店(2016.3.20)

- 2016 「現代に生きる伝統(4) ドラムダンス」『毎日新聞(夕刊)』(2016.3.3)
- 2016 「現代に生きる伝統(3) ナルカタックの様子」『毎日新聞(夕刊)』(2016.2.25)
- 2016 「現代に生きる伝統(2) クジラを解体するハンターたち」『毎日新聞(夕刊)』(2016.2.18)
- 2016 「寒い地域に生きる人々―アラスカの生活―」『中学社会地理的分野』(文部科学省検定済教科書 中学校社会科用) pp.20-21, 大阪: 日本文教出版(2016.2.10)
- 2016 「現代に生きる伝統(1) ホッキョククジラ猟」『毎日新聞(夕刊)』(2016.2.4)
- 2015 「おわりに」岸上伸啓編『環北太平洋地域の先住民文化』(国立民族学博物館調査報告 (SER)132号) pp. 259, 大阪: 国立民族学博物館(2015.12.1)
- 2015 「はじめに」岸上伸啓編『環北太平洋地域の先住民文化』(国立民族学博物館調査報告 (SER)132号) pp. 1-4, 大阪: 国立民族学博物館(2015.12.1)
- 2015 「国立民族学博物館における 1990 年代以降の北アメリカ先住民資料の収集 について―イヌイット版画と北西海岸先住民版画を中心に―」齋藤玲子編『カナダ先住民芸術の歴史的展開と現代的課題―国立民族学博物館所蔵のイヌイット および北西海岸先住民の版画コレクションをとおして』(国立民族学博物館調査報告 (SER)131号) pp. 17-20, 大阪: 国立民族学博物館(2015.11.30)
- 2015 「北アメリカ北西海岸先住民のポトラッチ儀礼のダンス」国枝たか子編『世界のダンス II ～百カ国を結ぶ舞踏文化～』pp. 80-81, 東京: 不昧堂出版(2015.11.25)
- 2015 「アラスカ先住民のドラム・ダンス」国枝たか子編『世界のダンス II ～百カ国を結ぶ舞踏文化～』pp. 82-83, 東京: 不昧堂出版(2015.11.25)
- 2015 「カナダ研究と私」『日本カナダ学会関西地区便り』100: 11 (2015.11.15)
- 2015 「イヌイットのアザラシ猟」『京都新聞』(2015.10.21)
- 2015 「北アメリカの北太平洋沿岸地域と極北・亜極北地域の先住民文化に関する文化人類学研究の動向: 日本人人類学者および日本の博物館・大学による貢献」『第 30 回 北方民族文化シンポジウム 網走発表要旨集 ([第 30 回記念大会 北方民族研究 30 年―成果・課題・博物館の役割―)]』pp.5, 網走: (財)北方文化振興協会・北海道立北方民族博物館(2015.10.24)
- 2015 「極北の祝宴―クジラを分かち合い、食べる喜び」『Vesta』100: 22-24(2015.11.1)
- 2015 A Comparative Study of Contemporary Indigenous Whale Hunts in North America. Abstract of Session 42, CHAGS 11 (September 9, 2015)
- 2015 「アラスカ・イヌピアット社会における使者祭りの変化と現状について」日本文化人類学会第 49 回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会 第 49 回研究大会発表要旨集』pp.105, 大阪: 日本文化人類学会第 49 回研究大会準備委員会(国立民族学博物館) (2015.5.25)
- 2015 「北極海の「クジラ料理」」『京都新聞(朝刊)』(2015.5.20)
- 2015 “Inuit in Urban Centers: A Case Study from Montreal, PQ, Canada” In The Japan Studies Association of Canada (ed.) Programme/Abstract of 2015 Integrated International Conference of The Japan Studies Association of Canada (JSAC), Japanese Association for Canadian Studies (JACS), and Japan-Canada Interdisciplinary Research Network (JCIRN), PP. 34. Vancouver: The Japan Studies Association of Canada.

- 2015 『極北の大地・グリーンランドの夜明け-The First Steps-』(ヌカ・K・ゴッツフレッセン作・画、沢広あや訳、岸上伸啓監修) 東京：清水弘文堂書房(2015.4.15)
- 2015 「グリーンランドー人と自然のかかわり」『季刊 民族学』151: 3-23(2015.1.25)
- 2014 「ユーラシアの事例からモースの「贈与論」を再考する」『民博通信』147: 14-15 (2014.12.26)
- 2014 “Unknown Land, Greenland: Its Nature and Culture, Thematic Exhibition September 4 – November 18, 2014” MINPAKU Anthropology Newsletter 39: 14 (2014.12)
- 2014 「コラム4 イヌピアットはどのように捕鯨をするのか？」高倉浩樹・山口未花子編『食と儀礼をめぐる地球の旅ー先住民文化からみたシベリアとアメリカー』pp121, 仙台：東北大学出版会(2014.10.30)
- 2014 「アラスカ先住民のクジラ料理 ミキガック」『月刊みんぱく』11月号 pp.18-19 (2014.11.1)
- 2014 「極北の孤島グリーンランドにおける気候変動と文化の変遷」『国立民族学博物館友の会ニュース』223: 6 (2014.11.1)
- 2014 「北アメリカ北西海岸地域での丸木舟収集の思い出ー2001 年度特別展「ラッコとガラス玉」との関連で」『季刊民族学』150: 29-31 (2014.10.25)
- 2014 「グリーンランドに見る温暖化 知恵と技術で環境に適応」『産経新聞(夕刊)』(2014.10.14)
- 2014 「世界最大の島の自然と文化」『月刊みんぱく』10月号 pp.2-3. (2014.10.1)
- 2014 “Comment on ‘The Rotten Renaissance in the Bering Strait’” Current Anthropology 55(5): 638-639. (2014.10)
- 2014 「フォーラム型情報ミュージアムの構築ー国立民族学博物館における新たな展開」『民博通信』146: 2-7 (2014.9.30)
- 2014 『グリーンランド写真帳ーヌーク篇ー』札幌：風土デザイン研究所(2014.9.10)
- 2014 「イヌイットと醤油」『毎日新聞(夕刊)』(2014.8.28)
- 2014 「コメント1 海産哺乳類の保護を目指した文理融合型研究の試み」市川光太郎・縄田浩志編『アラブのなりわい生態系7 ジュゴン』pp.296-308. 京都：臨川書店(2014.7.31)
- 2014 「カナダのイヌイットの暦」岡田芳郎ほか編集『暦の大事典』pp.31-34. 東京：朝倉書店(2014.7.20)
- 2014 「文化相対主義」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』pp.40-41. 東京：丸善出版 (2014.7.10)
- 2014 「先住民と紛争」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』pp.112-113. 東京：丸善出版(2014.7.10)
- 2014 「グローバル経済」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』pp.581. 東京：丸善出版 (2014.7.10)
- 2014 「格差の拡大」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』pp.582-583. 東京：丸善出版 (2014.7.10)
- 2014 「リスク社会」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』pp.592-593. 東京：丸善出版 (2014.7.10)
- 2014 「市場経済」国立民族学博物館編『世界民族百科事典』pp.594-595. 東京：丸善出版 (2014.7.10)
- 2014 Comparative Studies of Indigenous Cultures around the North Pacific Rim: Focusing on Indigenous Rights and Marine Resource Utilization. Minpaku Anthropology Newsletter 38: 10-11 (2014.6)
- 2014 『イヌピアット写真帳ーバロー村の暮らしー』札幌：風土デザイン研究所 (2014.6.1)

- 2014 The Inuit Bowhead Hunt and Indigenous Rights in Canada. In the Organizing Committee of the IUES 2014 (ed.), Conference Programme Abstract of IUAES 2014 with JASCA/.. pp.32. Tokyo: Tokyo Metropolitan University (2014.5)
- 2014 「書評：大村敬一著『カナダ・イヌイトの民族誌』』『図書新聞』 314: 3 (2014.4.12)
- 2014 「書評：大村敬一著『カナダ・イヌイトの民族誌 日常実践のダイナミックス』』『カナダ学会ニューズレター』 97: 5-7 (2014.3.31)
- 2014 「人間学のキーワード 贈与」『月刊みんぱく』 3月号 pp.20. (2014.3.1)
- 2014 「トゥピラク」「イメージの力」実行委員会編『イメージの力ー国立民族学博物館コレクションにさぐる』, pp.235. 大阪：国立民族学博物館 (2014.2.18)
- 2014 「アラスカ・イヌピアットの捕鯨活動 機能的な鯨肉分配システム」『産経新聞(夕刊)』(2014.2.3)
- 2014 「みんぱく世界の旅 イヌイト (4) 極北の鯨祭り」『毎日小学生新聞』(2014.1.18)
- 2014 「みんぱく世界の旅 イヌイト (3) 極北地域の芸術家」『毎日小学生新聞』(2014.1.11)
- 2014 「みんぱく世界の旅 イヌイト (2) 極北の子どもたち」『毎日小学生新聞』(2014.1.4)
- 2014 (With D. Koester) Program and Abstract of the International Symposium “Comparative Studies of Indigenous Cultures around the North Pacific Rim: Focusing on Indigenous Rights and Marine Resources” (held at the National Museum of Ethnology, Osaka, Japan on January 11 – 13, 2014). Osaka: Kishigami’s Research Office, National Museum of Ethnology (2014.1.11)
- 2014 “The History and Present Situation of Comparative Studies of Indigenous Cultures around the North Pacific Rim” in David Koester and Nobuhiro Kishigami (eds.) Program and Abstract of the International Symposium “Comparative Studies of Indigenous Cultures around the North Pacific Rim: Focusing on Indigenous Rights and Marine Resources” (held at the National Museum of Ethnology, Osaka, Japan on January 11 – 13, 2014). Osaka: Kishigami’s Research Office, National Museum of Ethnology (2014.1.11)
- 2014 「冬を楽しむ (4) 2年に1度の「使者祭」」『毎日新聞(夕刊)』(2014.1.9)
- 2013 「みんぱく世界の旅 イヌイト (1) 極北地域の生活」『毎日小学生新聞』(2013.12.28)
- 2013 「Project 北アメリカ先住民の事例からモースの「贈与論」を再考する」『民博通信』 143: 12-13 (2013.12.25)
- 2013 「出版物 Anthropological Studies of Whaling (Senri Ethnological Studies no.84)」『民博通信』 143: 29 (2013.12.25)
- 2013 「日だまりカフェ 1000年の捕鯨民族 未来は・・・」『読売新聞(夕刊)』(2013.11.21)
- 2013 「日だまりカフェ 獲物の分配 当たり前」『読売新聞(夕刊)』(2013.11.14)
- 2013 「日だまりカフェ 極北 魅力あふれる人々」『読売新聞(夕刊)』(2013.11.7)
- 2013 「よそ者? (3) 極北の踏み絵」『毎日新聞(夕刊)』(2013.10.31)
- 2013 「解説：5月、イエロー・シダー・マン」国立民族学博物館監修「国立民族学博物館 2014年オリジナルカレンダー」大阪：千里文化財団 (2013.10.31)
- 2013 Preface. (written with J. M. Savelle and H. Hamaguchi) In N. Kishigami, H. Hamaguchi, and J. M.

- Savelle (eds.) *Anthropological Studies of Whaling* (Senri Ethnological Studies 84), pp. i-ii. Osaka: National Museum of Ethnology (2013.8.30)
- 2013 Concluding Remarks. (written with J. M. Savelle and H. Hamaguchi) In N. Kishigami, H. Hamaguchi, and J. M. Savelle (eds.) *Anthropological Studies of Whaling* (Senri Ethnological Studies 84), pp. 355-357. Osaka: National Museum of Ethnology (2013.8.30)
- 2013 「アラスカ先住民イヌピアットの鯨肉の分配と流通について」日本文化人類学会第47回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会第47回研究大会発表要旨集』pp.135, 東京：日本文化人類学会第47回研究大会準備委員会(2013.6.8)
- 2013 「極北の生食」一色賢司監修『生食のおいしさとリスク』pp.73-80. 東京：(株) エヌ・ティー・エス(2013.6.10)
- 2013 「極北先住民イヌイットの衣類」上羽陽子監修『世界のかわいい民族衣装』pp.138-141. 東京：誠文堂新光社(2013.4.26)
- 2013 「ワタリガラス」『月刊 みんぱく』(4月号) 37(4):9 (2013.4.1)
- 2013 「シンポジウムの成果」北海道立北方民族博物館編『第27回北方民族文化シンポジウム網走 環境変化と先住民の生業—海洋生態系における適応—』pp.47-48, 網走：北方文化振興協会 (2013.3.28)
- 2013 Homeless Inuit of Urban Centers in Canada: Results from Montreal Research. In *The Society for Applied Anthropology 2013 Program Committee (ed.) Program and Abstracts of SFAA 2013 Annual Meeting*, pp.106. Denver: Society for Applied Anthropology (March, 2013).
- 2013 「コラム 変わるカナダ北部に住むイヌイットの生活～民族学者岸上伸啓さんのお話～」東京法令出版教育出版部編『ニュースタイル ビジュアル 地理 世界・日本』pp.16. 東京：東京法令出版(2013.2)
- 2012 「Project なぜ人は他の人にモノを与えるのか？」『民博通信』139号 pp.16-17.(2012.12.28)
- 2012 「先住民の生活舞台 極北、北西海岸、そして都市」飯野正子・竹中豊編『カナダを旅する 37章』pp.132-139. 東京：明石書店(2012.10.31)
- 2012 「先住民アート イヌイットと北西海岸先住民の美」飯野正子・竹中豊編『カナダを旅する 37章』pp.286-292. 東京：明石書店(2012.10.31)
- 2012 「美味望郷 (1) 北極海のクジラ料理」『毎日新聞(夕刊)』(2012.9.6)
- 2012 「World Watching from the Arctic 『岐路に立つ先住民生存捕鯨』」みんぱく e-news 135号 (2012.9.14)
- 2012 「カナダにおけるイヌイットのホッキョククジラ猟と先住民権」日本カナダ学会第37回年次研究大会実行委員会編『日本カナダ学会第37回年次研究大会プログラム・要旨』pp.14. 大阪：日本カナダ学会(2012.9)
- 2012 “The Inuit’s Bowhead Whale Hunt and Indigenous Rights in Canada” *The Program and Summary of the 37th Annual Conference of the Japanese Association for Canadian Studies* PP.15, Osaka: The Japanese Association for Canadian Studies (2012 September)
- 2012 「イエローナイフ」日本カナダ学会カナダ豆事典編集委員会編『カナダ豆事典』PP.11. 大阪：日本カナダ学会(2012.9)

- 2012 「イヌイト」日本カナダ学会カナダ豆事典編集委員会編『カナダ豆事典』PP.11. 大阪：日本カナダ学会(2012.9)
- 2012 「準州」日本カナダ学会カナダ豆事典編集委員会編『カナダ豆事典』PP.70. 大阪：日本カナダ学会(2012.9)
- 2012 「先住民アート」日本カナダ学会カナダ豆事典編集委員会編『カナダ豆事典』PP.78-79. 大阪：日本カナダ学会(2012.9)
- 2012 「ノースウエスト準州」日本カナダ学会カナダ豆事典編集委員会編『カナダ豆事典』PP.103-104. 大阪：日本カナダ学会(2012.9)
- 2012 「バフィン島」日本カナダ学会カナダ豆事典編集委員会編『カナダ豆事典』PP.108. 大阪：日本カナダ学会(2012.9)
- 2012 「ファースト・ネーションズ」日本カナダ学会カナダ豆事典編集委員会編『カナダ豆事典』PP.113. 大阪：日本カナダ学会(2012.9)
- 2012 「世界の捕鯨の歴史と現状」『食生活』106(8):50-53(2012.8.1)
- 2012 「イヌイトの暮らしをささえる：ワモンアザラシ」『月刊みんぱく』編集部編『食べられる生きものたち 世界の民族と食文化 48』pp.48-49. 東京：丸善出版(2012.7.30)
- 2012 「カナダにおける都市先住民イヌイトをめぐる支援活動」日本文化人類学会第46回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会第46回研究大会発表要旨集』,p.257. 広島：広島大学大学院総合科学研究科(2012.6.23)
- 2012 「「格差」に関する訳者あとがき」Ben Crow and Suresh K. Lodha 著 岸上伸啓訳 『格差の世界地図』pp.124-125. 東京：丸善出版(2012.5.31)
- 2012 The Inuit's Migration Patterns and Drastic Increase in Urban Centers of Canada. ICCS (International Council for Canadian Studies) ed. ICCS International Conference Abstracts/Resumes/Biographies, pp.19. Ottawa: International Council for Canadian Studies (May, 2012)
- 2012 「はじめに」岸上伸啓編『捕鯨の文化人類学』pp.i. 東京：成山堂書店(2012.3.31)
- 2012 「おわりに」岸上伸啓編『捕鯨の文化人類学』pp.337-339. 東京：成山堂書店(2012.3.31)
- 2012 「アメリカ大陸の物作り(2) イヌイトの版画」『毎日新聞(夕刊)』(2012.1.19)
- 2011 Exhibition: Devotion of the Arts of Living: Daily Life among the Aynu of the Kurile, Sakhalin and Hokkaido Islands—Objects from the Late 19th–Early 20th Century Collections of Ethnological Museums in Germany and Japan (Special Exhibition October 6–December 6, 2011) MINPAKU Anthropology Newsletter 33: 12 (2011.12)
- 2011 「くらしの美(7) アイヌ文様」『毎日新聞(夕刊)』(2011.10.20)
- 2011 「World Watching from Quebec, Canada 「カナダ・イヌイトによる捕鯨の再開」みんぱく e-news 124号(2011.10.06)
- 2011 「私たちのフィールド アラスカ先住民イヌピアットによるホッキョククジラの解体と分配」『Arctic Circle』80: 6-7 (2011.9.30)
- 2011 「遠ざかるクジラ」『月刊 みんぱく』8月号 pp.8. (2011.8.1.)

- 2011 Whaling Cultures of the World: Past, Present, and Future. MINPAKU Anthropology Newsletter 32: 17 (2011 June).
- 2011 Aboriginal/Indigenous Subsistence Whaling in Alaska, USA. In Jón Haukur Ingimundarson and Joan Bymand Larsen (eds.) Abstracts of the Seventh International Congress of Arctic Social Sciences (ICASS) VII. pp.73-74. Akureyri, Iceland: International Arctic Social Sciences Association (2011 June).
- 2011 Sharing and Distribution of a Bowhead Whale among the Inupiat in Barrow, Alaska. In Jón Haukur Ingimundarson and Joan Bymand Larsen (eds.) Abstracts of the Seventh International Congress of Arctic Social Sciences (ICASS) VII. pp.74. Akureyri, Iceland: International Arctic Social Sciences Association (2011 June).
- 2011 「米国アラスカにおけるイヌピアットの先住民生存捕鯨」日本文化人類学会第 45 回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会第 45 回研究大会発表要旨集』,p.155. 東京：法政大学国際文化学部 (2011.6.11)
- 2011 「イヌイット・アートと著作権」『月刊みんぱく』5月号 pp.6 (2011.5.1)
- 2011 「Comment on James Clifford's Lecture "Repatriation and the Second Life Heritage: Return of the Masks in Kodiak, Alaska"」『国立民族学博物館研究報告』35(4): 739-741 (2011.3.31)
- 2011 「調査捕鯨中止を考える 「環境帝国主義」の脅威」『毎日新聞(夕刊)』2011年3月8日(火) (2011.3.8)
- 2011 『国際シンポジウム「世界の捕鯨文化の過去、現在、そして未来」プログラム・抄録』(岸上伸啓・ジェイムズ・サベール編) 大阪：国立民族学博物館岸上研究室(2011.3.10)
- 2011 「米国アラスカにおける先住民生存捕鯨」岸上伸啓・ジェイムズ・サベール編『国際シンポジウム「世界の捕鯨文化の過去、現在、そして未来」プログラム・抄録』p.24, 大阪：国立民族学博物館岸上研究室(2011.3.10)
- 2011 「再見細見世界情勢 17 地球温暖化とイヌイット」『季刊 民族学』135: 57-72 (2011.2.25)
- 2011 「クジラと人間」を考える-先住民生存捕鯨の現場から『Human』 1: 115-122 (2011.2.28)
- 2010 「アラスカ先住民イヌピアットの捕鯨」『モーリー』23: 33-34 (2010.12.17)
- 2010 「特別な日の過ごし方 (1) 鯨が捕れた日」『毎日新聞(夕刊)』(2010.12.1)
- 2010 「20 世紀後半以降における先住民アートの展開—イヌイット版画を中心に」比較文明学会編『比較文明学会第 28 回大会発表要旨集 芸術から文明を考える』 pp. 20, 京都：京都市立芸術大学 (2010.11.27)
- 2010 「カナダの先住民—同化からふたたび自律へ—」飯野正子・竹中豊編著 『現代カナダを知るための 57 章』 pp.54-58, 明石書店(2010.11.22)
- 2010 「イヌイット・アートの展開—創り出された新たな伝統—」飯野正子・竹中豊編著 『現代カナダを知るための 57 章』 pp.162-167, 明石書店(2010.11.22)
- 2010 「海洋資源と生態学的知識—先住民によるクジラ資源の利用」総合地球環境学研究所編『地球環境学事典』pp.308-309. 東京：弘文堂(2010.10.30)
- 2010 「世界の捕鯨を再考する」『民博通信』129: 20-21 (2010.9.30)

- 2010 「アラスカ・イヌピアット社会における気候変動と石油開発の影響」『Artic Circle』75: 4-9. (2010.6.30)
- 2010 Review of Furs and Frontiers in the Far North: The Contest among Native and Foreign Nations for the Bering Strait Fur Trade. (The Lamar Series in Western History.) by John R. Bockstoe. The American Historical Review 115: 814–815. New Haven: Yale University Press.
- 2010 「アラスカ先住民イヌピアットの捕鯨祭り[アプガウティ]と食物分配 アラスカ州バロー村の事例」日本文化人類学会第44回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会第44回研究大会 プログラム・研究発表要旨』,p.114. 新座市：立教大学観光学部(2010.6.12.)
- 2010 「資源管理 地球的視点で：(書評)赤嶺淳著『ナマコを歩く』(新泉社、2010年)」『北海道新聞(朝刊)』(2010.6.20)
- 2010 「聞きたい 高まる捕鯨批判『環境の免罪符に』」(インタビュー記事)『毎日新聞』5月18日。
- 2010 「表紙モノ語り 先住民の思いを刻むトーテムポール」『月刊みんぱく』34(4)：11。
- 2010 「ドラム・ダンス」齋藤玲子・大村敬一・岸上伸啓編, pp.67, 『極北と森林の記憶－イヌイットと北西海岸インディアンの版画－』京都：昭和堂(2010.3.30)
- 2010 「遊び」齋藤玲子・大村敬一・岸上伸啓編, pp.46, 『極北と森林の記憶－イヌイットと北西海岸インディアンの版画－』京都：昭和堂(2010.3.30)
- 2010 「狩猟採集」綾部恒雄・桑山敬己編『よくわかる文化人類学』(第2版) pp.30-35. 京都：ミネルヴァ書房(2010.2.25)
- 2010 「民族の文化と伝統(4) 北極の狩人イヌイット」『少年写真新聞 小学図書館ニュース』No.869. (2010.2.8)
- 2010 「北極に暮らすイヌイットの現在」『少年写真新聞 小学図書館ニュース』No.869 付録 pp.1. (2010.2.8)
- 2010 「第376回友の会講演会要旨 特別展「自然のこえ 命のかたち」関連「カナダ先住民のこれまでとこれから－生業と文化の権利を中心に」」『国立民族学博物館友の会ニュース』第191号, P4 (2010.1.1.)
- 2009 Voices from the Land, Visions of Life: Beauty Created by the Indigenous Peoples of Canada—Special Exhibition—September 10–December 8, 2009. MINPAKU Anthropology Newsletter 29: 10–11.
- 2009 「2009年という年」『日本カナダ学会関西地区便り』第80-2号, P.3 (2009.12.19)
- 2009 「第34回年次研究大会を終えて」『日本カナダ学会ニューズレター』85号, pp.1. (2009.12)
- 2009 「基調講演(第1日午後)」『日本カナダ学会ニューズレター』85号, pp.2-3. (2009.12)
- 2009 「シンポジウム「カナダにおける先住民アートの展開－イヌイットと北西海岸先住民のアート伝統」」『日本カナダ学会ニューズレター』85号, p.6-7. (2009.12)
- 2009 「暖をとる(1) 極北の紅茶」『毎日新聞 夕刊』(2009.12.2)
- 2009 「生きもの博物誌 イヌイットの暮らしを支える<ワモンアザラシ>」『月刊 みんぱく』12月号 pp.18-19.(2009.12.1.)
- 2009 「【16】みんぱくのオタカラ ●トーテムポール」みんぱく e-news 100号 (2009.10.14)
- 2009 「【15】みんぱくのオタカラ ●イヌイット版画」みんぱく e-news 99号 (2009.9.8)

- 2009 「人、アートと出会う (1) 極北のアーティスト」『毎日新聞 夕刊』(2009.10.7.)
- 2009 The Contemporary Inuit in North and South of Canada: Roles of Museums/Community Centers for Keeping Lifestyles and Identities of the Inuit Alive. The Program and Abstract of The 4th Conference of Pacific Asia Network of Canadian Studies, pp. 25–26, 11 September. Osaka: The PANCS Organizing Committee.
- 2009 「カナダにおける先住民アートの展開：シンポジウムの序論」『日本カナダ学会第 34 回年次研究大会プログラム・抄録集』 p.23. 日本カナダ学会(2009.9.12)
- 2009 Development of Indigenous Art in Canada: Introduction to the Symposium. The Program and Summary of the 34th Annual Conference of the Japanese Association for Canadian Studies, pp.24, 12 September. Tokyo: The Japanese Association for Canadian Studies.
- 2009 「自然と生命を尊ぶ共生の思想—カナダ先住民の環境、歴史、そして生き方」国立民族学博物館編『自然のこえ 命のかたち—カナダ先住民の生みだす美』 pp.6-10.京都：昭和堂(2009.9.4)
- 2009 「特別展 自然のこえ 命のかたち—カナダ先住民の生みだす美」『月刊みんぱく』9月号 pp2-3. (2009.9.1)
- 2009 「「カナダ文明博物館」の逸品を愛でる機会」『月刊みんぱく』9月号 pp4. (2009.9.1)
- 2009 「表紙モノ語り イヌイットの版画「夏のふくろう」」『月刊みんぱく』9月号 pp11. (2009.9.1)
- 2009 「アラスカ先住民イヌピアックとホッキョククジラの関係の変化」『人文地理』第 61 巻 3 号 pp.282-283. (2009.6.29)
- 2009 「ひと イヌイットの伝統捕鯨を研究する動物考古学者 ジェイムズ・サベールさん」『民博通信』125号 pp. 28. (2009.6.30)
- 2009 「イヌイット・アートの歴史的展開と現状—滑石彫刻と版画を中心に」日本文化人類学会第 43 回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会第 43 回研究大会プログラム・研究発表要旨集』 pp.193. 大阪：国立民族学博物館(2009.5.29)
- 2009 「第 20 章 カナダ先住民」日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』 pp.206-215. 東京：有斐閣(2009.4.25.)
- 2009 「第 25 章 ユーコン準州、北西準州、ヌナヴト準州」『はじめて出会うカナダ』 pp.256-264. 東京：有斐閣(2009.4.25.)
- 2009 「資料と通信 みんぱくにおける実践人類学の展開」『民博通信』124号 pp.20-21.
- 2009 「先住民—ケベックの原住民の歴史と現状」小畑精和・竹中豊編『ケベックを知るための 54 章』 pp.119-126.(2009.3.31)
- 2009 「アラスカ先住民イヌピアックの捕鯨とクジラ料理」『Vesta』74号 pp.54-56.
- 2009 Review of Soul Hunters: Hunting, Animism, and Personhood among the Siberian Yukaghirs, by R. Willerslev. *Journal of Anthropological Research* 65: 169–171.
- 2009 「自然との共生・極地と温暖化」国立民族学博物館監修・編集 pp.34.『旅 いろいろ地球人』京都:淡交社(2009.4.22)
- 2009 「もてなしのかたち・イヌイットのもてなし」国立民族学博物館監修・編集 pp.114.『旅 いろ

- いろ地球人』京都:淡交社(2009.4.22)
- 2009 「移動する・氷上の移動」国立民族学博物館監修・編集 pp.150.『旅 いろいろ地球人』京都:淡交社(2009.4.22)
- 2009 「問題提起:みんぱくにおける実践人類学の展開―「文化人類学の社会的活用」」国立民族学博物館・日本文化人類学会編 pp.4-5,『一般公開シンポジウム「人類学の挑戦―これまでとこれから」プログラム・抄録集』大阪:国立民族学博物館(2009.3.8.)
- 2009 「コンパニオン・アニマル(ペット動物)」日本文化人類学会編『文化人類学事典』pp.376-377. 東京:丸善出版(2009.1.25)
- 2009 「名前」日本文化人類学会編『文化人類学事典』pp.404-405. 東京:丸善出版(2009.1.25)
- 2009 「儀礼と再生」日本文化人類学会編『文化人類学事典』pp.406-407. 東京:丸善出版(2009.1.25)
- 2008 (With M. Lee) Les Inuit urbains. Etudes/Inuit/Studies 32 (1): 5-7.
- 2008 (With M. Lee) Urban Inuit. Etudes/Inuit/Studies 32 (1): 9-11.
- 2008 「友の会講演会要旨 第362回8月2日(土)シリーズ「人類学者X人類学者」(3)カナダ先住民研究のパイオニア フランツ・ボアズ」『国立民族学博物館友の会ニュース』第184号、pp.4. (2008.11.1)
- 2008 「人工物の発達とカナダ・イヌイット社会の変化に関する覚え書き」『人工物発達研究』第1巻1号 pp.100-102. (2008.10.1.)
- 2008 A Cultural Anthropological Study of Subsistence Activities with a Special Focus on Indigenous Hunting and Fishing in the Arctic Regions. Abstracts of the 6th International Congress of Arctic Social Sciences (ICASS VI), pp.55. Nuuk, Greenland: International Arctic Social Sciences Association.
- 2008 Homeless Inuit in Montreal, Canada. Abstracts of the 6th International Congress of Arctic Social Sciences (ICASS VI), pp. 111. Nuuk, Greenland: International Arctic Social Sciences Association.
- 2008 「表紙モノ語り 北西海岸のシルクスクリーン版画」『月刊みんぱく』8月号 p.11.(2008.8.1)
- 2008 「歳時世相篇(5)[キャンプ]イヌイットの夏の生活」『月刊みんぱく』8月号 pp.18-19.(2008.8.1)
- 2008 「極北で生きるイヌイット」『聖教新聞(朝刊)』(2008.5.29.)
- 2008 「文化人類学的生業モデルの構築―極北地域の先住民社会における狩猟採集活動を中心に」日本文化人類学会第42回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会第42回研究大会 プログラム・研究発表抄録』P.148. (2008.5.31.)
- 2008 「総合討論 国際開発協力のあり方とフェアトレード」『人間文化』第7巻 pp.28-50. (2008.3.25)
- 2008 「<文化の香り>No.9 第7回シンポジウムを終えて」大学共同利用機関人間文化研究機構ホームページ(2008.1.30)
- 2008 「ヌナヴト イヌイットの自治政府論(1993)」日本カナダ学会編 pp.290-291.『新版 資料が語るカナダ 1535-2007』東京:有斐閣 (2008.1.31)
- 2007 Introduction to the International Development Cooperation of the Dutch Organizations and World Bank. Program and Abstracts. The Fifth International Workshop on Development Cooperation: International Cooperation of the Institute of Social Studies (ISS) and NGOs in the Netherlands and World

- Bank, pp.3. Osaka: National Museum of Ethnology.
- 2007 「総合討論：国際開発協力のあり方とフェアトレード」『人間文化研究機構 第7回公開講演会・シンポジウム 国際開発協力へのまなざしー実践とフィールドワークー』pp.9-11. 大阪：国立民族学博物館(2007年11月)。
- 2007 Review of Social Life in Northwest Alaska: The Structure of Inupiaq Eskimo Nations, by E. S. Burch, Jr. *Journal of Anthropological Research* 63: 434-436.
- 2007 「ほん 新刊レビュー 『ブラックフェラウエイーオーストラリア先住民アボリジナルの選択』(松山利夫著、お茶の水書房 2006年)」『民博通信』118号 pp.25. (2007.9.28)
- 2007 「カナダの都市在住イヌイットの研究」『日本カナダ学会関西地区便り』第70号 pp.2-3. (2007.8.27)
- 2007 「異文化を学ぶ 移動する (3) 氷上の移動」『毎日新聞 (夕刊)』(2007.8.15)
- 2007 「伝統文化への思いを込める」「世界を集める」実行委員会編『世界を集めるー研究者の選んだみんなくコレクションー』pp.102-103. 大阪：国立民族学博物館(2007.7.26)
- 2007 「先住民の開発へのかかわり方と人類学研究」『民博通信』117号 pp. 2-5. (2007.6.30)
- 2007 「リーディング・ガイド (特集 先住民と開発)」『民博通信』117号 pp.16-17. (2007.6.30)
- 2007 「書評：木村和男著 『北太平洋の「発見」ー毛皮交易とアメリカ太平洋岸の分割ー』」『週間読書人』第2693号 pp.4. (2007.6.22)
- 2007 「北の大地に生きる先住民イヌイットの食の変容」『食育活動』第6号 pp.70-75. (2007.6.1)
- 2007 「アラスカ先住民イヌピアックの捕鯨と獲物の分配・流通についての予備的考察」日本文化人類学会第41回研究大会準備委員会編『日本文化人類学会第41回研究大会 プログラム・研究発表抄録』P.89. (2007.6.2.)
- 2007 「極北のペット」『月刊 みんなく』6月号 pp.6-7. (2007.6.1.)
- 2007 「自然のカレンダー」『世界思想』第34号 pp.48-51.(2007.4.)
- 2007 「書評 菅豊著『川は誰のものか 人と環境の民俗学』」『文化人類学』第71巻4号 pp.560-562. (2007.3.31.)
- 2007 「異文化を学ぶ もてなしのかたち (7) イヌイットのもてなし」毎日新聞夕刊 (2007.1.24)
- 2006 Anthropological Research and Inuit Community Development in Montreal, Canada. *Minpaku Anthropology Newsletter*23: 3-4.
- 2006 Development Cooperation of Norway: University of Bergen, Chr. Michelsen Institute, and NGOs. *Minpaku Anthropology Newsletter* 23: 14.
- 2006 Introduction to the Symposium “Development Cooperation of Norway”. Program and Abstracts. Development Cooperation of Norway: University of Bergen, CHR. Michelsen Institute, and NGOs, pp.4, 23 November, Osaka: National Museum of Ethnology.
- 2006 「地球を集める クワクワカワクの丸木舟」『月刊みんなく』11月号 pp. 18-19. (2006.11.1)
- 2006 「民族と人種、文化」小塩和人・岸上伸啓編 pp. 302. 『アメリカ・カナダ』(朝倉世界地理講座13) 東京：朝倉書店 (2006.10.27)

- 2006 「ヌナヴト準州」 小塩和人・岸上伸啓編 pp. 316. 『アメリカ・カナダ』(朝倉世界地理講座 13) 東京: 朝倉書店 (2006.10.27)
- 2006 「アイス・ホッケー」 小塩和人・岸上伸啓編 pp. 364. 『アメリカ・カナダ』(朝倉世界地理講座 13) 東京: 朝倉書店 (2006.10.27)
- 2006 「北アメリカ先住民社会の現在」 『季刊 民族学』 118号 pp.44-49. (2006.10.20)
- 2006 「ヌナヴィク・イヌイット社会」 『季刊 民族学』 118号 pp.72-77. (2006.10.20)
- 2006 「イヌイットの眠りと姿勢」 『月刊みんぱく』 10月号 pp.6-7. (2006.10.1)
- 2006 「文化人類学は医療協力の役に立つのか? -医療従事者と人類学者の対話にむけて-」 岸上伸啓・關雄二・尾崎敬子 『第47回日本熱帯医学会・第21回日本国際保健医療学会 合同大会プログラム抄録集』, p. 76., 長崎: 長崎大学熱帯医学研究所(2006.9)
- 2006 「カナダ・イヌイットの食物分配について -分与と再分配-」 日本文化人類学会第40回研究大会準備委員会編 『日本文化人類学会第40回研究大会プログラム・要旨』 pp.279. (2006.6.3)
- 2006 Homeless Inuit in Montreal: How to Survive in the Hopeless City. In The Canadian Anthropology Society (ed.) Human Nature/Human Identity, pp.35. Program/Abstract of CASCA Meeting, Concordia University, PQ, Canada.
- 2006 「イヌイットの食べ物の分かち合い」 『兵庫教育』 4月号 pp.44-47. (2006.4)
- 2006 Review of The Whales, they Give Themselves: Conversations with Harry Brower, Sr. (2004). Journal of Anthropological Research 62: 128-129.
- 2006 「地域テーマ展示 極北のイヌイット・アート」 国立民族学博物館編 『国立民族学博物館三十年史』, pp.202-203, 大阪: 国立民族学博物館(2006.3.31).
- 2006 「カナダの極北地域」 高橋晴子監修 『民族衣装絵事典』, pp.48-49. 東京: PHP 研究所 (2006.3.27)
- 2006 「モントリオールの酔いどれ天使」 『月刊みんぱく』 2月号 pp.22-23. (2006.2.1)
- 2006 「イヌイットの「水煮」」 『Vesta』 no.61. p.28. (2006.2.1)
- 2005 「「イヌイット」と観光芸術について」 京都嵯峨芸術大学博物館編 『観光芸術展 -観光が育てた芸術作品-』 (The Museum of Kyoto Saga University of Arts Museum & Gallery), pp.5. 京都: 京都嵯峨芸術大学博物館 (2005.10.30)
- 2005 Indigenous Movements in Plural Societies: The Canadian Inuit and the Ainu of Japan. Minpaku Anthropology Newsletter 20: 7.
- 2005 「ひと ローレル・ボッセンさん」 『民博通信』 第109号 pp.28.
- 2005 「先住民たちの現在 (8) イヌイット語を話す人々」 『月刊 言語』 第34巻8号 pp.8-11.
- 2005 「世界の食情景 カナダ 14 極北地域に暮らすイヌイット」 『Vesta』 第59号 pp.41-50.
- 2005 「北方先住民と開発 -カナダ・イヌイットの場合-」 日本文化人類学会第39回研究大会準備委員会編 『日本文化人類学会第39回研究大会 プログラム・研究発表抄録』 pp.38 (2005.5.21)
- 2005 「カナダの都市イヌイットによるメディアの利用 -モントリオールの場合-」 日本文化人類学会第39回研究大会準備委員会編 『日本文化人類学会第39回研究大会 プログラム・研究発表抄録』 pp.56

(2005.5.21)

- 2005 「自然との共生 (5) — 極地と温暖化 —」 毎日新聞(2005.5.18 夕刊)
- 2005 「はじめに」 岸上伸啓編 pp.11-21. 『極北 (世界の食文化 20)』 東京:農文協 (2005.3.25.)
- 2005 「あとがきにかえて—極北の食文化の今—」 岸上伸啓編 pp.246-250. 『極北 (世界の食文化 20)』 東京:農文協 (2005.3.25.)
- 2005 「イヌイットのゴミ」 『月刊みんぱく』 3月号 pp.6-7.
- 2005 「都市イヌイットの見果てぬ夢」 『月刊みんぱく』 3月号 pp.22-23.
- 2004 Role of Social Sciences in Development Projects: International Workshop 6-7, 2004. Minpaku Anthropology Newsletter 19: 14.
- 2004 「コラム 5 イヌイットのタペストリー」 『月刊みんぱく』編集部編 『世界民族モノ図鑑』 pp.182. 東京:明石書店. (2004.12.25)
- 2004 「カナダの丸木舟」 『月刊みんぱく』編集部編 『世界民族モノ図鑑』 pp.226-227. 東京:明石書店. (2004.12.25)
- 2004 「コラム 9 石製彫刻「我が精霊と踊る」」 『月刊みんぱく』編集部編 『世界民族モノ図鑑』 pp.298. 東京:明石書店. (2004.12.25)
- 2004 「クルプニク、イーゴル(1951-) Krupnik, Igor Arctic Adaptations University, Press of New England 1993」 小松和彦ほか編 『文化人類学文献事典』 pp.69. 弘文堂 (2004.12.15)
- 2004 「中村尚司(1938-)・鶴見良行(1926-94)編著 『コモンズの海』学陽書房, 1995」 小松和彦ほか編 『文化人類学文献事典』 pp.163. 弘文堂 (2004.12.15)
- 2004 「原ひろ子(1934-) 『極北のインディアン』玉川大学出版部, 1979」 小松和彦ほか編 『文化人類学文献事典』 pp.561. 弘文堂 (2004.12.15)
- 2004 「岸上伸啓(1958-) 『極北の民—カナダ・イヌイット』弘文堂、1998」 小松和彦ほか編 『文化人類学文献事典』 pp.395. 弘文堂 (2004.12.15)
- 2004 「ボゴラス、ウラジミール(1865-1936) The Chukchee 1904-1909, Chukchee Mythology 1910, The Eskimo of Siberia」 小松和彦ほか編 『文化人類学文献事典』 pp.608. 弘文堂 (2004.12.15)
- 2004 「ヨヘルソン、ウラジミール(1855-1937) The Koryak 1908, The Yukaghir and the Yukaghirized Tungus 1926, The Yakut, 1933」 小松和彦ほか編 『文化人類学文献事典』 pp.671-672. 弘文堂 (2004.12.15)
- 2004 「先住民権をめぐる論争」 小松和彦ほか編 『文化人類学文献事典』 pp.790. 弘文堂 (2004.12.15)
- 2004 「[資料と情報] 開発援助と人類学:デンマークとスウェーデンの場合」 『民博通信』 106: 22-23. (2004.9.30)
- 2004 「カナダ・イヌイット社会における海獣狩猟と分配をめぐる政治経済:ケベック州アクリヴィック村の事例から」 「第 19 回北方民族文化シンポジウム 北太平洋沿岸の文化—政治経済と先住民社会—発表要旨集」 pp.6. 網走市: (財)北方文化振興協会/北海道立北方民族博物館 (2004.10.16)
- 2004 「カナダ・イヌイット社会における野生生物資源の管理に関する覚え書き」 特定領域『資源人

- 類学』総括班編 pp.282-285.『資源の分配と共有に関する人類学的統合領域の構築—象徴系と生態系の関連をとおして』（中間成果論集） 東京：特定領域『資源人類学』総括班（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）（2004.8.10）
- 2004 「カナダ先住民イヌイットの「優雅な」生活」 『月刊みんぱく』 6月号 pp.22-23.（2004.6.15）
- 2004 「水産資源の利用と流通：総論と問題提起」 日本文化人類学会第38回研究大会準備委員会編『2004年度日本文化人類学会 第38回研究大会研究発表抄録』, pp.55.東京：東京外国語大学アジア・アフリカ研究所（2004.6.5）
- 2004 Contemporary Inuit Food Sharing. Abstracts of the 5th International Congress of Arctic Social Sciences (ICASS V), pp.57. Fairbanks, AK: University of Alaska, Fairbanks.
- 2004 「X I .北極 民族」 国立極地研究所編 『南極・北極の百科事典』 pp.477-482. 東京：丸善出版.（3.30）
- 2004 「イヌイット社会とシロイルカ資源」 『総研大ジャーナル』 5:17-19.
- 2004 「イヌイットと環境汚染問題」 『人権ジャーナル きずな』3月号 p.10. 財団法人兵庫県人権啓発協会
- 2004 「先住民イヌイットの現在」 『人権ジャーナル きずな』2月号 p.10. 財団法人兵庫県人権啓発協会
- 2004 「環境人類学を学ぶ人のための読書案内」 『環境人類学を学ぶ人のために』（パトリア・K・タウンゼンド著 岸上伸啓・佐藤吉文訳） pp.173-197. 京都：世界思想社
- 2004 「先住民イヌイットの権利」 『人権ジャーナル きずな』1月号 p.10. 財団法人兵庫県人権啓発協会
- 2004 「イヌイットのタペストリー」 『月刊みんぱく』1月号 表紙裏
- 2003 「カナダ・イヌイットとの体験—人類学の応用—」 『国立民族学博物館公開講演会 国際協力の現場から—人類学者の私的実践—』 pp.9-13. 大阪：国立民族学博物館
- 2003 「プロジェクト：水産資源の持続的利用をめざして」 『民博通信』 105：18-19
- 2003 「カナダ・イヌイットの研究を志して」 『日本カナダ学会関西地区便り』 p.8.（2003.11.28）
- 2003 「ワタリガラス」 『月刊みんぱく』編集部編 pp.195-197. 『世界民族博物誌』 八坂書房
- 2003 「サトウカエデ」 『月刊みんぱく』編集部編 pp.117-119. 『世界民族博物誌』 八坂書房
- 2003 「ホッキョクグマ」 『月刊みんぱく』編集部編 pp.303-305. 『世界民族博物誌』 八坂書房
- 2003 Co-management Problems and the Use of Common Marine Resources. Abstract Booklet, International Association for the Study of Common Property (IASCP), Northern Polar Regional Conference: Joining the Northern Commons: Lessons for the World, Lessons from the World”, pp.13. Anchorage: The Institute of the North at Alaska Pacific University.
- 2003 Conferences: New Interdisciplinary Approaches to the Study of Indigenous Use and Management of Migratory Marine Resources. Minpaku Anthropology Newsletter 16:13-14.
- 2003 「カナダ・イヌイットとアート」 小山修三ほか編 『アボリジニ現代美術展「精霊たちのふるさと」』 pp. 29-31.東京：(株)現代企画室（2003.7.20）

- 2003 「先住民社会の歴史と海洋資源の利用ー北米極北地域および北西海岸地域の事例ー」 北海道立北方民族博物館編 『第18回特別展図録 先住民社会と水産資源ーサケ・海獣・ナマコー』 pp.37-47. 網走：北海道立北方民族博物館 (2003.7.18)
- 2003 「カナダ・イヌイットの歴史と文化」『紅葉とオーロラを楽しむカナダ』(カルチャーガイド<トラベラー10) pp.150-153. 東京：トラベルジャーナル (2003.7.23)
- 2003 「極北の衣装」国立民族学博物館編集『国立民族学博物館展示ガイド』(改訂新版) p.17. 大阪：国立民族学博物館 (2003.7.1)
- 2003 「ガラス玉首飾り」国立民族学博物館編集『国立民族学博物館展示ガイド』(改訂新版) p.17. 大阪：国立民族学博物館 (2003.7.1)
- 2003 「トーテムポール」国立民族学博物館編集『国立民族学博物館展示ガイド』(改訂新版) p.19. 大阪：国立民族学博物館 (2003.7.1)
- 2003 「石彫像」国立民族学博物館編集『国立民族学博物館展示ガイド』(改訂新版) p.19. 大阪：国立民族学博物館 (2003.7.1)
- 2003 「カナダ極北地域における環境汚染とイヌイットの対応/ Environmental Pollution and Inuit Responses to It in Arctic Canada」日本カナダ学会編集『日本カナダ学会 第28回年次研究大会プログラム・報告要旨』 pp.23-24 (2003.7)
- 2003 日本語版監修『北の国へ Nunavut Handbook』 東京：清水弘文堂 (2003.7.18)
- 2003 「日本語版監修者解説 イヌイットの現状」岸上伸啓日本語版監修、磯貝日月日本語版編集『北の国へ Nunavut Handbook』 pp.11-18. 東京：清水弘文堂 (2003.7.18)
- 2003 「石製彫刻 我が精霊と踊る」『月刊みんぱく』6月号 表紙裏(2003.6.5)
- 2003 「ハドソン湾の人びと コラム 1 コーラルハーバーに住むイヌイットたちの場合」『セブンシーズ』6月号 No.178. p.66.(2003.6.1)
- 2003 「カナダ極北地域におけるシロイルカ資源の共同管理について」『2003年 日本民族学会 第37回研究大会 プログラム・研究抄録』 日本民族学会第37回研究大会準備委員会編集 pp.54.(2003.5.24)
- 2003 「アラスカ先住民の交易」大塚和義編 pp.163-166. 『北太平洋の先住民交易と工芸』思文閣出版(2003.2.14)
- 2003 「ヌナヴト準州ーその成立と現状」綾部恒雄・飯野正子編 pp.181-185. 『カナダを知るための60章』明石書店(2003.1.31)
- 2003 「先住民族」『月刊みんぱく』編集部編 pp.65-67. 『世界の紛争』河出書房新社(2003.1.30)
- 2003 「なぜイヌイットは環境汚染に苦しんでいるのか」『月刊みんぱく』編集部編 pp.258-261. 『世界の紛争』河出書房新社(2003.1.30)
- 2002 Indigenous Use and Co-management of Beluga Whales in Nunavik (Arctic Quebec), Canada. Program and abstracts of Monbukagakusho International Symposium 2002: New Interdisciplinary Approaches to the Study of Indigenous Use and Management of Migratory Marine Resources, pp.13, 2 December. Osaka: National Museum of Ethnology.

- 2002 「World Art Gallery イヌイットの石製彫刻」『季刊民族学』102号 pp.72-80. 千里文化財団 (2002.10.20)
- 2002 「メープルリーフ」『月刊みんぱく』9月号 pp.20-21. 千里文化財団 (2002.9.5)
- 2002 「カナダ極北地域におけるシロイルカの捕獲と管理について：ヌナヴィク地域の事例を中心に」『日本海セトロジー研究会第13回大会発表要旨集』p.9. 日本海セトロジー研究会 (2002.6.15)
- 2002 「狩猟採集民社会における食物分配の再検討」『日本民族学会第36回大会プログラム・研究発表抄録』p.110. 日本民族学会 (2002.5.20)
- 2002 「みんぱく地球短信 3 カナダ極北地域 深刻化する環境汚染」読売新聞大阪本社版文化 3版 (13) (夕刊 平成14年5月7日)
- 2002 「ひと ジェームズ・サベールさん」『民博通信』96号 pp.55-56. (2002.3.29)
- 2002 「トゥピラク」『月刊みんぱく』3月号 pp.22-23. 千里文化財団(2002.3.5)
- 2002 「(味わい本 発見!)『父さんのからだを返して』ケン・ハーバー著／鈴木主税・小田切勝子訳『週刊ポスト』2月22日号 43(7):82.
- 2001 「北太平洋毛皮交易の遺産」『月刊みんぱく』12月号 pp.2-7. 千里文化財団
- 2001 「セイウチ牙細工」『月刊みんぱく』11月号裏表紙 千里文化財団
- 2001 「誌上フォーラム 北太平洋の先住民文化」(大塚和義・佐々木史郎・岸上伸啓)『季刊民族学』98号 pp.17-36.
- 2001 「書評 父さんのからだを返して」北海道新聞(朝刊 平成13年10月7日)
- 2001 「北太平洋における交易」大塚和義編 pp.91-94.『ラッコとガラス玉』千里文化財団
- 2001 「丸木舟」『月刊みんぱく』10月号裏表紙 千里文化財団
- 2001 「せかいのこども夢気球 カナダ 一人前のハンターに」毎日新聞(夕刊 大阪本社版 平成13年7月28日土曜日)
- 2001 「ひと ビクター・シュニレルマンさん」『民博通信』93号 pp.55-56.
- 2001 「ホッキョクグマ」『月刊みんぱく』3月号 pp.20-21. 千里文化財団 平成13年3月5日
- 2001 「北極圏・カナダ先住民民族(イヌイット・インディアン)」『部落問題・人権事典』
- 2000 「カナダ極北地域の海洋資源問題」朝日新聞(朝刊 大阪本社版)平成12年11月15日 水曜日)
- 2000 「クリー」「イテリメン」「コリヤーク」綾部恒雄監修 「世界民族事典」弘文堂
- 2000 Indigenous Management of Resources. Arctic Studies Center News Letter 8: 11.
- 2000 「<書評>ジェイムズ・ヒューストン著「北極で暮らした日々：イヌイット美術を世界に紹介した男」(1999年 どうぶつ社 小林正佳訳)」『民博通信』88号 pp.59-62.
- 2000 「北アメリカ・インディアン」月刊みんぱく 3月号 pp.22-23.
- 2000 「カナダ・イヌイットと飲酒」米山俊直、吉田集而著 pp.70-71. 『アベセデウス・マトリクス』世界文化社
- 2000 「紛争の文化人類学：カナダ極北地域の事件簿」『刑政』第111巻2号 pp.94-99.
- 1999 「イヌイットの滑石彫刻と版画」『月刊みんぱく』10月号 pp.8-10.

- 1999 「芸術にみる伝統と近代：イヌイットの滑石彫刻と版画」中牧弘允編 pp.42-45 『特別展解説書 越境する民族文化』千里文化財団（9月6日）
- 1999 「カナダの先住民政策の変遷と諸影響：イヌイットの場合を中心に（1）」『いずみ』第53巻8月号(622号) pp.28-33. いずみ社
- 1999 「伝統的なイヌイットの育児法は」『月刊みんぱく』編集部編 pp.119-121. 『100問100答世界の民族：生活百科』河出書房新社（7月23日）
- 1999 「カナダにイヌイットの準州誕生：同化強要から民族自立へ」読売新聞（夕刊）5月28日（金曜日）
- 1999 「現代のイヌイット」読売新聞（夕刊）「潮音、風音」4月23日（金曜日）
- 1999 「教育」読売新聞（夕刊）「潮音、風音」4月19日（月曜日）
- 1999 「国家と先住民」読売新聞（夕刊）「潮音、風音」4月16日（金曜日）
- 1999 「助け合い」読売新聞（夕刊）「潮音、風音」4月15日（木曜日）
- 1999 「時間」読売新聞（夕刊）「潮音、風音」4月14日（水曜日）
- 1999 「民族料理」読売新聞（夕刊）「潮音、風音」4月12日（月曜日）
- 1999 「宗教」読売新聞（夕刊）「潮音、風音」4月9日（金曜日）
- 1999 「極北の沙汰も金次第」読売新聞（夕刊）「潮音、風音」4月6日（火曜日）
- 1999 「親子関係」読売新聞（夕刊）「潮音、風音」4月8日（木曜日）
- 1999 「住めば都」読売新聞（夕刊）「潮音、風音」4月5日（月曜日）
- 1999 「資料と情報 文部省国際シンポジウム「岐路に立つ狩猟採集社会」開催および参加報告」『民博通信』84号 pp.96-104.
- 1999 「カナダ・イヌイットの現在」『国立民族学博物館友の会ニュース』No.126. p.4.
- 1998 「多文化主義の国家カナダと先住民」『月報地理』No.446:7-9. 二宮書店
- 1998 「北西海岸先住民の儀礼用具」『月刊みんぱく』1998年5月号 pp.12-13.
- 1998 「アベナキの歴史と文化」『月刊みんぱく』1998年2月号 pp.22-23.
- 1997 「極北の民イヌイット：歴史と現状」函館市文化・スポーツ振興財団 函館市北方民族資料館
- 1997 「ワタリガラス」『月刊みんぱく』1997年11月号 pp.20-21.
- 1997 「ヌナヴト、イヌイットの自治政府論」pp.274-275. 『史料が語るカナダ』 有斐閣
- 1997 「Q&A シベリア・エスキモーと新大陸のエスキモーとの違い」『月刊みんぱく』1997年4月号 pp.22-23.
- 1996 「イヌイットの現代サバイバル術」『月刊みんぱく』1996年11月号 pp.15-17.
- 1996 「Q&A エスキモーとイヌイット」『月刊みんぱく』1996年5月号 p.22.
- 1996 「研究ノート 函館市銭亀沢地区社会の諸相と変化について」『地域史研究 はこだて』19号 pp.51-57. 函館市史編さん室編
- 1996 「Q & A イヌイットの産着、おしめと子育て」『月刊みんぱく』1996年1月号 pp.22-23.
- 1996 「カナダ・イヌイット社会における名前と社会変化」『北海道民族学会通信』1995年度 pp.2-

3.

- 1995 「地域に生きる：函館市銭亀沢の人々」 『しゃりばり』 1995年4月号 No.158:42-45.
- 1995 「コリヤークの舟と生業」 北海道立北方民族博物館編 『北方民族の舟 北の海のすすめ』(第9回特別展図録) PP.55-58.
- 1995 「北太平洋諸沿岸文化の比較研究に関する一構想」 『人文論究』 第59号 p.95.
- 1995 「北米におけるイヌイットおよびユピックに関する文化人類学的研究の最近の動向と現状について: 1984年から1993年にかけて」 『北海道民族学会通信』 1994年度 94-1・2 pp.1-2.
- 1995 「カナダ・イヌイット」、「ヌナヴト」、「エスキモー」、「ハドソン湾会社」、「ユーコン準州」、「イヌイット周極会議」、「カナダ・イヌイット・タピリサット」、「カナダ北西準州」 『民族問題大事典』 平凡社
- 1994 「カナダ・イヌイット社会における学校教育について」 『北海道民族学会通信』 1993年度
- 1993 「研究動向：イヌイット・ユイット研究」 『北方学会報』 第2号 p.13-14 Trends of Studies: A Study on Inuit-Yuit Northern Studies Association Bulletin. No.2 November 1993 pp.3-4.
- 1993 「カナダ・イヌイットの現在」 『季刊 民族学』 64号 p61.
- 1993 「カナダ・イヌイット」 『世界の民 光と影』 下巻 24章 明石書店
- 1993 「極北の狩猟民カナダ・イヌイットの知恵」 『生命の織物』 第2章 女子パウロ会単行本編集部
- 1993 「ソリをひくイヌ：エスキモー犬」 『週間 朝日百科 動物たちの地球』 127号 12月5日 pp.213-217.
- 1993 「カナダ・イヌイット社会におけるニューメディア革命」 「Arctic Circle」 No.6. pp.15-17. 北海道立北方民族博物館
- 1993 「カナダ・イヌイットの自治権獲得：ヌナブット協定」 日本カナダ学会北海道ニュース 第8号 1993年3月25日
- 1991 『マスター・オブ・ジ・アークテック』(監修・訳) カナダ大使館
- 1991 「自然環境に適応する伝統の食生活とその変化(イヌイット)」 『ハッピー・エンド』(ハッピー・エンド通信社) 第6巻1号 pp.64-69.
- 1990 「カナダ・イヌイット(上・中・下) 世界の民 光と影：国家と近代文明のはざま(61・62・63)」 信濃毎日新聞(夕刊) 11月26日、27日、30日
- 1990 (監修本) 『極北のおもいで』 ノルミー・エコーミヤック作 大窪一志訳 リブレポート
- 1990 「極北の少数民族カナダ・イヌイットを訪れて」 『早稲田学報』 1005号 pp.6-9.
- 1990 「氷原の民の命を守った石製ランプ」 『季刊 民族学』 51号(14巻1号) p.70.
- 1985 「カナダ便り／イヌイットの現在」 『カナダ』(カナダ大使館紀要) No.59. p13.

口頭発表等

- 2024 「北米での北方研究 35 年を振り返る」北海道立北方民族博物館講座、同館講堂（オンライン併用）(2024.2.18)
- 2024 「カナダ北西海岸先住民の展示について」みんぱく創設 50 周年記念特別研究シンポジウム「特別展〈先住民の宝〉再訪：国立民族学博物館における少数／先住民展示の試み」国立民族学博物館第 4 セミナー室 (2024.1.20)
- 2023 「カナダ北西海岸先住民のスクリーン版画の世界」民族藝術学会第 170 回研究例会、国立民族学博物館第 6 セミナー室において (2023.12.9)
- 2023 「アラスカ先住民のホッキョククジラ猟——イヌピアットにとってクジラとは何か」2023 年度勇魚会シンポジウム、国立民族学博物館第 4 セミナー室(2023.12.2)
- 2023 「北アメリカ北西海岸地域の先住民アート——シルクスクリーン版画を中心に——」第 539 回みんぱくゼミナール、国立民族学博物館インテリジェントホール（講堂）において(2023.11.18)
- 2023 “Social Change and Indigenous Art of Northwest Coast Peoples” The International Symposium “Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific” National Museum of Ethnology, Osaka, Japan (November 5, 2023)
- 2023 “Research Trends in Anthropological Studies of Indigenous Cultures and Societies in the North Pacific Rim” The International Symposium “Prehistory, Language and Culture of Indigenous Societies in the North Pacific” National Museum of Ethnology, Osaka, Japan (November 3, 2023)
- 2023 「アート制作から見た北アメリカ北西海岸先住民の社会・文化変化」第 541 回みんぱく友の会講演会、国立民族学博物館第 4 セミナー室において (2023.10.7)
- 2023 「カナダ北西海岸先住民の歴史とアート」カナダ大使館主催公開講演会「カナダ北西海岸先住民アートの世界—新たな挑戦」在日本カナダ大使館オスカー・ピーターソン・シアターにおいて (2023.9.18)
- 2023 「カナダ北西海岸先住民のスクリーン版画」日本カナダ学会第 48 回年次研究大会シンポジウム I「カナダ北西海岸先住民の文化とアート—変化と現状—」国立民族学博物館第 4 セミナー室においてハイブリッド開催(2023.9.16)
- 2023 「北アメリカ北西海岸先住民社会の変化と先住民アート：版画を中心に」日本文化人類学会第 57 回研究大会、県立広島大学において(2023.6.3)
- 2023 「はじめに——世界の捕鯨をめぐる現状と趣旨説明」一般公開シンポジウム「日本の商業捕鯨の現状を考える：環北太平洋地域研究の視点から」国立民族学博物館第 4 セミナー室(ハイブリッド形式)において (2023.5.28)
- 2023 「不確実性に関する研究報告に対するコメント」2022 年度フィールドネット・ラウンジワークショップ企画「不確実性と対話する人類学——法律・経済・芸術・宗教の現場から」(online) 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所及び東京外国語大学フィールドサイエンスコモンズ TUFiSCo 共催 (2023.3.11)
- 2023 Indigenous Well-Being in the Arctic Region of North America. Paper read at session R9 “ Culture,

Language, and Environment” of the Seventh International Symposium on Arctic Research (ISAR-7) held at the National Institute of Polar Research, Tachikawa City, Tokyo, Japan (2023.3.9)

2023 Customary food sharing as a means for Arctic sustainability: Cases from the Inupiat in Alaska and the Inuit in Canada. Paper read at ID:22 “Arctic Sustainability Revisited: Developments, Transitions and Perspectives for the Next Decade” at the Arctic Science Summit Week (ASSW) 2023 held at University of Vienna. Online presentation (2023.2.23)

2022 「趣旨説明」(10月29日)および「文化人類学セッションコメント」(10月30日)一般公開シンポジウム「環北太平洋地域の先住民社会の先史、言語、文化」国立民族学博物館第4セミナー室において(2022.10.29-30)

2022 「人間文化研究の行方—文化人類学における課題と方法の新展開を中心に」総研大文化フェアラム2022(文化科学研究の行方)、国立民族学博物館・第4セミナー室において(2022.10.1)

2022 「基調講演 カナダ先住民の近代史と現状—北西海岸先住民を中心に」(ヴァーナ・ビリーミナバリエット氏欠席のため急遽、講演)日本カナダ学会第47回大会、ANAクラウンプラザ千歳において(2022.9.17)

2022 「先住民研究の課題および調査方法の変化と展望—北米北西海岸先住民研究を中心に」2022年度日本文化人類学会第56回大会、明治大学E会場1096において(2022.6.5)

2022 「『アイヌ民族に関する研究倫理指針』から考える、文化人類学の過去と未来にむけての展望」へのコメント」2022年度日本文化人類学会第56回大会倫理委員会特別シンポジウム、明治大学J会場1013において(2022.6.5)

2022 「北アメリカ北西海岸先住民アートの新たな展開」民族芸術学会第38回研究大会(オンライン開催)(2022.4.17)

2022 Cultural Security as a Key Factor for Local Well-Being among the Inupiat in Utqiagvik, Alaska. 1st Japan-Finland Seminar on the Arctic and East Asia (JAFSAS) (On Line Meeting) (2022.1.21)

2021 My Research Experiences with Inuit People in Akulivik, PQ, Canada (1984-2016). Panel Discussion: “Research of Global Issues in Local Communities”, RIHN Workshop of Food Life History of the North (Online Meeting) (2021.10.28)

2021 「環北太平洋地域の先住民文化に関する比較研究—大林太良と渡辺仁の視点」第35回北方民族文化シンポジウム網走「大林太良・学問と北方文化研究—大林太良先生没後20年記念シンポジウム—」2021年10月17日、北方文化振興協会・北海道立北方民族博物館主催(オンライン開催)。

2021 「ホッキョククジラとともに生きるアラスカの捕鯨民イヌピアット—変化し続ける人間と生き物の関係性—」2021年京都人類学研究会8月例会「環境のなかに「住まう」こと—生物(いきもの)がつむぎ、つむがれる世界へ」(Zoom会議)(2021.8.21)

2021 「人間文化研究機構における地域研究の展開—北東アジア地域研究を中心に—」東北大学東北アジア研究センター創設25周年記念国際シンポジウム「変容する環境のダイナミズム」総合セッション「東北アジア地域研究の今」@オンライン開催(2021.6.26)

2021 「北アメリカ先住民の社会・文化変化と疫病—北西海岸先住民ハイダを事例として」日本文化人

- 類学会第 55 回研究大会、京都大学 B 会場（オンライン開催）（2021.05.29）
- 2021 「カナダ太平洋沿岸地域における先住民のトーテムポール」和歌山県美浜町カナダ・ミュージアム第 4 回公開オンライン講座（2021.5.8）
- 2020 「北アメリカ北西海岸先住民と生き物の不思議な関係：ワタリガラスを中心に」生き物文化誌学会第 79 回例会、国立民族学博物館第 5 セミナー室において（2020.10.31）
- 2020 「トーテムポール カナダ北西海岸先住民の宝」第 505 回国立民族学博物館友の会講演会、民博講堂において（2020.10.3）
- 2020 「食料の主権」からみたアラスカ先住民社会における生業活動の重要性—イヌピアットの捕鯨を事例として」日本文化人類学会第 54 回研究大会（ズーム会議）（2020.5.31）
- 2020 「コンピュータが読む人間文化」第 38 回人間文化研究機構シンポジウム「デジタル・ヒューマニティーズってなに？～コンピュータがひもとく歴史の世界～」、日比谷図書文化館日比谷コンベンションホール（大ホール）（2020.1.25）
- 2019 「極北の極寒に耐えるイヌイット—毛皮服の秘密—」「世界のかわいい衣装」展ギャラリートーク、阪急うめだ本店 9 階ギャラリーにおいて（2019.11.24）
- 2019 「北米アラスカ・北西海岸研究からみた環北太平洋沿岸諸先住民文化の比較研究の展望」第 34 回北方民族文化シンポジウム網走「環北太平洋地域の伝統と文化 4 アラスカ・ユーコン地域」、網走市オホーツク・文化交流センターにおいて（2019.10.5）
- 2019 「環北太平洋沿岸地域におけるカナダ西海岸先住民文化の位置づけ—新たな地域研究の視座」日本カナダ学会第 44 回年次研究大会、鹿児島純心女子大学において（2019.9.8）
- 2019 Food Security and Sovereignty Problems among the Inupiat in Utqiagvik, Alaska, USA. A Paper Read at the IUAES 2019 Inter-Congress “World Solidarities” at Morasko Campus, Adam Mickiewicz University in Poznan, Poland（2019.8.29）
- 2019 「環北太平洋地域における先住民文化の比較研究に関する一考察：歴史、現状、未来」日本シベリア学会第 5 回研究大会、同志社女子大学において（2019.6.8）
- 2019 「分科会『『布施』とは何か』のコメント」第 53 回日本文化人類学会研究大会、東北大学において（2019.6.2）
- 2019 「人間とクジラの関係の歴史的变化に関する一考察—アラスカ先住民イヌピアットとホッキョククジラを中心に」第 53 回日本文化人類学会研究大会、東北大学において（2019.6.1）
- 2018 「環北太平洋地域の先住民族に関する研究史—日本人による研究を中心に」第 6 回公開研究会「日本常民文化研究所所蔵資料からみるフィールドサイエンスの史的展開」、神奈川大学日本常民文化研究所において（2018.12.21）
- 2018 「世界の捕鯨の現状と諸課題」共同研究集会「現在気候下におけるグリーンランド氷床質量変動メカニズム解明」セッション「捕鯨・生業」、北海道大学低温科学研究所講堂において（2018.12.19）
- 2018 特別講演「環北太平洋沿岸地域の先住民文化に関する人類学的研究の歴史と現状」日本言語学会学会設立大会、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所マルチメディア会議室（2018.12.8）
- 2018 「総論—世界の捕鯨の歴史と現状」一般公開講演会「世界の捕鯨を考える」、国立民族学博物館

第4セミナー室にて(2018.12.2)

2018 “History and Contemporary Situations of Whaling in the World” International Symposium “Whaling Activities and Issues in the Contemporary World”, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan (2018 November 30)

2018 「アラスカ先住民社会における捕鯨文化の現状—米国アラスカ州バロー村のイヌピアットの事例を中心に」第10回北極クラブ例会、東京資源会館において(2018.10.27)

2018 「進歩したデジタル化技術を通じた文化的概念と実践の共有：多様な利用者のための多機能アーカイブズとインターフェースに向けて (Erich Kasten) へのコメント」第33回北方民族文化シンポジウム 網走「環北太平洋地域の伝統と文化 (3)カムチャツカ半島・千島列島」網走市オホーツク・文化交流センター大会議室(2018.10.6)

2018 「絶滅危惧生物と人の交わり—捕獲、鑑賞、保全を中心に—」第480回国立民族学博物館友の会講演会、国立民族学博物館第5セミナー室にて(2018.9.1)

2018 Inupiat Whalers’ Interaction with Bowhead Whales in Northwest Alaska, USA. A paper read (in absentia) at the panel 20: Handle with care: humans and their interactions with animals, at CHAGS XII, Universitii Sains Malaysia, Penang (July 25, 2018)

2018 “Bowhead Whale Hunts as a Cultural Core among the Contemporary Inupiat in Barrow, Alaska, USA” Paper read at Slavic-Eurasian Research Center 2018 Summer International Symposium “On Land, Water and Ice: Indigenous Societies and the Changing Arctic”, Slavic-Eurasian Research Center, Hokkaido University, Sapporo, Japan (2018.July 6)

2018 「ホッキョククジラとアラスカ先住民イヌピアット」生き物文化誌学会第16回学術大会（東京大会）、立正大学石橋湛山記念講堂(品川キャンパス)にて(2018.6.23)

2018 “Inupiat Dance and Embodied Memories.” The Twenty-Third “Science in Japan” JSPS Forum: Memory and the Museum, National Museum of the American Indian in Washington DC.,USA (June 15, 2018)

2018 「カナダ北西海岸地域における先住民によるホエール・ウォッチング・ビジネス その可能性と問題点」日本文化人類学会第52回研究大会、弘前大学総合教育棟において(2018.6.3)

2018 「分科会10 肉のポリティックス—人獣関係における産業化・権力・宗教の発表に対するコメント」日本文化人類学会第52回研究大会、弘前大学総合教育棟において(2018.6.3)

2018 「北アメリカ極北地域および北太平洋沿岸地域における文化人類学・考古学の研究動向：人文学と自然科学の融合の可能性」2018年度北極環境研究コンソーシアム (JCAR)全体集会、幕張メッセ国際会議場3階301B号室において (2018.5.23)

2018 「環北太平洋沿岸地域における環境変動と先住民社会の変化に関する比較研究」第1回北極環境研究コンソーシアム(JCAR)北極域研究計画ワークショップ、国立極地研究所にて (2018.4.12)

2018 「北アメリカ・アラスカ地域におけるホッキョククジラと人類をめぐる歴史生態学」国立民族学博物館特別研究シンポジウム「歴史生態学から見た人と生き物の関係」、国立民族学博物館第4セミナー室において(2018.3.20)

- 2017 「北アメリカ北方地域における先住民文化の多様性と定量化」「パレオアジア文化史学」第4回研究大会、東京大学理学部2号館講堂(2017.12.9)
- 2017 「カナダ先住民のモノと精神文化—大平原地域と東部森林地域—」大阪府高齢者大学校「世界の文化に親しむ科」大阪府高齢者大学校にて(2017.12.8)
- 2017 「カナダ先住民の文明論—ヨーロッパ文明との遭遇を中心に」第36回比較文明学会関西支部例会、国立民族学博物館第6セミナー室において(2017.12.2)
- 2017 「カナダ先住民のモノと精神世界 (I): 極北地域と北西海岸地域」平成29年度大阪府高齢者大学校「世界の文化に親しむ科」、国立民族学博物館第5セミナー室において(2017.12.1)
- 2017 「カナダ北西海岸先住民の生活」川西市清和台公民館民族学講座「カナダ、北方先住民を調査する」(II)、川西市清和台公民館において(2017.11.29)
- 2017 「カナダ・イヌイットの生活」川西市清和台公民館民族学講座「カナダ、北方先住民を調査する」、川西市清和台公民館において(2017.11.22)
- 2017 「極北のアーティスト イヌイットの石製彫刻と版画について」高知大学人文社会科学部門研究プロジェクト「高知に関する人文学・社会科学研究的拠点づくり」研究会「イヌイットアートと和紙 和紙を通じて見る高知のグローバルなつながり」、高知県立高知城歴史博物館ホールにおいて(2017.10.28)
- 2017 「カナダにおける先住民の歴史と文化」阪神シニアカレッジ、国立民族学博物館第5セミナー室において(2017.10.27)
- 2017 「カナダ先住民と建国150年—北西海岸先住民を事例に」第471回国立民族学博物館友の会講演会、国立民族学博物館第5セミナー室において(2017.10.7)
- 2017 「カナダ先住民の文化のカーイヌイット・アートを中心に」民族藝術学会第149回研究例会、国立民族学博物館第6セミナー室において(2017.9.30)
- 2017 「多文化主義の国カナダにおける先住民文化」第472回みんぱくセミナー、国立民族学博物館講堂において(2017.9.16)
- 2017 「カナダ・イヌイット社会の歴史的变化と現状」一般公開国際シンポジウム「カナダ先住民の歴史と現状」日本カナダ学会第42回年次研究大会、国立民族学博物館第4セミナー室において(2017.9.9)
- 2017 Indigenous trading networks across the Bering Strait from the eighteenth to the twentieth centuries. Panel 262 at the 10th International Convention of Asian Scholars, Chiang Mai Exhibition and Convention Center, Thailand (July 23, 2017)
- 2017 「カナダの大自然と先住民文化の魅力—西から東、南から北へ訪ね歩く—」蔦屋・カナダ建国150周年記念フェア講演会、蔦屋書店枚方 T-SITE 4F カフェスペース(2017.7.15)
- 2017 「北太平洋沿岸における先住民社会と交易について—北太平洋地域の交流史の復元と同地域のグローバルヒストリーへの位置づけのための序論—」平成29年度第2回北東アジア地域研究月例研究会、国立民族学博物館第3演習室において(2017.7.13)
- 2017 「カナダ・イヌイット社会の変化」平成29年度川西市明峰公民館民族学講座「みんぱくを楽しもう～北方先住民の文化を知る」、川西市明峰公民館において(2017.6.19)
- 2017 Whaling Right and Animal Welfare. Session 8.10 “Recognition, protection and management of

- indigenous land resource rights in the Arctic – Domestic and international approaches”, the 9th International Congress on Arctic Social Sciences (ICASS IX), University of Umea, Sweden (June 11, 2017)
- 2017 Recent Trends in Inuit Migration to Southern Regions of Canada: A focus on Montreal. Session 22.2b “Arctic Dwellers on the Move: Studying social dynamics beyond the ethnicity lens”, the 9th International Congress on Arctic Social Sciences (ICASS IX), University of Umea, Sweden (June 8, 2017)
- 2017 「先住民生存捕鯨と動物福祉の問題」日本文化人類学会第 51 回研究大会、神戸大学において (2017.5.28)
- 2017 「(コメント) 人類社会における贈与、交換、分配」京都大学人類学研究会新歓講演会、京都大学稲森記念財団会館 3 階大会議室(2017.4.14)
- 2017 「北アメリカ・アラスカ地域における現代の先住民捕鯨と気候変動」平成 28 年度国立民族学博物館特別研究シンポジウム「歴史生態学から見た人と生き物の関係」国立民族学博物館において(2017.3.26)
- 2017 「基調講演 人類社会における自然環境や異文化との共生・共存について：アラスカ先住民イヌピアットの捕鯨文化を事例として」(招待講演) I-URIC フロンティアコロキウム 2016、ホテルアソシア静岡にて(2017.3.2)
- 2016 「アジア北方・極東地域の食文化ーロシア・カムチャツカ半島の先住民民族コリヤークを中心に」2016 年 12 月 20 日、浙江農林大学茶学院にて招待講義。
- 2016 「現代文明からみた生き物ークジラなどの野生動物の利用と保護をめぐる」みんぱく公開講演会「スイカで踊る、クジラを祭る 生き物と人 共生の風景」、(東京大手町) 日経ホールにて(2016.11.10)
- 2016 Sharing of Bowhead whale meat among the Inupiat in Barrow, Alaska, USA. A paper read at the International Conference “SHARING The Archaeology & Anthropology of Hunter-Gatherers” at McDonald Institute for Archaeological Research, University of Cambridge, UK (2016.9.20)
- 2016 「カナダ先住民の生活空間としての都市ーケベック州モンリオールを事例としてー」日本カナダ学会第 41 回年次研究大会、中央大学後楽園キャンパス 5 号館において(2016.9.10)
- 2016 「贈与論再考 人類社会における贈与・交換・分配・再分配の検討」日本文化人類学会第 50 回研究大会、南山大学 S 棟 B 会場(S-23) において(2016.5.29)
- 2016 「マルセル・モースの贈与概念と狩猟採集民の分配 アラスカのイヌピアット社会を事例として」日本文化人類学会第 50 回研究大会、南山大学 S 棟 B 会場(S-23) において(2016.5.29)
- 2016 「クジラとともに生きるーアラスカ先住民の現在ー」カレッジシアター「地球探求紀行」、あべのハルカス近鉄本店ウィングス館 9 階スペース 9 にて(2016.5.11)
- 2016 「民博のフォーラム型情報ミュージアム構想」国際ワークショップ「フォーラム型情報ミュージアムのシステム構築に向けてーオンライン協働環境作りのための理念と技術的側面の検討」国立民族学博物館・第 4 セミナー室において(2016.2.11)
- 2016 「地球温暖化とイヌイット」大阪府高齢者大学「世界の文化に親しむ科」(2016.1.15)
- 2015 「北アメリカの北太平洋沿岸地域と極北・亜極北地域の先住民文化に関する文化人類学研究の動向：日本人人類学者および日本の博物館・大学による貢献」第 30 回 北方民族文化シンポジウム 網走 ([第 30 回記念大会 北方民族 研究 30 年ー成果・課題・博物館の役割ー)、網走市オホツク・文化交

流センター大会議室(2015.10.24)

2015 A Comparative Study of Contemporary Indigenous Whale Hunts in North America. Session 42 “Aboriginal Whaling and Identity in the Twenty-First Century” of CHAGS 11, University of Vienna, Austria (September 9, 2015)

2015 「グリーンランドでの暮らし」大阪府高齢者大学「世界の文化に親しむ科」(2015.7.31)

2015 「アラスカ・イヌピアット社会における使者祭りの変化と現状について」日本文化人類学会第49回研究大会、大阪国際交流センター・E会場において(2015.5.31)

2015 “Inuit in Urban Centers: A Case Study from Montreal, PQ, Canada” 2015 Integrated International Conference of The Japan Studies Association of Canada (JSAC), Japanese Association for Canadian Studies (JACS), and Japan-Canada Interdisciplinary Research Network (JCIRN) at Embassy of Canada in Tokyo, May 21, 2015.

2015 “The Impact of Climate Change on Aboriginal Subsistence Whaling in Northwest Alaska: Inupiat Whalers, Bowhead Whales and Oil/Gas Development” Session B8: From Human Security to Geopolitical Dynamics in the Global Arctic: The Global Implications of Rapid Environmental, Economic, and Societal Change. The Fourth International Symposium on the Arctic Research (ASSW 2015), Toyama International Conference Center, Toyama, Japan (2015.4.30)

2015 「氷の島」に生きる人びとーグリーンランド・イヌイットの歴史と文化」第111回国立民族学博物館友の会東京講演会、モンベル渋谷ビル5Fサロンにて(2015.4.11)

2014 「アラスカ先住民イヌピアットと日本人の鯨食文化」平成26年度民族学講座「グローバル化時代の食文化」(和食のユネスコ無形文化遺産登録に寄せて)、川西市清和台公民館にて(2014.11.12)

2014 「はるかなる北の大地 グリーンランドの自然と人びとの暮らし」第437回みんなくゼミナール、国立民族学博物館講堂にて(2014.10.18)

2014 「気候変動は何をもたらしたか～世界最大の島グリーンランド～」、みんなく創設40周年記念特別講座 カレッジシアター「地球探求紀行」、あべのハルカス近鉄本店ウイング館9階「スペース9」にて(2014.10.8)

2014 「グリーンランドの歴史と現状」吹田市浜屋敷民博夜話、浜屋敷において(2014.9.12)

2014 「極北の孤島グリーンランドにおける気候変動と文化の変遷」第435回「国立民族学博物館友の会」講演会、国立民族学博物館第5セミナー室において(2014.9.6)

2014 The Inuit Bowhead Hunt and Indigenous Rights in Canada. Paper read at IUAES 2014, Makuhari Messe, Chiba, Japan (2014.5.15)

2014 “Low-income and Homeless Inuit in Montreal”, Public Lecture “Tokyo and Montreal – The Urban Lives of the Japanese Ainu and the Canadian Inuit Groups” (organized by the Japan Foundation, Canada), at Thomson House, McGill University (March 14, 2014)

2014 「北アメリカ先住民社会における捕鯨ー現状と歴史」(平成25年度芦屋市立公民館講座「民族学への招待ー世界の国々の文化探訪」)、芦屋市市民センターにて(2014.2.22)

2014 「アラスカ先住民イヌピアットの捕鯨文化」(園田・民博連携講座)、園田学園女子大学にて

(2014.2.21)

2014 「国立民族学博物館におけるフォーラム型情報ミュージアム構想について」 国際ワークショップ「伝統知、記憶、情報、イメージの再収集 と共有民族誌資料を用いた協働カタログ制作の課題と展望」国立民族学博物館において(2014.1.29)

2014 “The History and Present Situation of Comparative Studies of Indigenous Cultures around the North Pacific Rim” The International Symposium “Comparative Studies of Indigenous Cultures around the North Pacific Rim: Focusing on Indigenous Rights and Marine Resources”, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan (January 11, 2014)

2013 “Food Security Problems of the Inupiat in Northwest Alaska” 国際シンポジウム「食料の安全保障の人類学的研究」大阪大学・大学会館にて (2013.12.19)

2013 「北極海の捕鯨民イヌピアットの1年の暮らし」(北方博特別展関連講座・道民カレッジ連携講座) 北海道立北方民族博物館講堂において (2013.9.16)

2013 「Future Earth の必要性 文化人類学からの問題提起」日本学術会議主催学術フォーラム「Future Earth: 持続可能な未来の社会へ向けて」、日本学術会議講堂において (2013.6.18)

2013 「アラスカ先住民イヌピアットの鯨肉の分配と流通について」日本文化人類学会第47回研究大会、慶応大学三田キャンパスにおいて (2013.6.8)

2013 Homeless Inuit of Urban Centers in Canada: Results from Montreal Research. Paper read at the 73rd Annual Meeting of the Society for Applied Anthropology, Denver Marriott City Center Hotel, Denver, Colorado, USA (March 21, 2013).

2013 “Sharing and Distribution of Bowhead Whale Meat and Maktak in an Inupiat Community of Barrow, Alaska, USA.” Public Lecture delivered at UIC Science Center, Barrow, Alaska, USA (February 9, 2013)

2012 「アラスカ先住民イヌピアットの捕鯨と捕鯨祭」日本文化人類学会公開シンポジウム「食と儀礼をめぐる地球の旅 先住民文化からみたシベリアとアメリカ」東北大学片平さくらホールにおいて (2012.11.10)

2012 「全体のまとめ (concluding remarks)」第27回北方民族文化シンポジウム網走「環境変化と先住民の生業文化ー海洋生態系における適応ー」網走市オホーツク/文化交流センター大会議室において (2012.10.14)

2012 「カナダにおけるイヌイットのホッキョククジラ猟と先住民権」日本カナダ学会第37回年次研究大会セッションIII、関西大学において(2012.9.13)

2012 「カナダにおける都市先住民イヌイットをめぐる支援活動」(分科会「グローバル支援の人類学」代表者：鈴木紀) 日本文化人類学会第46回研究大会、広島大学において(2011.6.23)

2012 The Inuit’s Migration Patterns and Drastic Increase in Urban Centers of Canada. ICCS (International Council for Canadian Studies) International Conference, University of Ottawa (May 23, 2012)

2011 「セッションII 「文学と文化」へのコメント」日本カナダ学会第36回年次研究大会、大阪学院大学2号館にて (2011.9.17)

- 2011 “Aboriginal/Indigenous Subsistence Whaling in Alaska, USA.” (paper read by Dr. David Koester)
At the session 02.25: Salomon Fishing and Whaling Peoples of the North Pacific, ICASS (International Conference for Arctic Social Sciences) VII, Akureyri, Iceland on June 22, 2011 (2011 June)
- 2011 “Sharing and Distribution of a Bowhead Whale among the Inupiat in Barrow, Alaska.” (paper read by Dr. Peter Collings) At the session 03.60: The Social Economy of Sharing in the North American Arctic, ICASS (International Conference for Arctic Social Sciences) VII, Akureyri, Iceland on June 25, 2011 (2011 June)
- 2011 「米国アラスカにおけるイヌピアットの先住民生存捕鯨」日本文化人類学会第 45 回研究大会、法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて(2011.6.12)
- 2011 「米国アラスカにおける先住民生存捕鯨」人間文化研究機構主催国際シンポジウム「世界の捕鯨文化の過去、現在、そして未来」、国立民族学博物館第 4 セミナーにおいて(2011.3.11)
- 2011 “The Contemporary Inupiat Whaling in Barrow, Alaska.” A Public Lecture Delivered for the Barrow Arctic Science Consortium’s Schoolyard Project, 15 January, The UIC Barrow Arctic Research Center, Barrow, Alaska, USA.
- 2010 「20 世紀後半以降における先住民アートの展開ーイヌイット版画を中心に」比較文明学会第 28 回大会、池坊短期大学において (2010.11.28)
- 2010 「カナダにおける多文化共生について～イヌイットと北西海岸先住民を中心に～」平成 22 年度「日本/ユネスコ パートナリシップ事業」(ユネスコスクールにおける ESD 普及促進活動) 国際学院高等学校・講堂 (2010.11.1)
- 2010 「アラスカ先住民イヌピアットの捕鯨祭り[アプガウティ]と食物分配 アラスカ州バロー村の事例」日本文化人類学会第 44 回研究大会、立教大学観光学部において(2010.6.13.)
- 2010 「コメント：返還問題と民族学博物館の役割」国際研究フォーラム「文化遺産の返還とその再生ーアラスカ州コディアク島の仮面をめぐるー」(ジェイムズ・クリフォード講演) のパネル・ディスカッション、国立民族学博物館講堂において(2010.6.26)
- 2010 「北米先住民とミュージアム」けやきの森市民大学講座・民博連携講座「世界を見る窓・博物館 2」高槻市立生涯学習センター(2010.1.29)
- 2010 「先住民生存捕鯨をめぐる動きーアラスカを事例として」筑波大学大学院人文社会科学研究科インターファカルティ教育研究イニシアティブ IFERI 共同セミナー「先住民生存捕鯨をめぐる動き」筑波大学人文社会科学系棟 B620 において(2010.1.25)
- 2009 「開発と先住民：アラスカ・イヌピアットの先住民生存捕鯨を中心に」(みんぱく教員講演 (1)) 平成 21 年度若手研究者奨励セミナー、国立民族学博物館第 4 セミナー室において(2009.11.25)
- 2009 「北アメリカ極北先住民の食文化と社会変化ーカナダ・イヌイットとアラスカのイヌピアットを中心に」日本家政学会食文化研究部会第 22 回研究大会、実践女子大学香雪記念館において(2009.11.15)
- 2009 「カナダ北方を歩くー極北地域と北西海岸地域」川西市清和台公民館「民族学講座 世界の民族をたずねて」川西市清和台公民館にて(2009.11.11)
- 2009 「イヌイット・アートの歴史的展開」民族芸術学会第 116 回研究例会、国立民族学博物館第 3 セ

ミナー室において(2009.11.8)

2009 「カナダ先住民の文化的多様性：イヌイットと北西海岸先住民の現代アートを中心に」鹿児島国際大学カナダ・プロジェクト講演会「カナダの博物館と考古学」鹿児島国際大学附属図書館 4 階視聴覚ホールにおいて(2009.10.31)

2009 「趣旨説明」および「物理的な極限での人間の活動：北極の先住民と南極越冬隊」(渡邊研太郎氏との対談形式)総合研究大学院大学文化科学研究科開設 20 周年記念 文化科学研究科学術交流フォーラム 2009、シンポジウム「極限の文化—一人はどこで生きているか 生きられるか」国立民族学博物館第 5 セミナー室において(2009.10.18)

2009 「カナダ先住民のこれまでとこれから—生業と文化の権利を中心に」第 376 回「国立民族学博物館友の会」講演会、国立民族学博物館第 5 セミナー室にて(2009.10.3)

2009 「カナダの大自然や先住民が作りだしたすばらしい美」サイエンスカフェ in さんだ、キャッピーマール 6 階まちづくり協働センター講座室(2009.10.4)

2009 「カナダ先住民のいま—イヌイットと北西海岸先住民の世界」第 89 回「国立民族学博物館友の会」東京講演会 JICA 地球広場セミナールーム 302(2009.9.26)

2009 「イヌイット・アートの世界：極北からのメッセージ」第 376 回みんぱくゼミナール、国立民族学博物館講堂において(2009.9.19)

2009 “The Contemporary Inuit in North and South of Canada: Roles of Museums/Community Centers for Keeping Lifestyles and Identities of the Inuit Alive.” The 4th Conference of Pacific Asia Network of Canadian Studies, 12 September, the 4th Seminar Room, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan.

2009 「カナダにおける先住民アートの展開：シンポジウムの序論」日本カナダ学会第 34 回年次研究大会シンポジウム「カナダにおける先住民アートの展開：イヌイットと北西海岸先住民族のアート伝統」、国立民族学博物館第 4 セミナー室(2009.9.13)

2009 「極北—イヌイットの食文化」第 20 回食の文化ライブラリー公開講座、味の素研修センター大講義室(2009.6.20)

2009 「イヌイット・アートの歴史的展開と現状—滑石彫刻と版画を中心に」日本文化人類学会第 43 回研究大会、大阪国際交流センターにおいて(2009.5.31)

2009 「アラスカ先住民イヌピアックとホッキョククジラの関係の変化」人文地理学会第 266 回例会、大阪学院大学 2 号館 04 教室において(2009.4.18)

2009 「問題提起:みんぱくにおける実践人類学の展開—「文化人類学の社会的活用」一般公開シンポジウム「人類学の挑戦—これまでとこれから」国立民族学博物館第 5 セミナー室において(2009. 3.8.)

2009 「地球温暖化と極北開発—国家主権と多国籍企業、先住民の権利」第 187 回「国立民族学博物館友の会」午餐会、ホテル阪急インターナショナル・4 階「花風」の間において(2009.1.12)

2008 「アラスカ先住民社会における地球温暖化や国際規制による食糧問題」静岡県立大学 GEGLOS/大阪大学 GLOCOL 一般公開シンポジウム「世界各地の食事情に学ぶフード・セキュリティの未来」静岡県立大学・小講堂において(2008.12.6.)

2008 「先進国における援助事業への文化人類学(者)の活用についての現状と課題」第 6 回研究者と

実務者による国際協力勉強会(JICA 大阪・民博・阪大 GLOCOL セミナー)、JICA 大阪国際センターにおいて(2008.10.31.)

2008 “Why is Subsistence Activity Important to the Inupiat and Inuit ? : Considerations on Beluga Whale Hunting of the Nunavik Inuit in Canada and Bowhead Whale Hunting of the Inupiat in USA.” A Lecture Delivered for the Barrow Arctic Science Consortium’s National Science Foundation Schoolyard Project, 27 September, 2008, the UIC Research Center, Barrow, Alaska, USA.

2008 “A Cultural Anthropological Study of Subsistence Activities with a Special Focus on Indigenous Hunting and Fishing in the Arctic Regions” The 6th International Congress of Arctic Social Sciences (ICASS VI), 23 August, Ilimmarfik, Nuuk, Greenland.

2008 “Homeless Inuit in Montreal, Canada.” The 6th International Congress of Arctic Social Sciences (ICASS VI), 25 August, Ilimmarfik, Nuuk, Greenland.

2008 「人類学者×人類学者(3) カナダ先住民研究のバイオニア フランツ・ボアズ」第362回「国立民族学博物館友の会」講演会 国立民族学博物館第5セミナー室において(2008.8.2)

2008 「先進国における援助事業への文化人類学(者)の活用についての現状と課題」平成19年度JICA客員研究報告会 国際協力機構本部会議室12Cにおいて(2008.7.14)

2008 「文化人類学的生業モデルの構築—極北地域の先住民社会における狩猟採集活動を中心に」日本文化人類学会第42回研究大会京都大学共北31講義室(E会場)(2008.5.31.)

2008 「イヌイット研究と私」平成20年度関西大学社会学部新入生歓迎講演会 関西大学第3学舎301教室(2008.4.1)

2008 “Subsistence Activities of the Arctic People: The Sharing and Distribution of Food.” A Lecture Delivered for the Barrow Arctic Science Consortium’s National Science Foundation Schoolyard Project, 4 March, Inupiat Heritage Center, Barrow, Alaska, USA.

2008 “Urban Inuit in Canada: Their Life and Problems in Montreal.” A Lecture Delivered for the Barrow Arctic Science Consortium’s National Science Foundation Schoolyard Project, 1 March, UIC Science Center, Barrow, Alaska, USA.

2007 「極北のイヌイット社会と地球の温暖化」平成19年度南山大学人類学研究所講演会シリーズ「紛争と災害の文化人類学」、南山大学名古屋キャンパスD棟D21教室にて(2007.12.7)

2007 “Introduction to the International Development Cooperation of the Dutch Organizations and World Bank.”

The Fifth International Workshop on Development Cooperation: International Cooperation of the Institute of Social Studies (ISS) and NGOs in the Netherlands and World Bank, pp.3, 1 December. Osaka: National Museum of Ethnology.

2007 「『はまる』立場から／カナダ・イヌイット社会における経済開発：地域社会の経済論理と近代経済学の葛藤」地域研究コンソーシアム2007年度年次集会公開シンポジウム、東北大学片平さくらホール2階会議室(2007.11.10)

2007 「北アメリカ先住民のポトラッチ」日本文化人類学会一般公開シンポジウム「『もの』から見る

- 人間の社規と文化－贈りものの人類学－」神戸国際会館（2007.9.29）
- 2007 「極北の民族 イヌイット・エスキモー（北米）」 みんなく開館 30 周年記念講座「異文化を学ぶ」（毎日文化センター公開講座） 毎日文化センターにおいて （2007.7.20）
- 2007 「アラスカ先住民イヌピアックの捕鯨と獲物の分配・流通についての予備的考察」日本文化人類学会第 41 回研究大会 名古屋大学 IB 電子情報館（A 会場）（2007.6.2）
- 2006 “Introduction to the Symposium ‘Development Cooperation of Norway’” International Symposium “Development Cooperation of Norway: University of Bergen, CHR. Michelsen Institute, and NGOs”, 23 November, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan.
- 2006 「文化人類学は医療協力の役に立つのか？－医療従事者と人類学者の対話にむけて－」岸上伸啓・關雄二・尾崎敬子 第 47 回日本熱帯医学会・第 21 回日本国際保健医療学会合同大会、2006 年 10 月 13 日、長崎市ブリックホール
- 2006 「カナダ・イヌイットの食物分配について－分与と再分配－」日本文化人類学会第 40 回研究大会 東京大学駒場キャンパス 13 号館（H 会場）において、2006 年 6 月 4 日
- 2006 “Homeless Inuit in Montreal: How to Survive in the Hopeless City.” The Symposium Session: Aboriginal Peoples in Cities, Identity and Human Nature, The Canadian Anthropology Society Conference, 16 May, Concordia University, Montreal, PQ, Canada.
- 2006 「イヌイト・アート：極北からのおくりもの」（北海道立北方民族博物館・平成 17 年度企画展「イヌイト・アートの世界～光洋マテリアカ寄贈資料展～」講演会）、北海道立北方民族博物館講堂において、2006 年 2 月 4 日
- 2005 「都市イヌイットの生活と社会・経済問題」第 114 回東北人類学談話会、東北大学文学部・教育学部棟 2F 大会議室において、2005 年 12 月 21 日
- 2005 「カナダ極北地域の観光芸術：イヌイットの石製彫刻・版画・タペストリー」（京都嵯峨芸術大学附属博物館「観光芸術展－観光が育てた芸術作品－」記念講演会）京都嵯峨芸術大学 A V ホール、2005 年 12 月 10 日
- 2005 「ヒトを社会的に分類する－歴史的にみた民族概念と人種概念」 第 326 回「国立民族学博物館友の会」講演会 文化人類学への誘いシリーズ 基本編(2)「民族・人種」 国立民族学博物館第 5 セミナー室において 2005 年 8 月 6 日
- 2005 「カナダの都市イヌイットによるメディアの利用－モントリオールの場合」 日本文化人類学会第 39 回研究分科会「交渉の場としてのメディア－北方先住民の見方/見られ方」 北海道大学学術交流会館講堂（A 会場） 2005 年 5 月 22 日
- 2005 「北方先住民と開発－カナダ・イヌイットの場合」 日本文化人類学会第 39 回研究大会特別シンポジウム「北方研究からみえる人類学の今日的課題」北海道大学学術交流会館講堂（A 会場） 2005 年 5 月 21 日
- 2005 「極北のイヌイット・アート」 芦屋市立公民館講座「民族学への招待」 芦屋市民センターにて（2005.5.13）
- 2004 “Information and Material-resource Flow among the Urban Inuit: Research from Montreal,

Canada.” Revised AAA Session. Peripherals@the center.com: Inuit in Urban Spaces, 17 November, 2004, Gifford Room, Kroeber Hall, University of California, Berkeley.

2004 「カナダ・イヌイト社会における海獣狩猟と分配をめぐる政治経済：ケベック州アクリヴィク村の事例から」 第 19 回北方民族文化シンポジウム 第 2 部「資源と政治経済」 網走市オホーツク文化・交流センターにおいて (2004.10.16)

2004 「カナダ・イヌイトの文化と教育」 北海道教育大学「環北太平洋少数先住民族の文化と教育」プロジェクト 第 3 回研究会 北海道教育大学釧路校大会議室において (2004.10.19)

2004 「海を利用するひとびと—北方先住民の生業」 第 313 回国立民族学博物館友の会講演会 第 5 セミナー室において (2004.7.3)

2004 「水産資源の利用と流通：総論と問題提起」 2004 年度日本文化人類学会 第 38 回研究大会 B-3 分科会「水産資源の利用と流通：寒冷地域と熱帯地域との比較」、東京外大において (2004.6.5)

2004 “Contemporary Inuit Food Sharing.” The 5th International Congress of Arctic Social Sciences (ICASS V), 22 May, 2004, University of Alaska, Fairbanks.

2004 「カナダ先住民イヌイトから学ぶ～イヌイト社会の過去・現在・未来～」 宝塚市憲法週間記念事業セミナー「ともに生きる～マイノリティの視点から～」 宝塚市立西公民館において 5月17日

2004 「イヌイトと地球環境問題：カナダ極北地域におけるシロイルカの利用と環境汚染」 アスナール佐野民族学講座 (第 6 回) 泉佐野市立佐野公民館 3月27日

2004 「イヌイトの調査：カナダ・イヌイト社会におけるアザラシの捕獲と利用」 第 19 回北方圏国際シンポジウム「アザラシ分科会」 2月28日 紋別市文化会館において

2003 「カナダ・イヌイトとの体験—人類学の応用」 平成 15 年度 国立民族学博物館公開講演会「国際協力の現場から—人類学者の私的実践」(国立民族学博物館・日本経済新聞社共催) 日経ホール 12月19日

2003 「コメント：文化人類学者の視点から」 日本言語学会第 127 回研究大会 ワークショップ「アイヌ語現地調査の可能—「危機言語」調査の今後」 11月23日 大阪市立大学 1号館 137 教室において

2003 「カナダ極北地域における環境汚染とイヌイトの対応」 日本カナダ学会第 28 回年次研究大会 中央大学理工学部キャンパス 9月7日 2003 “Co-management Problems and the Use of Common Marine Resources.” International Association for the Study of Common Property (IASCP), Northern Polar Regional Conference “Joining the Northern Commons: Lessons for the World, Lessons from the World”, 19 August, 2003. The Captain Cook Hotel, Anchorage, USA.

2003 「北極海・北太平洋の資源利用と流通」 北海道立北方民族博物館特展「先住民社会と水産資源—サケ・海獣・ナマコ—」関連講演会 7月26日、北海道立北方民族博物館講堂において

2003 「カナダ極北地域におけるシロイルカ資源の共同管理について」 日本民族学会第 37 回研究大会 京都文教大学 5月24日

2002 “Indigenous Use and Co-management of Beluga Whales in Nunavik (Arctic Quebec), Canada.” Paper read at the Monbukagakusho International Symposium 2002, New Interdisciplinary Approaches to the Study of Indigenous Use and Management of Migratory Marine Resources, 3 December, 2002, National

Museum of Ethnology, Osaka, Japan.

2002 “General Introduction to the Symposium.” Paper read at the Monbukagakusho International Symposium 2002 “New Interdisciplinary Approaches to the Study of Indigenous Use and Management of Migratory Marine Resources”, 2 December, 2002, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan.

2002 “Indigenous Trade and Social Change of the Siberian Eskimos in the Bering strait Region during the 18–20th Centuries.” The International Symposium “The Raven’s Arch: Jesup North Pacific Expedition Revisited”, (at Tenjin-yama Guest House, Sapporo City, Japan, 27th, October, 2002).

2002 “A Typology of Food Sharing Practices among Hunter-gatherers, with a Special Focus on Inuit Examples.” The 9th International Conference on Hunting and Gathering Societies (CHAGS9), 10 September, 2002, Edinburgh Conference Centre, Heriot-Watt University, Edinburgh, Scotland.

2002 「カナダ極北地域におけるシロイルカの捕獲と管理について：ヌナヴィク地域の事例を中心に」日本海セトロジー研究会第13回大会（国立科学博物館新宿別館において）6月16日

2002 「狩猟採集民社会における食物分配の再検討」日本民族学会第36回研究大会 金沢大学文学部 6月1日

2001 “Living as an Inuk in Montreal: Social Networks and Resource Sharing.” Paper read at the 100th AAA Meeting “Boas and the Beyond: the State of the art in Inuit Studies.”, 28 November, 2001, Washington D.C.

2001 「ラッコとトーテムポール：北米北西海岸地域の先住民交易」第284回みんぱくセミナー 国立民族学博物館講堂（2001.12.15）

2001 「アラスカ・北アメリカ北西海岸地域における先住民交易」「アスナール佐野」民族学講座 泉佐野市立佐野公民館（2001.11.24）

2001 「アラスカ・北米北西海岸地域における毛皮交易について」みんぱく巡回セミナー 北海道開拓記念館大講堂（2001.10.27）

2001 “Indigenous Trading and Social Organization in the Bering Strait Region in 18th and 19th Centuries.” 平成13年度文部科学省国際シンポジウム「北太平洋における先住民交易と工芸」国立民族学博物館10月4日

2001 「カナダ極北地域における資源・環境問題について：イヌイットの対応を中心に」日本民族学会第35回研究大会 5月20日 神戸大学において

2001 “A New Form of Resource Sharing Practices among the Contemporary Nunavik Inuit in Canada.” 4th International Congress of Arctic Social Sciences (ICASS IV), 17th, May, 2001, Quebec City, Canada.

2001 “Inuit Identities in Montreal, Canada.” 4th International Congress of Arctic Social Sciences (ICASS IV), 17 May, Quebec City, Canada.

2001 「カナダ・イヌイットの海洋資源利用と管理をめぐる葛藤」「トランス・ボーダー・コンフリクトの研究」平成12年度第2回国際シンポジウム「紛争の海—北と南の水産資源とその管理をめぐる」平成13年1月23日国立民族学博物館において

2001 「イヌイットと環境汚染」（阪神シニアカレッジ 尼崎市立労働福祉会館）

- 2000 「地球時代の民族学」(吹田市国際交流協会主催 国立民族学博物館)
- 2000 “Identities of Inuit in Canada: Being an Inuk and Being one of the Inuit.” International Conference on Ethnicity and Identity in the North, ICNSA 3, 12–14 October, Sapporo, Japan.
- 2000 “Hunter Support Program of Nunavik, Canada: A Case Study from Akulivik.” 12th Inuit Studies Conference, 23–26 August, University of Aberdeen, Scotland.
- 2000 「カナダ・イヌイトによるシロイルカの捕獲と分配：海洋資源の利用と管理」日本民族学会第34回研究大会 5月20日 一橋大学において
- 1999 「エスニック・アートとイヌイト文化の表象：1999年度民博特別展示との関連で」重点研究プロジェクト アートと民族文化の表象：特別展「越境する民族文化」を中心に 国立民族学博物館において 12月15日
- 1999 「イヌイトの昔と今」高槻文化大学第一講座 高槻現代劇場 12月8日
- 1999 「先住民の文化の権利：カナダ・イヌイトを中心に」第2回危機言語シンポジウム 「言語・文化における権利」日本言語学会、国立民族学博物館 11月26日
- 1999 研究講演「現代の狩猟民・イヌイト：極北の風土と暮らし」佐野公民館・あすをひらくゼミナール「アスナル佐野」民族学講座II 第4回 泉佐野市立佐野公民館 7月24日
- 1999 「イヌイトの青年・中年と社会変化」日本民族学会第33回研究大会 東京都立大学 5月30日
- 1998 「北米の極北先住民社会におけるキリスト教の展開とその諸影響について」国立民族学博物館特別研究 「二〇世紀における諸民族文化の伝統と変容」シンポジウムVII 宗教と文明化の二〇世紀 国立民族学博物館 11月5日
- 1998 “Contemporary Inuit Food Sharing and Hunter Support Program of Nunavik, Canada.” The 8th International Conference on Hunting and Gathering Societies, 27 October, 1998, National Museum of Ethnology, Osaka, Japan.
- 1998 「都市居住のイヌイトの文化とアイデンティティ：モントリオールの場合」日本カナダ学会第23回年次研究大会 阪南大学 9月19日
- 1998 「北方諸民族の人名と命名について：エヴェン、コリヤーク、ユッピック、イヌイトの比較」第6回 北の文化シンポジウム 環オホーツク海文化のつどい 紋別市文化会館特別会議室 8月30日
- 1998 「カナダ・イヌイトはなぜ南をめざすのか：モントリオール居住のイヌイトの事例を中心に」日本民族学会第32回研究大会 5月23日 西南学院大学
- 1997 「カナダ・イヌイト社会の変化について」日本民族学会第31回研究大会 5月21日 国立民族学博物館
- 1996 「カナダ・イヌイトの名前と同名者について」比較家族史学会第29回研究大会 6月2日 明治学院大学
- 1996 「北太平洋沿岸文化圏における社会構造に関する比較研究試論」日本民族学会第30回研究大会 5月26日 静岡大学
- 1995 「カナダ・イヌイトの社会変化について」日本カナダ学会北海道研究会第3回 12月16日

北海学園大学にて

1995 “Personal Names, Name Souls and Social Change among Canadian Inuit: A Case Study of Akulivik Inuit, Nunavik, Canada.” International Conference on Animism and Shamanism in the North (ICNSA) Session 4 “Animism and Shamanism in the Inuit/Eskimos”, 14 October, 1995, Sapporo, Japan.

1995 「ロシア極東民族コリヤークの宗教と社会について」 日本民族学会第 29 回研究大会 1995 年 6 月 3 日 大阪大学

1995 「カナダ極北地域における社会変化の特質について」日本民族学会第 29 回研究大会 分科会「極北の民族学における真実と虚構」 大阪大学

1995 「カナダ・イヌイットの名前と社会変化」北海道民族学会平成 7 年度 第 1 回研究会 1995 年 5 月 20 日 小樽商科大学大学会館

1994 「北太平洋沿岸諸文化の比較研究に関する一構想」平成 6 年度 函館人文学会年次大会 1994 年 11 月 24 日 北海道教育大学函館校大会議室

1994 「カナダのヌナビック・イヌイットとクリー・インディアン社会の変容」早稲田大学北方言語文化研究会 平成 6 年度第 3 回例会 シンポジウム「狩猟民と採集民の現在」 1994 年 11 月 19 日 早稲田大学文学部第一会議室

1994 「北米にけるイヌイットおよびユピックに関する文化人類学的研究の動向と現状について」北海道民族学会 平成 6 年度 第一回研究会 北海道大学 5 月 21 日

1994 “Recent Trends and Current State of Inuit and Yupik Studies in the Field of Cultural Anthropology in North America: 1984–1993.” The International Symposium and Native Folk Festival: Art of Native Peoples in the North, 25–29, June, 1994, Magadan, Russia.

1994 “Extended Family and Food Sharing Practices among the Contemporary Netsilik Inuit: A Case Study of Pelly Bay, NWT, Canada.” (Read by Dr. G. Wenzel). 9th Inuit Studies Conference, 12–15 June, Arctic College, Nunatta Campus, Iqaluit, NWT, Canada.

1993 「カナダ・イヌイット社会における学校教育について：応用人類学としての教育人類学」北海道民族学会 平成 5 年度 第一回研究会 北海道大学 5 月 22 日

1992 「カナダの先住民イヌイットの社会と文化」 日本カナダ学会北海道地区研究会 北海学園大学 12 月 5 日

1992 “Animals in the Spiritual World of Canadian Inuit: With Special Reference to Dogs in the Netsilik Inuit Society.” The 7th International Abashiri Symposium “Animals in the Spiritual World of Northern Peoples”, 12 November, Abashiri, Hokkaido, Japan.

1992 「生活時間を通してみるカナダ・イヌイット社会の変化」 第 46 回日本人類学会・日本民族学会連合大会 大阪大学 10 月 24 日

1992 「現代のカナダ・イヌイット社会における食物分配について」第 3 回シンポジウム『環極北文化の比較研究』 ホテルダイナスティ (札幌) 6 月 13 日

1992 「現代のカナダ・イヌイット社会における食物分配について (その 2)」第 27 回日本民族学会研究大会 南山大学 5 月 23 日

- 1991 “Why Did the Canadian Inuit Become Christians?: A Review of the Hypotheses on the Christianization of the Canadian Inuit.” International Conference on Religion and Ecology in Northern Eurasia and North America (RENENA), October 15, 1991, University of Hokkaido, Sapporo.
- 1991 「現代のカナダ・イヌイット社会における食物分配について」第45回日本人類学会・日本民族学会連合大会 東京大学教養学部 10月12日
- 1991 「極北のメリー・クリスマス：カナダ・イヌイット社会の祝祭と交換の季節」平成三年度第一回函館人文学会例会 北海道教育大学函館分校 7月13日
- 1991 「カナダ・イヌイット社会のクリスマス・シーズンについて」平成三年度北海道民族学会第一回研究大会 北海道大学学術交流会館 5月11日
- 1990 「カナダ・イヌイット村落ペリーベイ村の社会構造について」第44回日本人類学会・日本民族学会連合大会 かながわサイエンスパーク 11月
- 1990 「カナダ・イヌイット社会における同名者関係について」第26回民族学会研究大会 国立民族学博物館 5月
- 1989 「カナダ・イヌイットの人名について」第43回日本人類・民族学連合大会 岡山理科大学 10月
- 1987 “A Perspective on Traditional Adoptive Practices and Historical Change among Arctic Quebec Inuit of Canada.” The 86th Annual Meeting of the American Anthropological Association, Chicago, November.
- 1987 “The Hudson’s Bay Company Trade and Seasonal and Non-Seasonal Geographical Movements among the Inuit of Northern Quebec.” The Annual Meeting of Canadian Ethnological Society, May, 1987, Laval University, Quebec City, Canada.
- 1985 “On Preferential Cousin Marriage among the Arviliguarmiut.” The 84th Annual Meeting of American Anthropological Association, December 1985, Washington D.C.
- 1984 “Rethinking of the Preferred First-Cousin Marriage among the Traditional Netsilik Inuit.” The 4th International Inuit Studies Conference, November 1984, Concordia University, Montreal, Canada, November.
- 1984 「エスキモーに関する民族学的研究の最近の動向について」第23回日本民族学会 5月 国立民族学博物館
- 1983 “Preliminary Observations on Traditional Play in Alaskan Eskimo Society.” (With H. Stewart). XIth International Congress of Anthropological and Ethnological Sciences, August, 1983, Vancouver, Canada. (スチュアートヘンリ共同発表)
- 1983 「高知市近郊漁村における祭祀活動の変化について」第22回日本民族学会 5月 埼玉大学
- 1981 「文化人類学における理論構築に関する一考察」早稲田大学社会学会

展示活動

- 2023 企画展「カナダ北西海岸先住民のアート—スクリーン版画の世界」(2023.9.7~12.12) (実行委員長)
- 2020 特別展「先住民の宝」(実行委員)
- 2018 企画展「アイヌ工芸品展「現れよ。森羅の生命—木彫家 藤戸竹喜の世界」(実行委員)
- 2017 企画展「カナダ先住民の文化のカー過去、現在、未来」(実行委員長)
- 2014 企画展「未知なる大地 グリーンランドの自然と文化」(実行委員長)
- 2011 特別展「千島・樺太・北海道 アイヌの暮らし」(実行委員)
- 2010 アメリカ展示新構築(「イヌイットの版画」コーナーの担当)
- 2009 特別展「自然のこえ 命のかたち—カナダ先住民の生み出す美」(実行委員長)
- 2003 地域テーマ展示「極北のイヌイット・アート」
- 2003 アメリカ展示場リニューアル 担当
- 2002 コレクション展示「極北のイヌイットアート」(実行委員長)
- 2001 特別展「ラッコとガラス玉：北太平洋の先住民交易」(実行委員として北アメリカ北太平洋沿岸地域の展示を担当)
- 1999 特別展「越境する民族文化」(実行委員としてイヌイット・アートの展示を担当)

データベース等

- 2018 「北米北方先住民関連文化資源データベース」(2018.3.30 一般公開、以降毎年度更新)
<https://ifm.minpaku.ac.jp/canada/>